DENON

AV サラウンドアンプ

AVC-4310

取扱説明書

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。
- この製品は出張修理対象製品です。
  詳しくは、「保証と修理について」（☞112 ページ）をご覧ください。

GUI Graphical User Interface

本書は、GUI 画面に表示される操作ガイドと一緒にご覧ください。

GUI メニュー操作（☞29 ページ）
GUI メニューマップ（☞28 ページ）
リモコン操作（☞91 ページ）

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜け

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜け

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水をかけたり、濡らしたりしない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

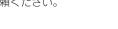
風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意

禁止

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施

禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

必ず実施

禁止

電池を交換するときは

- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

移動させるときは

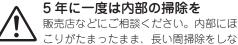
まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

5 年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

目次

ステレオ音のエチケット

- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

再生までのながれ

本機の再生までのながれは、次の順番でおこなってください。

接続

スピーカーを設置 / 設定する（☞14 ページ）
⇩
スピーカーを接続する（☞16 ページ）
⇩
機器を接続する（☞17 ページ）
⇩
電源を入れる（☞27 ページ）

設定

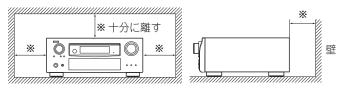
Audyssey オートセットアップ（☞31 ページ）
⇩
マニュアル設定（☞38ページ）
※ "マニュアル設定" は、必要に応じて設定してください。
⇩
ソース選択（☞52 ページ）

再生

機器を再生する（☞58 ページ）
⇩
サラウンドモードを選ぶ（☞69 ページ）
⇩
音声や映像の調整をする（☞72 ページ）

使用上のご注意

設置について

本機内部の放熱を良くするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置でご使用ください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露（つゆつき）について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部）に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を入れたまま 1 ～ 2 時間放置してから使用してください。

準備

付属品を確認する

ご使用の前にご確認ください。

① 取扱説明書（本書）………1
② 簡単セットアップガイド………1
③ 保証書（梱包箱に貼付）………1
④ 製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内………1
⑤ 電源コード（長さ：約 1.9m）【本機専用】………1
⑥ リモコン（RC-1116）………1
⑦ 単３形アルカリ乾電池………2
⑧ セットアップマイク
（DM-A409、コードの長さ：約 7.6 m）………1

⑤　⑥　⑧

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

リモコンについて

付属のリモコン（RC-1116）は、本機の操作以外に次の機器の操作もできます。

① DENON 製コンポーネント製品
② DENON 製以外のコンポーネント製品
- DENON 製以外のコンポーネント製品を操作する場合には、プリセットコードの登録が必要です（☞92 ページ「プリセットコードを登録する」）。
- お手持ちの AV 機器が DENON 以外の製品の場合やプリセットコードの登録をおこなっても操作できない場合は、他機のリモコン信号を本機のリモコンに記憶させてご使用ください（☞96 ページ「学習機能」）。

乾電池の入れかた

①つまみを引き上げながら、裏ぶたを取り外す。

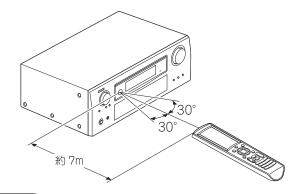
②乾電池（２本）を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。

③裏ぶたを元通りにする。

ご注意

- リモコンには単３形アルカリ乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作しても本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示通りに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例にしたがって処理をしてください。

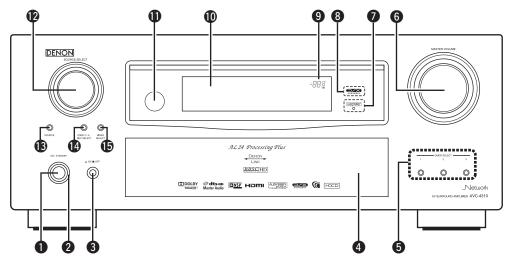
リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。

ご注意

リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。

各部の名前

フロントパネル

各部のはたらきなど詳しい説明については、（ ）内のページを参照してください。

❶ 電源ボタン（ON/STANDBY）………（27）

❷ 電源表示………………………………（27）

❸ 電源スイッチ（▁ON ■OFF）………（27）

❹ ドア
ドアの中にあるボタンや端子をご使用になるときにドアの下の部分を押すと、ドアが開きます。ドアの中にあるボタンや端子を使用しないときに、ドアを閉めておくこともできます。ドアの開閉の際に、指などを挟まないようご注意ください。

❺ クイックセレクトボタン
（QUICK SELECT）………………………（83）

❻ 主音量調節つまみ
（MASTER VOLUME）……………………（67）

❼ AUDYSSEY
DYNAMIC VOLUME 表示……………（74）

❽ AUDYSSEY DSX 表示 ………………（76）

❾ 主音量表示

❿ ディスプレイ ……………………………（8）

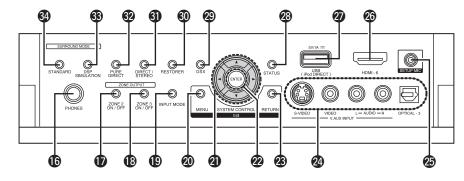
⓫ リモコン受光部 …………………………（6）

⓬ 入力ソース切り替えつまみ
（SOURCE SELECT）……………………（30）

⓭ ソース切り替えボタン
（SOURCE）………………………………（30）

⓮ ゾーン 2/3 / 録音出力切り替えボタン
（ZONE 2/3 / REC SELECT）…（80, 89）

⓯ ビデオセレクトボタン
（VIDEO SELECT）………………………（55）

【ドアを開いた状態】

⓰ ヘッドホン端子（PHONES）…………（67）

⓱ ゾーン 2 用電源ボタン
（ZONE2 ON/OFF）………………………（89）

⓲ ゾーン 3 用電源ボタン
（ZONE3 ON/OFF）………………………（89）

⓳ 入力モード切り替えボタン
（INPUT MODE）…………………………（56）

⓴ メニューボタン（MENU）………………（28）

㉑ カーソルボタン（△▽◁ ▷）…………（29）

㉒ エンターボタン（ENTER）……………（29）

㉓ リターンボタン（RETURN）…………（29）

㉔ V.AUX 入力端子
（V.AUX INPUT）…………………………（23）

㉕ セットアップマイク端子
（SETUP MIC）……………………………（32）

㉖ HDMI 入力端子（HDMI IN）…………（18）

㉗ USB（iPod DIRECT）端子 …………（24）

㉘ ステータスボタン（STATUS）………（78）

㉙ DSX ボタン……………………………（76）

㉚ RESTORER ボタン……………………（77）

㉛ ダイレクト / ステレオボタン
（DIRECT/STEREO）……………………（71）

㉜ ピュアダイレクトボタン
（PURE DIRECT）…………………………（71）

㉝ DSP シミュレーションボタン
（DSP SIMULATION）……………………（71）

㉞ スタンダードボタン
（STANDARD）……………………………（69）

ご使用になる前に
接続
設定
再生
マルチゾーン
リモコン操作
その他の情報
故障かな？と思ったら
保証と修理
主な仕様

ディスプレイ

❶ **入力信号表示**

❷ **入力信号チャンネル表示**
デジタル信号が入力されているときに点灯します。
再生しているHDオーディオソースに拡張チャンネル（フロント / センター / サラウンド / サラウンドバック /LFE以外のチャンネル）が含まれる場合は、“EXT1”表示が点灯します。拡張チャンネルが2種類以上含まれる場合は、“EXT1”と“EXT2”表示が点灯します。

❸ **インフォメーションディスプレイ**
入力ソース名、サラウンドモード、設定値などを表示します。

❹ **出力信号チャンネル表示**

❺ **サラウンドスピーカー表示**
サラウンドスピーカーA、Bの設定に合わせて点灯します。

❻ **モニター出力表示**
HDMIモニター出力の設定（☞42ページ“モニター出力”）に合わせて点灯します。“オート（デュアル）”に設定されているときは、接続状態に合わせて点灯します。

❼ **クイックセレクト表示**

❽ **主音量表示**

❾ **ミュート表示**
ミューティング中に点灯します（☞67ページ）。

❿ **パーティー表示**
パーティーモード中に点灯します（☞83ページ「同じネットワークに接続されている機器間で同じネットワークオーディオを楽しむ（パーティーモード機能）」）。

・**ORGANIZER**
オーガナイザー（親機）としてパーティーモードを開始しているときに点灯します。

・**ATTENDEE**
アテンディー（子機）としてパーティーモードに参加しているときに点灯します。

⓫ **AUDYSSEY MULTEQ XT表示**
“Dynamic EQ”（☞74ページ）と“Dynamic Volume”（☞75ページ）の設定により、次のように点灯します。

- AUDYSSEY MULTEQ XT DYN VOL ：“Dynamic EQ”および“Dynamic Volume”の設定が“オン”のとき
- AUDYSSEY MULTEQ XT DYN EQ ：“Dynamic EQ”の設定が“オン”、“Dynamic Volume”の設定が“オフ”のとき
- AUDYSSEY MULTEQ XT ：“Dynamic EQ”および“Dynamic Volume”の設定が“オフ”のとき

⓬ **スリープタイマー表示**
スリープタイマーモードが設定されているときに点灯します（☞82ページ）。

⓭ **RESTORER表示**
RESTORERモードが選ばれているときに点灯します（☞77ページ）。

⓮ **マルチゾーン表示**
各ゾーンの電源が入っているときに点灯します。

⓯ **AL24表示**
AL24 Processing Plusが動作しているときに点灯します（☞102ページ）。

⓰ **入力モード表示**

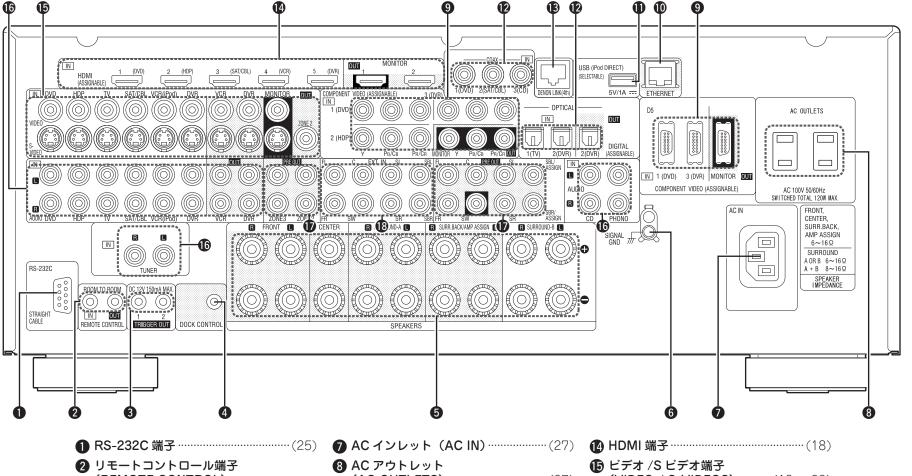
⓱ **DENON LINK表示（D.LINK）**
DENON LINK接続で再生しているときに点灯します（☞80ページ「スーパーオーディオCDを再生する」）。

⓲ **HDMI表示**
HDMI接続で再生しているときに点灯します。

⓳ **録音出力ソース表示**
REC OUTモードが選ばれているときに点灯します（☞80ページ）。

⓴ **デコーダー表示**
各デコーダーが動作しているときに点灯します。

リアパネル

❶ RS-232C 端子 ……………………………(25)

❷ リモートコントロール端子
（REMOTE CONTROL）
将来的な拡張用端子です。

❸ トリガー出力端子
（TRIGGER OUT）…………………………(25)

❹ ドックコントロール端子
（DOCK CONTROL）……………………(19)

❺ スピーカー端子（SPEAKERS）………(16)

❻ アース端子（SIGNAL GND）…………(21)

❼ AC インレット（AC IN）………………(27)

❽ AC アウトレット
（AC OUTLETS）…………………………(27)

❾ コンポーネントビデオ /D5 端子
（COMPONENT VIDEO）……（19 ～ 21）

❿ イーサネット端子（ETHERNET）…（26）

⓫ USB（iPod DIRECT）端子 …………（24）

⓬ デジタル音声端子
（OPTICAL / COAXIAL）……（20 ～ 22）

⓭ DENON LINK 端子………………………（23）

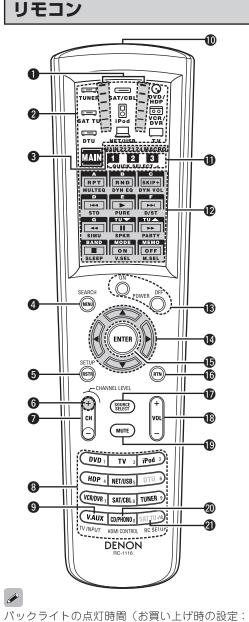
⓮ HDMI 端子………………………………（18）

⓯ ビデオ /S ビデオ端子
（VIDEO / S-VIDEOS）………（19 ～ 22）

⓰ アナログ音声端子…………………（19 ～ 23）

⓱ プリアウト端子（PRE OUT）…………（25）

⓲ 外部入力端子（EXT. IN）………………（24）

リモコン

❶ 送信表示 ……………………………………(92)
❷ デバイスボタン ………………………………(91)
❸ ゾーン表示 /
マクロ表示（MACRO）……………………(91)
❹ メニューボタン（MENU）…………………(28)
サーチボタン（SEARCH）…………………(59)
❺ RESTORER ボタン（RSTR）………………(77)
❻ チャンネルレベル調節ボタン
（CHANNEL LEVEL）…………………………(82)
❼ チャンネルボタン（CH）…………………(93)
❽ 入力ソース選択ボタン ………………………(30)
数字ボタン（0 ～ 9, +10）………………(64)
❾ テレビ入力ボタン（TV INPUT）……(93)
❿ リモコン信号送信窓 ……………………………(6)
⓫ クイックセレクトボタン
（QUICK SELECT）……………………………(83)
マクロボタン（MACRO）……………………(97)
⓬ ファンクションボタン
詳しくは、「リモコンでできること」（☞ 右記）をご覧ください。
⓭ 電源操作ボタン
（POWER ON / OFF）…………………………(27)
⓮ カーソルボタン（△▽◁ ▷）……………(29)
⓯ エンターボタン（ENTER）…………………(29)
⓰ リターンボタン（RTN）……………………(29)
⓱ ソースセレクトボタン
（SOURCE SELECT）…………………………(30)
⓲ 主音量調節ボタン（VOL）…………………(67)
⓳ ミューティングボタン（MUTE）……(67)
⓴ リンクメニュー呼び出しボタン
（HDMI CONTROL）……………………………(93)
㉑ リモコン設定ボタン
（RC SETUP）……………………………………(92)

バックライトの点灯時間（お買い上げ時の設定：10 秒）を変えることができます（☞97 ページ「バックライトの点灯時間を設定する」）。

ご注意 本機では、**DTU** および **SAT TU** ボタン、ゾーン 4 モードは使用しません。

リモコンでできること

❑ 本機の操作

❑ 本機以外の機器の操作

- 操作する機器のリモコンコードをプリセット登録すると、機器の操作ができるようになります（☞92 ページ）。
- デバイスボタンを押すことにより、ファンクションボタンの表示が切り替わります。

選択されたデバイスボタン	ファンクションボタン表示	ボタン名称
MAIN MAIN	1 2 3 QUICK SELECT ㉞㉕ ㉒ MULTEQ DYN EQ DYN VOL ㉖ STD PURE D/ST ㉗ SIMU SPKR PARTY ㉘ ㉓ ㉔ SLEEP V.SEL M.SEL ㉙㉚	㉒ MULTEQ XT ボタン（MULTEQ）……(74) ㉓ DSX ボタン（SPKR）……(76) ㉔ スリープタイマーボタン（SLEEP）……(82) ㉕ Dynamic EQ ボタン（DYN EQ）……(74) ㉖ Dynamic Volume ボタン（DYN VOL）……(75) ㉗ サラウンドモードボタン……(69 ～ 71) • スタンダードボタン（STD） • ピュアダイレクトボタン（PURE） • ダイレクト / ステレオボタン（D/ST） • DSP シミュレーションボタン（SIMU） ㉘ パーティーボタン（PARTY）……(83) ㉙ モニターセレクトボタン（M.SEL）……(42) ㉚ ビデオセレクトボタン（V.SEL）……(55) ㉛ マルチゾーン用電源ボタン……(89) • マルチゾーン用電源オンボタン（ON） • マルチゾーン用電源オフボタン（OFF） ㉜ デバイス用電源ボタン……(92 ～ 94) • デバイス用電源オンボタン（ON） • デバイス用電源オフボタン（OFF） ㉝ システムボタン……(67, 92 ～ 94) ・リピートボタン（RPT） ・ランダムボタン（RND） ・ディスクスキップアップボタン（SKIP +） ・スキップボタン（⏮, ⏭） ・プレイボタン（▶） ・サーチボタン（◀◀, ▶▶） ・ポーズボタン（❚❚） ・ストップボタン（■） ㉞ クイックセレクトボタン（QUICK SELECT）……(83) ㉟ マクロボタン（MACRO）……(97)
MAIN Z2	1 2 3 QUICK SELECT ㉞	
MAIN Z3	㉔ SLEEP ON OFF ㉛	
MAIN Z4	ON OFF ㉛	
MAIN MACRO	1 2 3 ㉟	
SAT/CBL iPod DVD/HDP VCR/DVR TV	RPT RND SKIP+ ⏮ ▶ ⏭ ㉝ ◀◀ ❚❚ ▶▶ ■ ON OFF ㉜	

ご使用になる前に
接続
設定
再生
マルチゾーン
リモコン操作
その他の情報
故障かな？と思ったら
保証と修理
主な仕様

選択されたデバイスボタン	ファンクションボタン表示	ボタン名称
NET/USB TUNER	A B C D E F G TU▼ TU▲ BAND MODE MEMO	㊱ **プリセットチャンネルボタン** ·················(64) ㊲ **チューナーシステムボタン** ······ (65, 94, 95) • 選局ボタン（TU ▲▼） • FM/AM バンド切り替えボタン（BAND） • チューニングモード切り替えボタン（MODE） • メモリーボタン（MEMORY）

❑ **マルチゾーン（ゾーン 2/ ゾーン 3）の操作**（☞88 ページ）

❑ **パンチスルー設定**（☞97 ページ）

接続のしかた

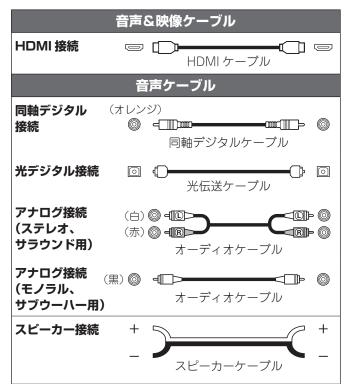
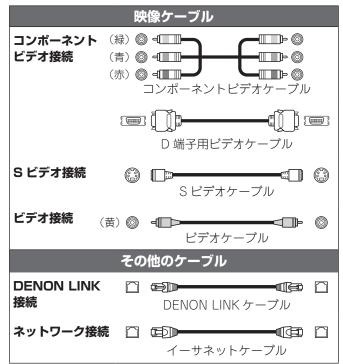
知っておいてほしいこと

この取扱説明書では、対応するすべての音声信号方式や映像信号方式の接続方法を説明しています。接続する機器に合わせていずれかの接続方法をお選びください。
接続後に、本機の設定が必要なものがあります。各項目の"**必要に応じて設定してください**"の設定をおこなってください。

ご注意

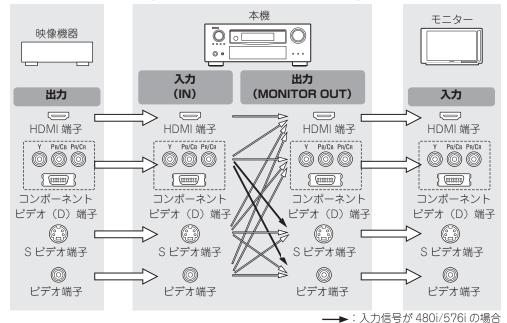
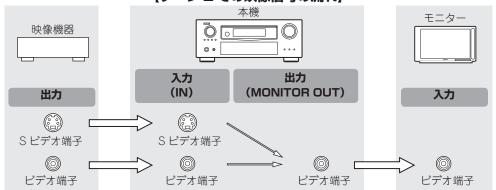
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくＬとＬ、ＲとＲを接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

接続に使用するケーブル

ご使用になる機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）

本機には、4 種類（HDMI、コンポーネントビデオ、S ビデオ、ビデオ）の映像入出力端子があります。
接続する機器に合わせてご使用ください。
この機能は、本機に入力されたさまざまな方式の映像信号を、本機からモニターに出力する映像信号方式に自動的に変換して出力するものです（☞108 ページ「映像信号とモニター出力の関係」）。

【メインゾーンでの映像信号の流れ】

→：入力信号が 480i/576i の場合

【ゾーン 2 での映像信号の流れ】

必要に応じて設定してください

- ビデオコンバージョン機能を使用しないときに設定します。
  "ビデオコンバート"（☞55 ページ）
- 映像信号の解像度を変更するときに設定します。
  "解像度"（☞55 ページ）

- ビデオコンバージョン機能を使用しない場合は、映像入力端子と同じ種類の端子からモニターへ出力してください。
- HDMI 対応モニターの解像度は、"HDMI 情報" ⇨ "モニター 1" または "モニター 2"（☞78 ページ）で確認することができます。

ご注意

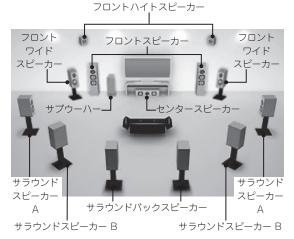
- HDMI 信号をアナログ信号に変換することはできません。
- ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。
- コンポーネントビデオ入力の 480p、576p、1080i、720p および 1080p の信号は、S ビデオ信号やビデオ信号には変換できません。

スピーカーを設置 / 設定する

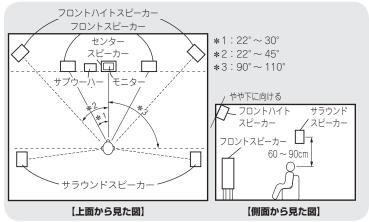
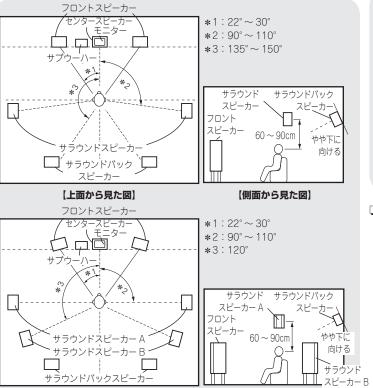
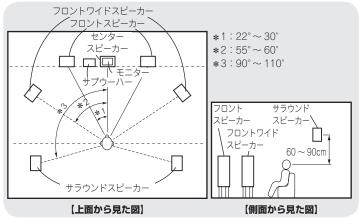
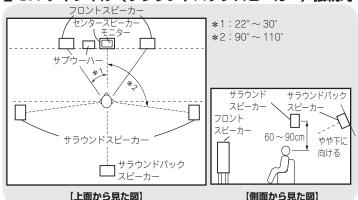
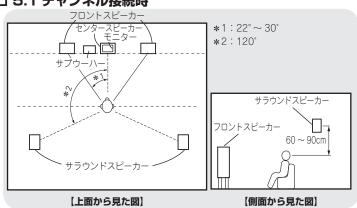
本機は、サラウンド空間により一層の広がりや奥行きを表現する Audyssey DSX（☞100 ページ）およびドルビープロロジック IIz（☞99 ページ）に対応しています。
Audyssey DSX をご使用になる場合は、フロントワイドスピーカーまたはフロントハイトスピーカーを設置してください。また、ドルビープロロジック IIz をご使用になる場合は、フロントハイトスピーカーを設置してください。

1 スピーカーレイアウトを決めてください

スピーカーの設置例をご紹介します。
これらを参考に、お手持ちのスピーカーを種類や用途に合わせて設置してください。

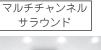
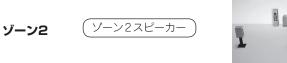
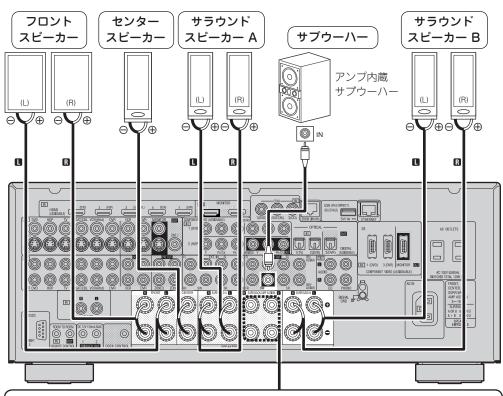
すべてのスピーカーのレイアウトのしかた

ご注意

- サラウンドバックスピーカー、フロントハイトスピーカーおよびフロントワイドスピーカーを、同時に使用することはできません。
- 映画再生用のサラウンドスピーカーをサラウンド A 端子に、マルチチャンネル音楽再生用のサラウンドスピーカーをサラウンド B 端子に接続します。
- サラウンド A およびサラウンド B 端子からは、同じサラウンド信号を出力します。

❏ 7.1 チャンネル（フロントハイトスピーカー）接続時

❏ 7.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）接続時

❏ 7.1 チャンネル（フロントワイドスピーカー）接続時

❏ 6.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）接続時

❏ 5.1 チャンネル接続時

2 スピーカーレイアウトに合わせて“アンプの割り当て”モードを設定してください

本機の SURR. BACK/AMP ASSIGN スピーカー端子から出力する信号を切り替えることができます（☞38 ページ“アンプの割り当て”）。

“アンプの割り当て”モード（☞38 ページ）	SURR. BACK / AMP ASSIGN 端子に接続するスピーカー	スピーカー設置例（再生チャンネル数）
通常 （お買い上げ時の設定）	サラウンドバックスピーカー（2 台）	
通常	サラウンドバックスピーカー（1 台） ※サラウンドバックスピーカー端子の“L”に接続してください。 ※“サラウンドバック”（☞39 ページ）を“1 台”に設定してください。	
通常	スピーカーは、接続しません。 ※“サラウンドバック”（☞39 ページ）を“無し”に設定してください。	
ゾーン2	ゾーン2スピーカー	メインゾーン ゾーン 2
ゾーン3	ゾーン3スピーカー	メインゾーン ゾーン 3

“アンプの割り当て”モード（☞38 ページ）	SURR. BACK / AMP ASSIGN 端子に接続するスピーカー	スピーカー設置例（再生チャンネル数）
ゾーン（モノラル）	L チャンネル：ゾーン2スピーカー R チャンネル：ゾーン3スピーカー	メインゾーン (5.1) ゾーン 2 または ゾーン 3 (1)
バイアンプ	フロントスピーカー ※接続のしかたは、「バイアンプ接続について」（☞16 ページ）をご覧ください。	
2ch	2 チャンネル再生専用フロントスピーカー ※ 2 チャンネル用スピーカーを SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子に接続してください。	ダイレクト / ステレオ
フロントハイト	フロントハイトスピーカー	
フロントワイド	フロントワイドスピーカー	

スピーカーを接続する

SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子の接続については、「2 スピーカーレイアウトに合わせて“アンプの割り当て”モードを設定してください」（☞15 ページ）をご覧ください。

保護回路について

芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作して電源表示が約0.5秒間隔で赤色に点滅します。

保護回路が動作するとスピーカー出力は遮断され、電源はスタンバイ状態になります。この場合は、電源を切るか電源コードを抜いてからスピーカーケーブルや入力ケーブルの接続を確認してください。

また、指定されたインピーダンス以下のスピーカー(例：4Ω)を使用して大音量で再生すると、本機の温度が上昇して保護回路が動作する場合があります。電源はスタンバイ状態になり、電源表示が約2秒間隔で赤色に点滅します。この場合は、電源を切って、周囲の通風状態を良くして、本機が冷えるのをお待ちください。

周囲の通風や接続に問題がないのにも関わらず保護回路が動作する場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で弊社の修理相談窓口にご連絡ください。

スピーカーケーブルを接続する

本機と接続するスピーカーの左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、＋（赤）、－（黒）をよく確認して、同じ極性を接続してください。

1 スピーカーケーブル先端の被覆を10mm程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。

2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。

4 スピーカー端子を右に回してしめる。

❑ バナナプラグをご使用になる場合

スピーカー端子を右に回してしめてから、バナナプラグを差し込む。

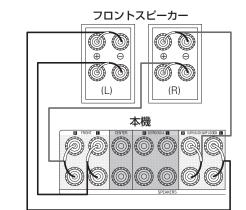
1 本のスピーカーのインピーダンスが 6 ～ 16 Ω のスピーカーをご使用ください。また、サラウンドスピーカー A と B を同時にご使用になる場合は、1 本のスピーカーのインピーダンスが 8 ～ 16 Ω のスピーカーをご使用ください。

ご注意

- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作します（☞「保護回路について」）。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

バイアンプ接続について

この接続では、低域ユニットと高域ユニットの間の信号の干渉がなくなり、より高音質な再生をお楽しみいただくことができます。

“アンプの割り当て”（☞38 ページ）を“バイアンプ”に設定したときは、次のように接続してください。

バイアンプ接続をすると、フロントスピーカー端子と SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子から同じ信号が出力されます。

ご注意

- バイアンプ接続に対応したスピーカーをご使用ください。
- バイアンプ接続ではスピーカーのウーファー端子とツィーター端子を接続している短絡板または短絡用ワイヤーを必ず外してください。

機器を接続する

HDMI 端子付きの機器を接続する

知っておいてほしいこと

❑ HDMI について

HDMI とは、“High Definition Multimedia Interface”の略で、デジタル映像信号とデジタル音声信号を HDMI ケーブル 1 本で伝送できるインターフェースです。

“HDMI”、“HDMI ロゴ”および“High-Definition Multimedia Interface”は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

❑ HDMI 接続でできること

Deep Color

微小な映像データを増やすことで、色の変化をより滑らかにして、異なる色彩間の微妙なグラデーションを表現することが可能になります。

x.v.Color

色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。
“x.v.Color”はソニーの登録商標です。

Auto Lip Sync（☞42 ページ）

Auto Lip Sync 機能に対応したテレビと接続すると、映像と音声のずれを自動的に補正することができます。

HDMI コントロール機能（☞81 ページ）

外部機器を本機で操作したり、外部機器から本機を操作することができます。

ご注意

- HDMI 接続している機器が Deep Color や x.v.Color の伝送、および Auto Lipsync 機能に対応していないときは、それらの機能ははたらきません。
- 接続する機器や設定によって、HDMI コントロール機能がはたらかない場合があります。
- HDMI コントロール機能に対応していないテレビやブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーは操作できません。

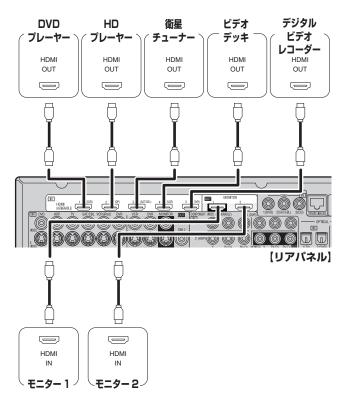
❑ 著作権保護（HDCP）について

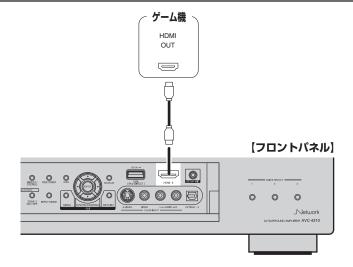
HDMI/DVI 接続を通して DVD ビデオや DVD オーディオのデジタル映像と音声を再生する場合は、接続されたブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーとモニターの双方が HDCP（Highbandwidth Digital Content Protection）と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。
HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。
本機は HDCP に対応しています。ご使用になるブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーまたはモニターについては、各機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

HDCP に対応していない機器と接続すると、映像が正しく出力されません。

接続のしかた

本機は 6 台までの HDMI 機器からの入力と、2 台のモニターへの出力に対応しています。

ご注意

接続しているモニターによっては、"オート（デュアル）" に設定すると正常に表示されない場合があります。このようなときは、"モニター 1" または "モニター 2" を選んでください（☞42 ページ）。

- HDMI ケーブルは、HDMI ロゴのついたケーブル（HDMI 認証品）をご使用ください。HDMI ロゴのないケーブル（HDMI 非認証品）をご使用になると、正しく再生できない場合があります。
- 本機と各機器を HDMI ケーブルで接続したときは、本機とモニターも HDMI ケーブルで接続してください。
- Deep Color 伝送に対応している機器を接続する場合は、Deep Color 対応のケーブルをご使用ください。
- ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーの解像度は、モニターが対応している解像度に合わせてください。ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーとモニターの解像度が合っていない場合は、映像が出力されません。

ご注意

- "HDMI 音声出力"（☞42 ページ）の設定が "アンプ" のときにモニターの電源を切ると、音声が途切れる場合があります。
- HDMI 出力端子からの音声信号（サンプリング周波数、チャンネル数など）は、相手側の機器が入力できる HDMI 音声の仕様に制限されることがあります。

❑ DVI-D 端子付きの機器に接続するとき

HDMI/DVI 変換ケーブル（別売り）をご使用になると、HDMI の映像信号を DVI 信号に変換して、DVI-D 端子付きの機器に接続することができます。

ご注意

- DVI-D 端子付きの機器と接続する場合、音声は出力されません。音声の接続をおこなってください。
- HDCP に対応していない DVI-D 機器には出力できません。
- 機器の組み合わせによって、映像が出力されない場合があります。

HDMI 接続に関する設定

必要に応じて設定してください。
詳しくは、各参照ページをご覧ください。

❑ 入力端子の割り当て（☞52 ページ）

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定してください。

❑ HDMI 設定（☞42 ページ）

HDMI の入出力信号に関する設定をします。

- RGB 映像レンジ
- バーチカルストレッチ
- オートリップシンク
- HDMI 音声出力
- モニター出力
- HDMI コントロール

ご注意

HDMI 入力端子から音声信号が入力された場合のみ、HDMI モニター出力端子から音声が出力されます。

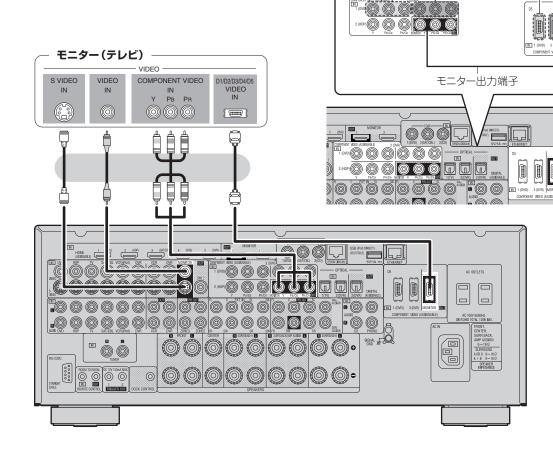
モニターを接続する

- ご使用になる端子を選んで接続してください。
- 映像の接続をおこなう際には、「入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）」（☞13 ページ）をご覧ください。

HDMI 接続については、17 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

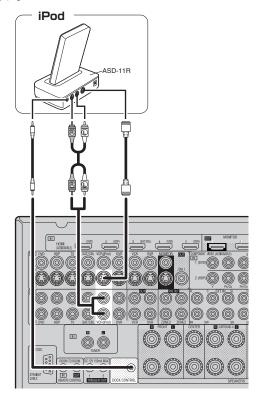
コンポーネントビデオ（D）端子のご使用について

ご注意

コンポーネントビデオ端子と D 端子は、同時に接続できません。接続する機器に合わせてどちらか片方を接続してください。

- モニターによってコンポーネントビデオ（D）端子の表示が異なります。
- 本機のコンポーネントビデオ（D）端子は、D1 ～ D5（480i、480p、1080i、720p、1080p）のビデオ端子に対応しています。
- 本機のコンポーネントビデオ（D）端子とモニターをコンポーネント変換ケーブルで接続した場合、コンポーネントビデオ（D）端子から入力された解像度などの識別信号は出力されません。

再生機器を接続する

iPod 用コントロールドック

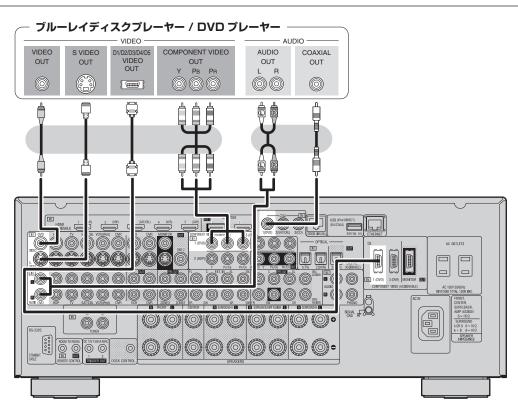
本機と iPod の接続には、DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-1R または ASD-11R、別売り）をご使用ください。この場合、iPod 用コントロールドック側の設定も必要です。詳しくは、iPod 用コントロールドックの取扱説明書をご覧ください。

必要に応じて設定してください

iPod を VCR（iPod）端子以外に割り当てるときに設定します。
“入力端子の割り当て” ⇨ **“iPod Dock”**（☞54 ページ）

- お買い上げ時の設定では、iPod を VCR（iPod）端子に接続してご使用いただけます。
- 本機の USB 端子に直接 iPod を接続してご使用になることもできます（☞24 ページ「USB 端子」）。

ブルーレイディスクプレーヤー / DVD プレーヤー

ご使用になる端子を選んで接続してください。

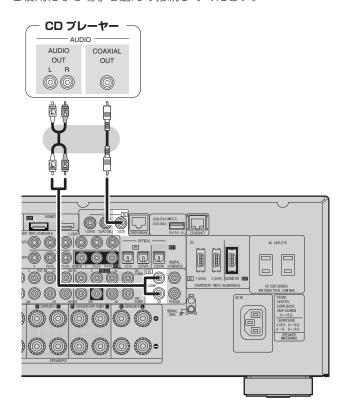
HDMI 接続については、17 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

必要に応じて設定してください

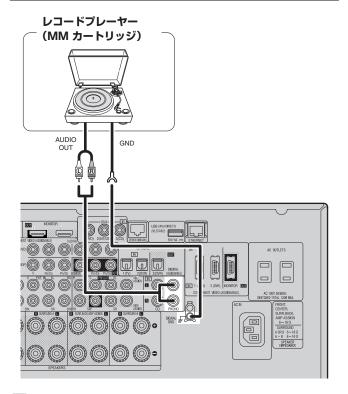
入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。
"入力端子の割り当て"（☞52 ページ）

ご注意

HD オーディオ（ドルビー TrueHD、DTS-HD、ドルビーデジタルプラスおよび DTS Express）を再生する場合は、HDMI で接続してください（☞17 ページ「HDMI 端子付きの機器を接続する」）。

CD プレーヤー

ご使用になる端子を選んで接続してください。

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。
"入力端子の割り当て"（☞52 ページ）

レコードプレーヤー

- 本機は、MM カートリッジ付きのレコードプレーヤーに対応しています。MC カートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続される場合は、市販の MC ヘッドアンプまたは昇圧トランスをご使用ください。
- レコードプレーヤーを接続せずに音量を上げると、“ブーン”という雑音がスピーカーから出力される場合があります。

ご注意

本機の SIGNAL GND 端子は、安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆に雑音が大きくなることがあります。このような場合は、アース線を接続する必要はありません。

録音機器を接続する

デジタルビデオレコーダー

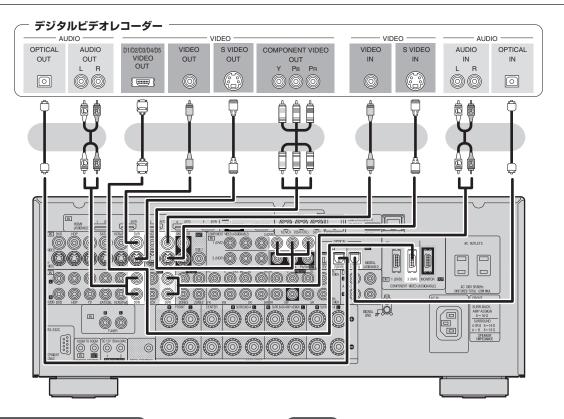
- ご使用になる端子を選んで接続してください。
- アナログ音声を録音する場合は、アナログ接続をしてください。
- 操作のしかたは、80 ページの「外部機器で録音や録画をおこなう」をご覧ください。

HDMI 接続については、17 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。

“入力端子の割り当て”（☞52 ページ）

ご注意

本機を通して録画するときは、本機と再生機器の接続と、本機とレコーダーの接続に、同じ種類の映像ケーブルを使用してください。

ビデオデッキ

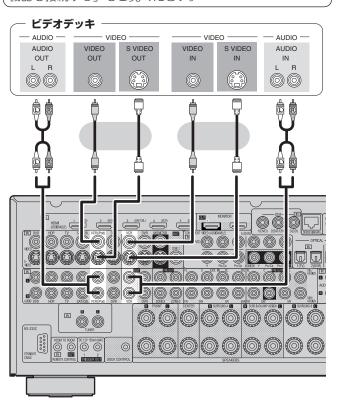
- ご使用になる端子を選んで接続してください。
- アナログ音声を録音する場合は、アナログ接続をしてください。
- 操作のしかたは、80 ページの「外部機器で録音や録画をおこなう」をご覧ください。

HDMI 接続については、17 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。

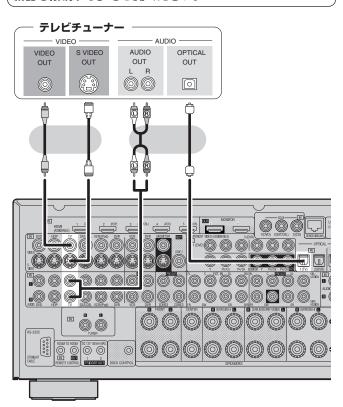
“入力端子の割り当て”（☞52 ページ）

ご注意

本機を通して録画するときは、本機と再生機器の接続と、本機とレコーダーの接続に、同じ種類の映像ケーブルを使用してください。

チューナーを接続する

テレビチューナー

ご使用になる端子を選んで接続してください。

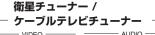
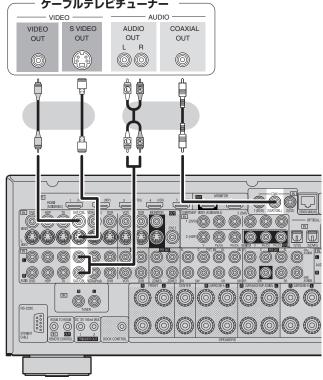
HDMI 接続については、17 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。

“入力端子の割り当て”（☞52 ページ）

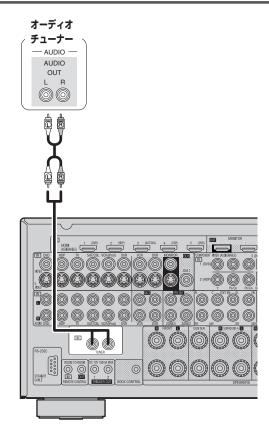
衛星チューナー / ケーブルテレビチューナー（セットトップボックス）

ご使用になる端子を選んで接続してください。

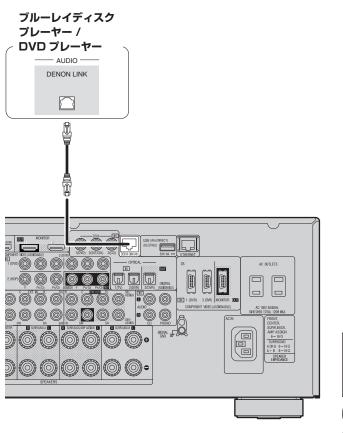
HDMI 接続については、17 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。

“入力端子の割り当て”（☞52 ページ）

オーディオチューナー

その他の機器を接続する

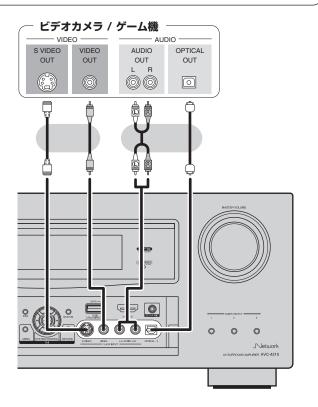
DENON LINK 端子がある機器

DVD オーディオやスーパーオーディオ CD などのマルチチャンネル再生ができます（☞80 ページ「スーパーオーディオ CD を再生する」）。
また、DENON LINK 4th 対応のプレーヤーとの接続については、79 ページの「DENON LINK 4th 対応のブルーレイディスクプレーヤーを再生する」をご覧ください。

必要に応じて設定してください

DENON LINK 接続をしてご使用になるときは、“デジタル端子”を“D.LINK”に設定してください。
“入力端子の割り当て”（☞52 ページ）

ビデオカメラ / ゲーム機

ご使用になる端子を選んで接続してください。

HDMI 接続については、17 ページの「HDMI 端子付きの機器を接続する」をご覧ください。

必要に応じて設定してください

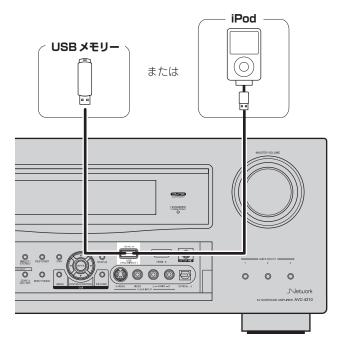
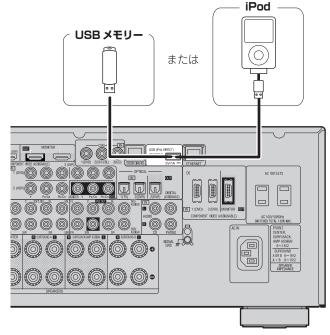
入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定します。
“入力端子の割り当て”（☞52 ページ）

ご注意

ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。

USB 端子

お手持ちの iPod や USB メモリーを本機の USB 端子に接続すると、iPod や USB メモリー内の音楽などを楽しむことができます。

❏ フロントパネル（前面）

❏ リアパネル（背面）

必要に応じて設定してください

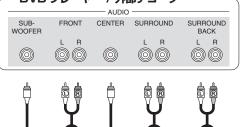
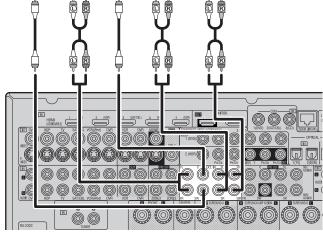
ご使用になる端子（前面または背面）を変更するときに設定します。
“USB 端子の選択”（☞57 ページ）

- お買い上げ時の設定では、前面の USB 端子が使用できます。
- 本機と iPod の接続には、iPod に付属の USB ケーブルをご使用ください。
- iPod 内の動画ファイルを再生したい場合は、別売りの DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-11R または ASD-1R）をご使用ください（☞19 ページ「iPod 用コントロールドック」）。
- iPod は第 5 世代以降に発売された iPod touch、iPod classic、iPod nano で再生することができます。詳しくは、弊社ホームページまたは 60 ページをご覧ください。

ご注意

- **前面と背面の USB 端子を同時に使用することはできません。**ご使用になる端子を選んで接続してください。
- USB メモリーを接続するときは、延長ケーブルを使用しないでください。他の機器に電波障害を引き起こす場合があります。

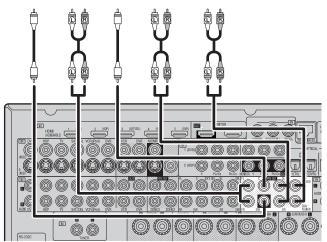
マルチチャンネル出力端子がある機器

映像信号はブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーと同じ方法で接続することができます（☞20 ページ「ブルーレイディスクプレーヤー / DVD プレーヤー」。

必要に応じて設定してください

外部入力（EXT. IN）端子から入力されたアナログ信号を再生する場合は、GUI メニューの“入力モード”（☞56 ページ）を“EXT. IN”に設定してください。
“EXT. IN”は、本体の **INPUT MODE** ボタンを押しても選択できます。

外部入力端子（EXT. IN）の SBL/SBR 端子に機器を接続するときは、“アンプの割り当て”（☞38 ページ）を“通常”に設定してください。

外部のパワーアンプ

- ご使用になる端子を選んで接続してください。
- 外部のパワーアンプやお手持ちのアンプをご使用になる場合などに、プリアウト端子と接続します。

- サラウンドバックスピーカーを 1 本のみご使用になる場合は、左チャンネル（L）に接続してください。
- サブウーハーの音量は、ご使用のサブウーハー側で調節してください。
- サブウーハーの音量が小さく感じられる場合は、サブウーハーに装備されている音量調節機能を使用して音量を調節してください。

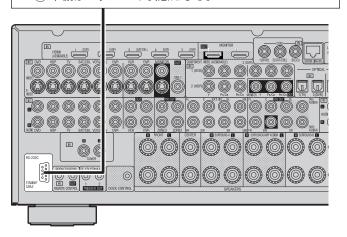
ご注意

- プリアウト端子にスピーカーを接続した場合、スピーカー端子にはスピーカーを接続しないでください。
- “アンプの割り当て”の設定（☞38 ページ）により、プリアウト端子の SBL と SBR 端子から出力されるチャンネルが変わります。

外部のコントロール機器

❏ RS-232C 端子

外部のコントロール機器と接続すると、外部のコントロール機器で本機をコントロールすることができます。あらかじめ次の確認をしてください。

① 本機の電源を入れる。
② 外部のコントロール機器で、本機の電源を切る。
③ 本機がスタンバイ状態になる。

必要に応じて設定してください

RS-232C 端子を DENON 製 RF リモートコントローラー用として使用するときに設定します。
“232C ポート”（☞50 ページ）

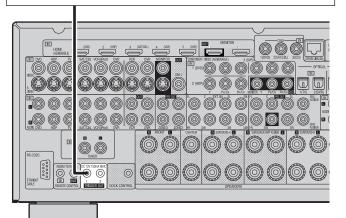
本機を DENON 製 RF リモートコントローラー（RC-7000CI、別売り）や RF リモートレシーバー（RC-7001RCI、別売り）と組み合わせてご使用になると、双方向通信ができます。本機のステータス情報や iPod、インターネットオーディオの音楽ファイルのブラウズを、RF リモートコントローラーのディスプレイを見ながら操作できます。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

GUI メニューの“232C ポート”（☞50 ページ）を“双方向リモコン”に設定している場合、RS-232C 端子を外部コントローラー用として使用できません。

❏ トリガー出力端子

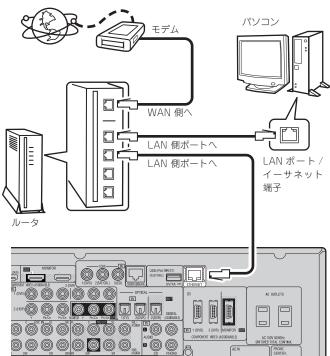
トリガー出力端子から最大で 12V/150mA の電気信号を出力します。トリガー入力端子がある機器をモノラルミニプラグケーブルで接続すると、本機の操作に連動させて、接続した機器の電源をオン / スタンバイすることができます。

接続する機器のトリガー許容入力レベルが 12V/150mA よりも大きいときや短絡状態のときは、トリガー出力が自動停止します。このような場合は、本機の電源を切り、その接続を外してください。

必要に応じて設定してください

トリガー出力 1 またはトリガー出力 2 端子の出力を連動させる条件を変更するときに設定します。
“トリガーアウト 1”または**“トリガーアウト 2”**
（☞50 ページ）

2 台目の機器を接続するときは、トリガー出力 1 端子と同じようにトリガー出力 2 端子に接続してください。

ホームネットワーク（LAN）に接続する

本機をホームネットワークに接続すると、パソコンに保存されている音楽ファイルやインターネットラジオの音声などをお楽しみいただけます。また、パソコンからウェブブラウザを使用して本機をコントロールすることができます。

インターネットの接続については、ISP（インターネット・サービスプロバイダ）またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

必要なシステム

❑ ブロードバンド回線によるインターネット接続

❑ モデム

❑ ルータ

本機を使用するにあたって、次の機能が装備されているルータをおすすめします。

- DHCP サーバー内蔵
  LAN 上の IP アドレスを自動的に割り振る機能です。
- 100BASE-TX スイッチ内蔵
  複数の機器を接続するために、100Mbps 以上の速度で、スイッチングハブを内蔵していることをおすすめします。

❑ イーサネットケーブル（CAT-5 以上を推奨）

イーサネットケーブルは、シールド付きのノーマルタイプをおすすめします。フラットタイプのケーブルやシールドされていないケーブルをご使用になると、ノイズが他の機器に影響をおよぼす可能性があります。

❑ パソコン

【推奨システム】

- **OS**
  Windows® XP Service Pack2 以上、Windows Vista
- **ソフトウェア**（次の中からひとつをご用意ください。）
  - Windows Media Player ver.11
  - DLNA 対応のサーバーソフトウェア
- **インターネットブラウザ**
  Microsoft Internet Explorer 6 以上
- **LAN 端子があること**
- **ハードディスクの空き容量が 300MB 以上あること**

※ 上記以外の DLNA サーバーでも動作可能ですが、サポートはしておりません。詳しくは、ホームページでお問い合わせください。

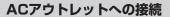
ご注意

- インターネットに接続するには、ISP と契約する必要があります。すでにブロードバンド回線を利用してインターネットに接続されている場合は、新たに契約する必要はありません。
- ISP 業者によって使用できるルータの種類が異なります。詳しくは、ISP 業者またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。
- サーバーによってはビデオファイルが表示される場合がありますが、本機では再生できません。

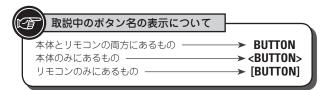
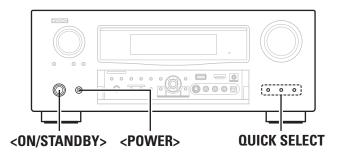
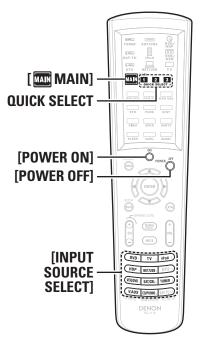
- ネットワークの設定を手動でおこなうタイプの回線で、プロバイダ契約を結んでいる場合は、“ネットワーク接続”（☞44 ページ）をおこなってください。
- 本機は DHCP 機能や Auto IP 機能を使用して、自動的にネットワークの設定をおこなうことができます。
  ブロードバンドルータ（DHCP 機能）をご使用の場合は、本機が自動的に IP アドレスなどの設定をおこないます。DHCP 機能のないネットワークに本機を接続してご使用になる場合は、“ネットワーク接続”（☞44 ページ）で、IP アドレスなどの設定をおこなってください。
- 本機は PPPoE に対応していません。PPPoE で設定するタイプの回線契約を結んでいる場合は、PPPoE 対応のルータが必要です。
- 契約している ISP によっては、インターネットラジオを利用するときにプロキシサーバーの設定が必要な場合があります。インターネットに接続するときにパソコンでプロキシサーバーの設定をおこなった場合は、本機も同様にプロキシサーバーの設定をおこなってください。

電源コードを接続する

- すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。
- 本機に付属の電源コードには極性が表示されています。お好みの音質になるように電源コンセントへ差し込んでください。

ACアウトレットへの接続

- 外部の AV 機器に電源を供給するコンセントです。
- 消費電力が合計で 120W（1.2A）までの AV 機器を接続することができます。
- 本体の **ON/STANDBY** に連動しています。“オン”のときは電源を供給し、“スタンバイ”のときは、電源を供給しません。

ご注意

- 電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
- AC アウトレットへは、AV 機器の電源プラグを差し込んでください。ドライヤーなど AV 機器以外の電源としては使用しないでください。
- AC インレット（AC IN）のアース端子は接続されていません。

接続が終わったら

電源を入れる

1 **<POWER> を押す。**
電源表示が赤色に点灯して、電源がスタンバイ状態になります。

2 **リモコンで操作する場合は、[MAIN]を押してリモコンをメインモードに切り替える（☞91ページ「リモコンで機器を操作する」）。**

3 **<ON/STANDBY> または [POWER ON] を押す。**
電源表示が緑色に点滅して、電源が入ります。

※ スタンバイ状態のときに、**[INPUT SOURCE SELECT]** または **QUICK SELECT** を押しても、電源が入ります。
[INPUT SOURCE SELECT] を押した場合は、**[INPUT SOURCE SELECT]** で選択した入力ソースになります。また、**QUICK SELECT** を押した場合は、クイックセレクト機能に記憶させた入力ソースになります（☞83 ページ「よく使う設定を記憶させる（クイックセレクト機能」)。

電源を切る

1 **リモコンで操作する場合は、[MAIN]を押してリモコンをメインモードに切り替える（☞91ページ「リモコンで機器を操作する」）。**

2 **<ON/STANDBY> または [POWER OFF] を押す。**
電源がスタンバイ状態になります。

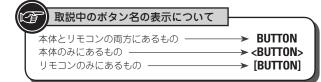
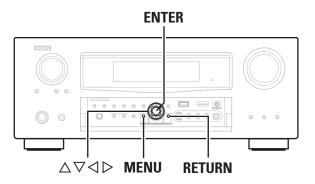
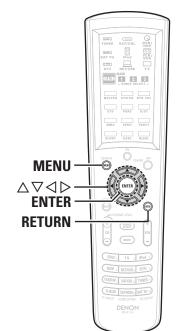
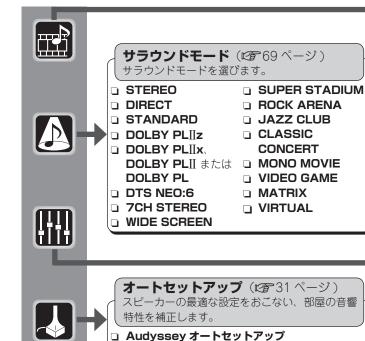
3 **<POWER> を押す。**
電源表示が消灯して、電源が切れます。

ご注意

電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、**<POWER>** を押して電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

設定のしかた

GUI メニューマップ

GUI

MENU を押すと、GUI メニューを表示します。
このメニューから各種設定画面に移動できます。

ソース選択（☞52 ページ）

SAT/CBL, VCR, DVR, V.AUX, NET/USB, Favorites, Internet Radio, Media Server, USB/iPod, TUNER, PHONO, CD, DVD, HDP, TV

入力ソースの選択や入力ソースの再生に関する設定をします。

※ 選択している入力ソースによって、表示されるメニューが異なります。

- ❏ **プレイ**
- ❏ **再生モード**
- ❏ **入力端子の割り当て**
- ❏ **ビデオ**
- ❏ **入力モード**
- ❏ **入力名の変更**
- ❏ **ソースレベル**
- ❏ **静止画像**

サラウンドモード（☞69 ページ）

サラウンドモードを選びます。

- ❏ **STEREO**
- ❏ **DIRECT**
- ❏ **STANDARD**
- ❏ **DOLBY PLⅡz**
- ❏ **DOLBY PLⅡx、DOLBY PLⅡ** または **DOLBY PL**
- ❏ **DTS NEO:6**
- ❏ **7CH STEREO**
- ❏ **WIDE SCREEN**
- ❏ **SUPER STADIUM**
- ❏ **ROCK ARENA**
- ❏ **JAZZ CLUB**
- ❏ **CLASSIC CONCERT**
- ❏ **MONO MOVIE**
- ❏ **VIDEO GAME**
- ❏ **MATRIX**
- ❏ **VIRTUAL**

音声 / 映像の調整（☞72 ページ）

音声と映像の各種パラメーターを調整します。

- ❏ **音声調整**
- ❏ **画質調整**

オートセットアップ（☞31 ページ）

スピーカーの最適な設定をおこない、部屋の音響特性を補正します。

- ❏ **Audyssey オートセットアップ**
- ❏ **パラメーター確認**

マニュアル設定（☞38 ページ）

各種の詳細設定をします。

- ❏ **スピーカーの設定**
- ❏ **HDMI 設定**
- ❏ **音声の設定**
- ❏ **ネットワーク設定**
- ❏ **ゾーンの設定**
- ❏ **その他の設定**
  - 音量の設定
  - 使用ソースの選択
  - GUI
  - クイックセレクトネーム
  - ゾーン名の変更
  - トリガーアウト 1
  - トリガーアウト 2
- ❏ **その他の設定**（つづき）
  - リモコン ID
  - 232C ポート
  - ディスプレイの明るさ
  - 設定の保護
  - メンテナンスモード
  - ファームウェアのアップデート
  - 新機能の追加
- ❏ **言語の設定**

情報（☞78 ページ）

本機の設定状態や入力信号の情報などを表示します。

- ❏ **現在の設定**
- ❏ **音声入力信号**
- ❏ **HDMI 情報**
- ❏ **オートサラウンドモード**
- ❏ **クイックセレクト**
- ❏ **プリセットチャンネル**

GUI メニューの操作のしかた

- 本機にテレビを接続すると、メニュー画面や音場パラメーターなどをテレビに表示することができます。
  テレビ画面に表示される設定メニューを見ながら本機を操作したり、設定を変更したりすることができます。
- リモコンで操作する場合は、あらかじめメインモードに切り替えて操作してください（☞91 ページ「リモコンで機器を操作する」）。

1 **MENU を押す。**
テレビ画面にGUIメニューを表示します。

2 **△▽▷ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。**
※ 前の項目に戻る場合は、◁ または **RETURN** を押してください。

3 **ENTER を押して、設定を確定する。**

❑ GUIメニューを終了するとき

GUIメニューの表示中に、**MENU** を押す。
GUIメニュー表示が消えます。

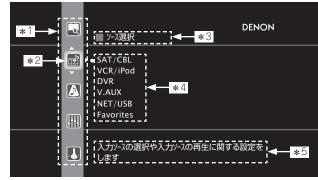
取扱説明書中のタイトル表示例

タイトルにこのマークがある項目は、GUI メニューの操作に対応しています。
GUI メニューでの操作をおすすめします。

詳細な設定をする（マニュアル設定） GUI

GUI メニュー画面の表示例

代表例を説明します。

【例 1】メニュー選択画面（トップメニュー）

＊1：GUI メニューの設定アイコン一覧
＊2：選択中の設定アイコン
＊3：選択中の設定項目名
＊4：選択中の設定内容一覧
＊5：選択中の設定項目のガイドテキスト

▽ を押して "♪" を選び、▷ を押す。
（または **ENTER** を押す。）

＊6：選択した設定アイコン
＊7：選択した設定内容の選択項目

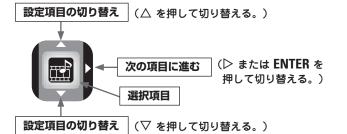
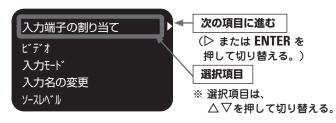
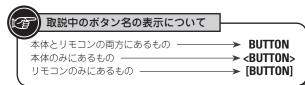
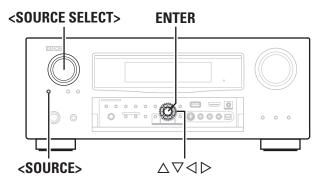
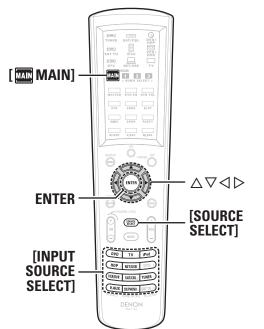
【例 2】Audyssey オートセットアップ画面（イラスト付き）

＊8 ：履歴アイコン
＊9 ：操作ガイドテキスト
＊10：操作ステップ表示
＊11：イラスト
＊12：選択中の設定項目のガイドテキスト
＊13：操作ボタンガイド

❑ アイコン

（△ を押して切り替える。）
（▷ または **ENTER** を押して切り替える。）
（▽ を押して切り替える。）

❑ リスト

（▷ または **ENTER** を押して切り替える。）
※ 選択項目は、△▽を押して切り替える。

入力ソースを選ぶ

入力ソースの選択には、次の 3 つの方法があります。
① GUI メニューの“ソース選択”メニューで選ぶ方法
② リモコンの入力ソース選択ボタンを使用して入力ソースを選ぶ方法
③ 本体の入力ソース切り替えつまみを使用して入力ソースを選ぶ方法

①“ソース選択”メニューを使用する

リモコンは、メインまたはマクロモードに切り替えて操作してください（☞91 ページ「リモコンで機器を操作する」）。
リモコンがゾーン 2、ゾーン 3 またはゾーン 4 モードのときに **[SOURCE SELECT]** を押しても、“ソース選択”メニューは表示されません。

1 **[SOURCE SELECT] を押す。**
“ソース選択”メニューを表示します。

① **入力ソース**：ハイライト表示されている入力ソース名を表示します。
② **履歴**：最近使用した入力ソースの履歴を 5 つまで表示します。
③ 各カテゴリーの入力ソースのアイコンを表示します。

ビデオ：（SAT/CBL）、（TV）、（VCR）、（DVR）、（V.AUX）
プレーヤー：（HDP）、（DVD）、（CD）、（PHONO）
ネットワーク：（お気に入り）、（インターネットラジオ）、（メディアサーバー）、（USB/iPod）
チューナー：（TUNER）

2 **△▽◁ ▷ を押して入力ソースのアイコンを選び、ENTER を押す。**
入力ソースを確定し、ソース選択メニューを終了します。

- 本機の USB 端子に直接 iPod を接続してご使用になる場合は、入力ソースの“USB/iPod”を選んでください。
- 使用しない入力ソースをあらかじめ設定することができます。“使用ソースの選択”（☞48 ページ）で設定してください。
- 入力ソースを選ばずにソース選択メニューを終了させる場合は、もう一度 **[SOURCE SELECT]** を押してください。

② リモコンで操作する

[INPUT SOURCE SELECT] を押す。
入力ソースをダイレクトに選べます。

※ リモコンをあらかじめメインモードに切り替えて操作してください（☞91 ページ「リモコンで機器を操作する」）。
※ **[VCR/DVR]** と **[CD/PHONO]** は、ボタンを押すたびに次のように切り替わります。

VCR/DVR：VCR ←→ DVR
CD/PHONO：CD ←→ PHONO

③ 本体で操作する

<SOURCE SELECT> を回す。

※“ZONE2/3/REC SELECT”または“VIDEO SELECT”モードが選ばれている場合は、**<SOURCE>** を押してから **<SOURCE SELECT>** を回してください。

ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこなう (Audysseyオートセットアップ)

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。

❑ Audysseyオートセットアップのながれ

1 付属のセットアップマイクを接続する（32ページ）

↓

2 Audysseyオートセットアップの準備をする（☞33ページ）

- ❑ **アンプの割り当てを変更する（アンプの割り当て）**（33ページ）
- ❑ **使用しないチャンネルを設定する（チャンネルスキップ）**（☞33ページ）

↓

3 Audysseyオートセットアップをおこなう（34ページ）

↓

Audysseyオートセットアップ後に測定結果やイコライザーの特性を確認する（パラメーター確認）（☞37ページ）

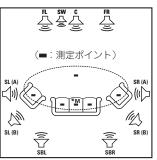
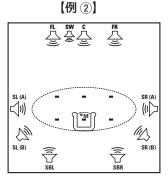
知っておいてほしいこと

本機のAudysseyオートセットアップ機能であるAudyssey MultEQ® XTは、リスニングルームの音響特性の測定、解析および設定を自動的におこない、最適なホームシアターオーディオ環境を提供します。

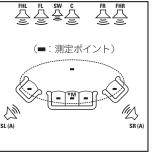
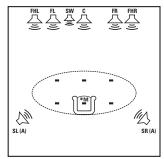
- Audysseyオートセットアップをおこなうと、MultEQ® XT、Dynamic EQ™およびDynamic Volume™の機能（☞74、75ページ）が有効になります。
- Audysseyオートセットアップは、付属のセットアップマイク（DM-A409）を使用しておこないます。
- 測定は、【例 ①】に示すようにリスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るには、図のように6ポイントまたはそれ以上で測定することをおすすめします。
- リスニング環境が【例 ②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。

❑ サラウンドバックスピーカーをご使用になるとき

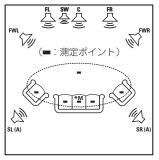
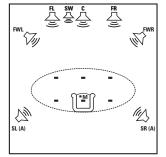
【例 ①】

【例 ②】

❑ フロントハイトスピーカーをご使用になるとき

【例 ①】

【例 ②】

❑ フロントワイドスピーカーをご使用になるとき

【例 ①】

【例 ②】

FL： フロントスピーカー（L）
FR： フロントスピーカー（R）
FHL： フロントハイトスピーカー（L）
FHR： フロントハイトスピーカー（R）
FWL： フロントワイドスピーカー（L）
FWR： フロントワイドスピーカー（R）
C： センタースピーカー
SW： サブウーハー
SL（A）： サラウンドスピーカーA（L）
SR（A）： サラウンドスピーカーA（R）
SL（B）： サラウンドスピーカーB（L）
SR（B）： サラウンドスピーカーB（R）
SBL： サラウンドバックスピーカー（L）
SBR： サラウンドバックスピーカー（R）

メインリスニングポイント（*M）について

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置、または一人で視聴するときに座る位置をいいます。Audyssey MultEQ XTは、この位置からの測定値を用いて、スピーカー距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

ご注意

- 測定中に大きなテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。室内の騒音が大きいとさらにテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができなくなります。
- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯などの電化製品をオフにしてください。測定はこれらの騒音の影響を受けることがあります。
  測定中、携帯電話はリスニングルームとは別の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨害する原因になることがあります。
- 測定中に **MASTER VOLUME** を操作すると、測定が中止します。

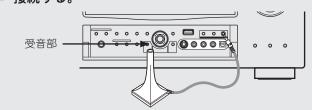
1 付属のセットアップマイクを接続する

- セットアップマイクは、Audyssey オートセットアップが完了するまで絶対に抜かないでください。
- ヘッドホンをご使用の場合は、Audyssey オートセットアップをおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

1 スピーカーの接続を確認する。
（☞16 ページ「スピーカーを接続する」）

2 テレビやサブウーハーの電源を入れる。
テレビの入力を本機の入力に設定します。

3 本機の電源を入れる。
（☞27 ページ「電源を入れる」）

4 セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。

セットアップマイクを接続すると、“Audyssey オートセットアップ”画面が表示されます。

5 セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。
セットアップマイクを設置する際は、受音部をリスニング時の耳の高さにあわせて調節してください。

音量調節やクロスオーバー周波数の設定ができるサブウーハーをご使用の場合は、Audyssey オートセットアップをはじめる前に、次の設定をおこなってください。

- 音量の設定：“12 時”の位置、またはサブウーハーの音量調節レンジを中央の位置
- ローパスフィルターの設定：“オフ”または
  クロスオーバー周波数の設定：“最大 / 最高周波数”
- 位相の設定：“0°”
- スタンバイモードの設定：“オフ”

ご注意

- セットアップマイクを手で持ちながら Audyssey オートセットアップをおこなわないでください。
- セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

2 Audyssey オートセットアップの準備をする

□ で囲まれている項目は、お買い上げ時の設定です。

ステップ 1 準備

ご使用になるスピーカーの環境に合わせるなど、必要に応じて以下の設定をおこなってください。
以下の設定をおこなう必要がない場合や設定を終了する場合には、“オートセットアップスタート”を選んで、**ENTER** を押してください。ステップ2 に進みます。

アンプの割り当てを変更する（アンプの割り当て）

本機の SURR. BACK/AMP ASSIGN スピーカー端子から出力する信号を、ご使用になるスピーカー環境に合わせて切り替えて出力することができます（☞38 ページ“アンプの割り当て”）。

1 “アンプの割り当て”を選び、ENTER を押す。

2 △▽ を押して項目を選び、ENTER を押す。

通常	：サラウンドバックチャンネルの音声を出力します。
ゾーン2	：ゾーン 2 の音声を出力します。
ゾーン3	：ゾーン 3 の音声を出力します。
ゾーン (モノラル)	：ゾーン 2、ゾーン 3 の音声をモノラルで出力します。
バイアンプ	：バイアンプ接続用にフロントチャンネルの音声を出力します。
2ch	：2 チャンネルの DIRECT または STEREO モード中に、フロントチャンネルの音声を出力します。
フロントハイト	：フロントハイトチャンネルの音声を出力します。
フロントワイド	：フロントワイドチャンネルの音声を出力します。

※ キャンセルするときは、**RETURN** を押してください。

- ゾーン 2 やゾーン 3 でサラウンドバックスピーカーをご使用になる場合は、“ゾーン 2”または“ゾーン 3”に設定してください。
- 38 ページの“アンプの割り当て”でも同じように設定できます。

使用しないチャンネルを設定する（チャンネルスキップ）

使用しないチャンネルをあらかじめ設定すると、設定したチャンネルの測定をスキップし、測定時間を短縮することができます。

1 “チャンネルスキップ”を選び、ENTER を押す。

2 △▽ を押してチャンネルを選び、◁ ▷ を押して項目を選び、ENTER を押す。

❑ 設定できるチャンネル

サブウーハー	：サブウーハーチャンネルを設定します。
サラウンド B	：サラウンド B チャンネルを設定します。
サラウンドバック	：サラウンドバックチャンネルを設定します。

❑ 設定できる項目

測定	：選んだチャンネルを測定します。
スキップ	：選んだチャンネルをスキップし、測定しません。

※ キャンセルするときは、**RETURN** を押してください。

“アンプの割り当て”を“通常”以外に設定されているとき、“サラウンドバック”は表示されません。

次のページへ

ご使用になる前に 接続 設定 再生 マルチゾーン リモコン操作 その他の情報 故障かな？と思ったら 保証と修理 主な仕様

3 Audysseyオートセットアップをおこなう

- Audysseyオートセットアップでは、スピーカーの接続の有無や大きさ、チャンネルレベル、距離およびクロスオーバー周波数を自動的に計算します。また、リスニングエリア内の音響歪みを補正します。
- 測定をはじめると、各スピーカーからテストトーンを出力します。
- Audysseyオートセットアップをはじめる前に、すべてのスピーカーを設置し接続してください。

ステップ2　スピーカー検出

1 "測定"を選び、ENTER を押す。

①サブウーハーレベルを測定する

※ 測定を中止するときは、"キャンセル"を選び、ENTER を押してください。

※ "サブウーハー"を"スキップ"に設定している場合は、この測定をおこなわずに「②各スピーカーを測定する」へ進みます。

②各スピーカーを測定する

※ 手順①の測定が終わると、自動的に手順②の測定がはじまります。

※ "アンプの割り当て"（☞33 ページ）および"チャンネルスキップ"（☞33 ページ）の設定により、測定するチャンネルが変わります。

エラーメッセージが表示された場合は、「エラーメッセージについて」（☞36ページ）をご覧ください。

③測定結果を確認する

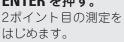
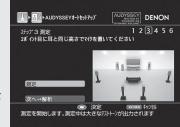
測定が終了すると、測定結果が表示されます。

※ "次へ→測定"を選んで ENTER を押すと、ステップ3 へ進みます。

※ △ を押して"再測定"を選び、ENTER を押すと、再びメインリスニングポイントの測定をはじめます。

ステップ3　測定

2 2ポイント目にセットアップマイクを移動させ、"測定"を選び、ENTER を押す。

2ポイント目の測定をはじめます。

※ この手順を省略する場合は、"次へ→解析"を選んで、ステップ4 へ進んでください。

3 手順 2 をくり返して 3 〜 8 ポイントを測定する。

8 ポイント目の測定が終了すると、"測定が終わりました"と表示されます。

※ この手順を省略する場合は、"次へ→解析"を選んで、ステップ4 へ進んでください。

※ メインリスニングポイントとその周囲を合わせて、最低 6 ポイントの測定をおこなってください。測定ポイントが 5 ポイント以下でも測定を終了することができますが、より良い結果を得るためには、6 ポイント以上（最大で 8 ポイント）の測定をおすすめします。

ステップ4　解析

4 ステップ3 の画面で"次へ→解析"を選び、ENTER を押す。

測定結果を自動的に解析し、リスニンググルームにおける各スピーカーの特性を決定します。

※ 解析には数分間かかります。解析時間は、接続されたスピーカーの数と測定ポイント数に依存します。
接続するスピーカーの数と測定ポイントが多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

ステップ5　解析結果

5 ステップ5 の画面で △▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER を押す。

スピーカー構成確認	距離確認
チャンネルレベル確認	クロスオーバー確認

※ サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。

6 △▽ を押して確認したいチャンネルを選ぶ。

各スピーカーの測定結果を表示します。

※ 他の項目を確認したいときは、RETURN を押してください。

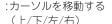
※ "次へ→保存"を選び ENTER を押すと、ステップ6 へ進みます。

リモコンの操作ボタン

SEARCH MENU :メニューを表示する　メニューを解除する

:カーソルを移動する（上/下/左/右）

ENTER :設定を確定する

RTN :ひとつ前のメニューに戻る

ステップ6　保存

7 **“保存”を選び、ENTER を押す。**
測定結果を保存します。

※ 保存には、約 30 秒かかります。

ご注意

測定結果の保存中は、絶対に電源を切らないでください。

8 **右の画面が表示されたら、本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜く。**

9 **“終了”を選び、ENTER を押す。**

❑ GUI メニューを終了するとき

GUI メニューの表示中に **MENU** を押す。
GUI メニュー表示が消えます。

ご注意

Audyssey オートセットアップをおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。もし変更した場合には、再び Audyssey オートセットアップをおこなってください。

- 接続している状態と異なる結果が出た場合や、エラーメッセージが表示された場合は、「エラーメッセージについて」（☞36 ページ）をご覧になり、再び Audyssey オートセットアップをおこなってください。
- 再測定後の結果も、接続している状態と異なる結果が出た場合や、再度エラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性がありますので、必ず本機の電源を切り、スピーカーの接続を確かめ、最初から測定をやり直してください。
- **スピーカーの位置や向きを変えた場合は、最適なイコライザーの補正を得るために、再び Audyssey オートセットアップをおこなってください。**

エラーメッセージについて

スピーカーの設置や測定環境などにより、Audyssey オートセットアップを完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。
エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目をチェックし、必要な処理をおこなってください。問題点を修正したら、再び Audyssey オートセットアップをおこなってください。

❑ 再び Audyssey オートセットアップをおこなうとき

△▽ を押して“再測定”を選び、**ENTER** を押す。

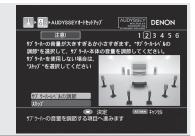
❑ 測定を中止するとき

RETURN を押すと“オートセットアップを中止しますか ?”が表示されます。
◁ ▷ を押して“はい”を選び、**ENTER** を押す。

エラーメッセージ（例）	エラー内容	処　理
AUDYSSEYオートセットアップ 注意!　1 2 3 4 5 6 サブウーハーの音量が大きすぎるか小さすぎます。"サブウーハーレベルの調節"を選択して、サブウーハー本体の音量を調節してください。 サブウーハーを使用しない場合は、"スキップ"を選択してください サブウーハーレベルの調節 スキップ 決定　RETURN キャンセル サブウーハーの音量を調節する項目へ進みます	●サブウーハーの音量が適切でないため、正しく測定できません。	●アンプ内蔵のサブウーハー（アクティブ方式）をご使用の場合は、“サブウーハーレベルの調節”（☞37 ページ）でサブウーハーの音量を調節してください。 ●アンプが内蔵されていないサブウーハーをご使用の場合は、“スキップ”を選び、**ENTER** を押してください。
AUDYSSEYオートセットアップ 注意! マイクが挿されていないか、スピーカーがありません 再測定 RETURN キャンセル 該当するエラー内容を確認してください	●付属のセットアップマイクが接続されていません。 ●すべてのスピーカーが検出されません。 ●フロント左スピーカーが正しく検出されません。	●付属のセットアップマイクを本体のSETUP MIC 端子に接続してください。 ●スピーカーの接続を確認してください。
AUDYSSEYオートセットアップ 注意! 暗騒音が大きすぎるか出力レベルが小さすぎます 再測定 RETURN キャンセル 該当するエラー内容を確認してください	●部屋の騒音が大きいため、正しく測定できません。 ●スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しく測定できません。	●騒音を発生する機器の電源を切るか、遠ざけてください。 ●周囲がより静かなときに再度おこなってください。 ●スピーカーの設置や向きを確認してください。 ●サブウーハーの音量を調節してください。
AUDYSSEYオートセットアップ 注意!　1 2 3 4 5 6 フロント右　無し 再測定 RETURN キャンセル 該当するエラー内容を確認してください	●表示されたスピーカーが検出されませんでした。	●表示されたスピーカーの接続を確認してください。
AUDYSSEYオートセットアップ 注意!　1 2 3 4 5 6 フロント左　位相逆 再測定 スキップ RETURN キャンセル 該当するエラー内容を確認してください	●表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。	●表示されたスピーカーの極性を確認してください。 ●スピーカーによっては、正しく接続してもこのエラーメッセージが表示される場合があります。接続が正しいときには、△▽ を押して“スキップ”を選び、**ENTER** を押してください。

サブウーハーレベルの調節

サブウーハーチャンネルの最適なレベルは、75dB です。サブウーハーレベルの測定（☞「3：Audyssey オートセットアップをおこなう」、“ステップ2：スピーカー検出”（☞34 ページ）の手順 1 の①）で、サブウーハーレベルが 72 ～ 78dB 以外のときにエラーを表示します。
ここでは、このサブウーハーレベルが 72 ～ 78dB 以内になるように、サブウーハーの調節をおこないます。

1 “サブウーハーレベルの調節”を選び、ENTER を押す。

2 “サブウーハーテストスタート”を選び、ENTER を押す。
サブウーハーレベルの測定がはじまります。
測定を開始すると、“テスト中…”が表示されます。
約3～5秒すると、レベル表示部に測定レベル値が表示されます。

※ 測定レベル値が72～78dB以外のときには、レベル表示部が赤色に表示されます。
※ 測定を中止するときは、**ENTER** を押してください。

3 お手持ちのサブウーハーで、測定レベルが72～78dB以内になるように調節する。

※ 測定レベル値が72～78dB以内になると、レベル表示部が青色に表示されます。

4 測定レベル値が72～78dB以内になったら、ENTER を押す。

5 “次へ”を選び、ENTER を押す。
「3：Audyssey オートセットアップをおこなう」、“ステップ2：スピーカー検出”（☞34ページ）の手順1の②へ進みます。

Audyssey オートセットアップ後に測定結果やイコライザーの特性を確認する（パラメーター確認）

この項目は、Audyssey オートセットアップ実行後に表示されます。

1 ▽ を押して“パラメーター確認”を選び、ENTER または ▷ を押す。

2 △▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER または ▷ を押す。

スピーカー構成確認 / 距離確認 / チャンネルレベル確認 / クロスオーバー確認 / EQ確認

3 △▽ を押して確認したいチャンネルを選ぶ。
各スピーカーの測定結果を表示します。

※ 手順 2 で“EQ 確認”を選んだときは、△▽ を押して確認したい補正カーブ（“Audyssey”または“Audyssey Flat”）を選んでください。
※ 他の項目を確認したいときに **RETURN** を押すと、手順 2 に戻りますので、手順 2、3 をおこなってください。

“再設定”を“する”に設定すると、各設定を手動で変更した場合でも Audyssey オートセットアップの測定結果（MultEQ XT が当初計算した値）に戻すことができます。

詳細な設定をする（マニュアル設定）

各メニューの選択 / 設定 / 解除については「GUI メニューの操作のしかた」（☞29 ページ）をご覧ください。

Audyssey オートセットアップの設定内容を変更する場合や、音声、映像、表示などの設定を変更する場合に設定します。

- Audyssey オートセットアップをおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、MultEQ® XT、Dynamic EQ™ および Dynamic Volume™ の選択ができなくなります（☞74、75 ページ）。
- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。
- 「GUI メニューマップ」と「GUI メニューの操作のしかた」は、28、29 ページをご覧ください。

❑ “マニュアル設定”でできること

スピーカーの設定をする（スピーカーの設定）

GUI

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey オートセットアップで設定された内容を変更するときにおこなってください。

設定項目	設定内容
アンプの割り当て SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子に接続されたスピーカーに出力する信号を設定します。	**通常**：サラウンドバックチャンネルの音声を出力します。 **ゾーン 2**：ゾーン 2 の音声を出力します。 **ゾーン 3**：ゾーン 3 の音声を出力します。 **ゾーン（モノラル）**：マルチゾーン（ゾーン 2、ゾーン 3）の音声をモノラルで出力します。 **バイアンプ**：バイアンプ接続用にフロントチャンネルの音声を出力します。 **2ch**：2 チャンネルの DIRECT および STEREO モードのときにフロントチャンネルの音声を出力します。 **フロントハイト**：フロントハイトチャンネルの音声を出力します。 **フロントワイド**：フロントワイドチャンネルの音声を出力します。
スピーカー構成 スピーカーの有り・無しや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。 ご注意 “大”と“小”の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、“クロスオーバー周波数”（☞41 ページ）で設定した周波数を基準とした低域再生能力で判断してください。	**フロント**：フロントスピーカーの大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • “サブウーハー”の設定が“無し”の場合、“フロント”の設定は自動的に“大”になります。 • “フロント”の設定が“小”の場合、“センター”、“サラウンド A”、“サラウンド B”、“サラウンドバック”、“フロントハイト”および“フロントワイド”を“大”に設定することはできません。
	センター：センタースピーカーの有無 / 大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **無し**：センタースピーカーを使用しません。 “フロント”の設定が“小”の場合、“大”は表示されません。
	サブウーハー：サブウーハーの有無を設定します。 • **有り**：サブウーハーを使用します。 • **無し**：サブウーハーを使用しません。 “フロント”の設定が“小”の場合、“サブウーハー”の設定は自動的に“有り”になります。

リモコンの操作ボタン
SEARCH MENU :メニューを表示する メニューを解除する
:カーソルを移動する（上/下/左/右）
ENTER :設定を確定する
RTN :ひとつ前のメニューに戻る

設定項目	設定内容
スピーカー構成 （つづき）	**サラウンド A**：サラウンド A スピーカーの有無 / 大きさを設定します。 •**大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 •**小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 •**無し**：サラウンドスピーカー A を使用しません。 •“サラウンド A”または“サラウンド B”の設定が“大”のとき、“サラウンドバック”、“フロントハイト”および“フロントワイド”を“大”に設定できます。 •“サラウンド A”の設定が“無し”のとき、“サラウンド B”、“サラウンドバック”、“フロントハイト”および“フロントワイド”の設定は自動的に“無し”になります。
	サラウンド B：サラウンド B スピーカーの有無 / 大きさを設定します。 •**大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 •**小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 •**無し**：サラウンドスピーカー B を使用しません。 “サラウンド A”または“サラウンド B”の設定が“大”のとき、“サラウンドバック”、“フロントハイト”および“フロントワイド”を“大”に設定できます。
	サラウンドバック：サラウンドバックスピーカーの有無 / 大きさ / 本数を設定します。 •**大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 •**小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 •**無し**：サラウンドバックスピーカーを使用しません。 •**2 台**：サラウンドバックスピーカーを 2 本使用します。 •**1 台**：サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用します。 この設定を選んだときには、サラウンドバックスピーカーを左（L）チャンネルに接続してください。 •“アンプの割り当て”の設定（☞38 ページ）が“通常”以外のときは、“サラウンドバック”の設定ができません。 •サラウンドバックスピーカーを“無し”以外に設定しても、再生するソースによっては、サラウンドバックスピーカーから音声が出力されない場合があります。この場合は、“サラウンドパラメータ”⇨“サラウンドバック”（☞73 ページ）を“オフ”以外に設定してください。

設定項目	設定内容
スピーカー構成 （つづき）	**フロントハイト**：フロントハイトスピーカーの有無 / 大きさを設定します。 •**大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 •**小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 •**無し**：フロントハイトスピーカーを使用しません。 “アンプの割り当て”の設定（☞38 ページ）が“フロントハイト”以外のとき、“フロントハイト”の設定はできません。
	フロントワイド：フロントワイドスピーカーの有無 / 大きさを設定します。 •**大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 •**小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 •**無し**：フロントワイドスピーカーを使用しません。 “アンプの割り当て”の設定（☞38 ページ）が“フロントワイド”以外のとき、“フロントワイド”の設定はできません。
低音域の設定 サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。	**サブウーハーモード**：サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。 •**LFE**：サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさが“小”に設定されているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 •**LFE+ メイン**：サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 •“スピーカー構成”⇨“サブウーハー”の設定（☞38ページ）が“有り”のときに設定できます。 •音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選んでください。 •常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+メイン”に設定してください。
	LFE 用ローパスフィルター：LFE 信号の再生帯域を設定します。 •**80Hz** / **90Hz** / **100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz**

次のページへ

詳細な設定をする（マニュアル設定）

設定項目	設定内容
距離 リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。 あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。	**メートル** / **フィート**：距離の単位を設定します。
	ステップ：距離の最小可変幅を設定します。 • **0.1m** / **0.01m** • **1ft** / **0.1ft**
	初期化：設定された内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • **はい**：設定をお買い上げ時の設定に戻します。 • **いいえ**：設定をお買い上げ時の設定に戻しません。 "初期化"を選んで **ENTER** を押すと、"設定を初期値に戻しますか？"というメッセージが表示されますので、"はい"または"いいえ"を選び、**ENTER** を押してください。
	フロント左 / **フロント右** / **センター** / **サブウーハー** / **サラウンド A 左** / **サラウンド A 右** / **サラウンド B 左** / **サラウンド B 右** / **サラウンドバック左 ＊** / **サラウンドバック右 ＊** / **フロントハイト左** / **フロントハイト右** / **フロントワイド左** / **フロントワイド右**：スピーカーを選びます。 ＊："スピーカー構成"⇨"サラウンドバック"の設定（☞39 ページ）が"1 台"のときは、"サラウンドバック"を表示します。 • **0.00m ～ 18.00m** / **0.0ft ～ 60.0ft**：距離を設定します。 • "スピーカー構成"（☞38 ページ）で"無し"に設定したスピーカーは表示されません。 • "アンプの割り当て"（☞38 ページ）および"スピーカー構成"（☞38 ページ）の設定により、選択できるスピーカーが異なります。 • お買い上げ時の設定： フロント / センター / サブウーハー / フロントハイト / フロントワイド：3.6 メートル（12 フィート） サラウンド A / サラウンド B / サラウンドバック：3.0 メートル（10 フィート） • 各スピーカーに設定した距離の差は、6.00 メートル（20.0 フィート）以下になるように設定してください。

設定項目	設定内容
チャンネルレベル 各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。	**サラウンドスピーカー**：テストトーンを出力するサラウンドスピーカーを設定します。 • **A**：テストトーンをサラウンドスピーカー A から出力します。 • **B**：テストトーンをサラウンドスピーカー B から出力します。 • **A+B**：テストトーンをサラウンドスピーカー A と B から出力します。 "スピーカー構成"⇨"サラウンド A"と"サラウンド B"の設定が"大"または"小"のときに設定できます。
	テストトーン：テストトーンを出力します。 • **フロント左** / **フロントハイト左** / **センター** / **フロントハイト右** / **フロント右** / **フロントワイド右** / **サラウンド右** / **サラウンドバック右 ＊** / **サラウンドバック左 ＊** / **サラウンド左** / **フロントワイド左** / **サブウーハー**：スピーカーを選びます。 ＊："スピーカー構成"⇨"サラウンドバック"の設定（☞39 ページ）が"1 台"のときは、"サラウンドバック"を表示します。 • **-12.0dB ～ 12.0dB（0.0dB）**：音量を調節します。 • "スピーカー構成"の設定（☞38 ページ）で、"無し"に設定されているスピーカーは表示しません。 • サブウーハーの音量が"-12dB"のときに ◁ を押すと、"サブウーハー"の設定は"オフ"になります。 • サラウンドスピーカーをご使用になる場合は、必ず各スピーカーの音量を調節してください。 • 本体の PHONES 端子にヘッドホンが挿入されている場合は、"チャンネルレベル"を表示しません。 • リモコンの **CHANNEL LEVEL** を押しても設定できます（☞82 ページ「チャンネルレベルを調節する」）。
	初期化：設定された内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • **初期化する**：設定をお買い上げ時の設定に戻します。 • **初期化しない**：設定をお買い上げ時の設定に戻しません。

設定項目	設定内容
クロスオーバー周波数 各チャンネルからサブウーハーに出力する低音域信号の上限の周波数を設定します。クロスオーバー周波数は、スピーカーの低音域の再生能力に合わせて設定してください。	**40Hz** / **60Hz** / **80Hz** / **90Hz** / **100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz**：クロスオーバー周波数を設定します。 **スピーカー別**：スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。 • **フロント** / **センター** / **サラウンド A** / **サラウンド B** / **サラウンド A+B** / **サラウンドバック** / **フロントハイト** / **フロントワイド**：スピーカーを選びます。 • **40Hz** / **60Hz** / **80Hz** / **90Hz** / **100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz**：クロスオーバー周波数を設定します。 • “スピーカー構成” ⇨ “サブウーハー” の設定（☞38 ページ）が “有り”、または “フロント” 以外のスピーカーで “小” に設定されているスピーカーがあるときに設定できます。 • クロスオーバー周波数は、通常 “80Hz” に設定してください。ただし、小型スピーカーをご使用になる場合は、より高い周波数に設定することをおすすめします。 • “小” に設定されているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。 • “サブウーハーモード”（☞39 ページ）の設定により、“スピーカー別” のときに設定できるスピーカーが異なります。 　• “LFE” の場合は、“スピーカー構成” で “小” に設定されているスピーカーの設定ができます。“大” に設定されているスピーカーのときは、“フルバンド” が表示され、設定できません。 　• “LFE+ メイン” の場合は、スピーカーの大きさに関係なく設定ができます。

設定項目	設定内容
サラウンドスピーカーの設定 サラウンドモードごとに使用するサラウンドスピーカーを設定します。	**DOLBY/DTS Cinema**：Dolby/DTS Cinema モードのときに使用するサラウンドスピーカーを設定します。 **DOLBY/DTS Music**：Dolby/DTS Music モードのときに使用するサラウンドスピーカーを設定します。 **DOLBY Game**：Dolby Game モードのときに使用するサラウンドスピーカーを設定します。 **DOLBY Height**：Dolby Height モードのときに使用するサラウンドスピーカーを設定します。 **WIDE SCREEN**：WIDE SCREEN モードのときに使用するサラウンドスピーカーを設定します。 **7CH STEREO**：7CH STEREO モードのときに使用するサラウンドスピーカーを設定します。 **DSP SIMULATION**：DENON オリジナルサラウンドモードのときに使用するサラウンドスピーカーを設定します。 **MULTI CH MODE**：PCM や DSD のマルチチャンネルモードのときに使用するサラウンドスピーカーを設定します。 • **A**：サラウンドスピーカー A を使用します。 • **B**：サラウンドスピーカー B を使用します。 • **A+B**：サラウンドスピーカー A と B の両方を使用します。 • “サラウンドスピーカーの設定” は、“スピーカー構成” ⇨ “サラウンド A” および “サラウンド B” の設定（☞39 ページ）が “大” または “小” のときに表示します。 • プリアウト端子をご使用の場合は、“A” または “B” に設定してください。 • 入力モードが “EXT. IN” のときのサラウンドスピーカーの設定は、“外部入力の設定”（☞43 ページ）でおこなってください。 • “スピーカー構成” ⇨ “サラウンド A” または “サラウンド B” の設定（☞39 ページ）が “小” のときに、サラウンドスピーカー A と B を同時に使用する場合は、“サラウンド A” および “サラウンド B” が “小” に設定されているときと同じ出力で再生します。

HDMIの設定をする（HDMI設定） GUI

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

HDMIの映像や音声出力に関する設定をします。

設定項目	設定内容
RGB映像レンジ HDMI端子から出力する映像信号の方式を設定します。	**ノーマル**：RGBの映像方式（16（黒）～235（白））で出力します。 **エンハンスド**：RGBの映像方式（0（黒）～255（白））で出力します。 DVI 端子付きのテレビを使用時に有効です。
バーチカルストレッチ 映像信号を垂直方向に伸張します。	**オン**：映像信号を垂直方向に伸張します。 **オフ**：映像信号を垂直方向に伸張しません。 HDMI 対応のテレビをご使用の場合は、HDMI 出力に対して有効です。また、HDMI 対応のテレビを使用しない場合は、アナログ出力に対して有効です。
オートリップシンク 出力する音声と映像の時間のずれを自動的に補正します。	**オン**：補正します。 **オフ**：補正しません。
HDMI音声出力 HDMIの音声の出力先を設定します。	**アンプ**：本機に接続されたスピーカーで再生します。 **TV**：本機に接続されたテレビで再生します。 HDMIコントロール機能がはたらいているときは、本機に接続されたテレビの音声設定を優先します（☞81ページ「HDMIコントロール機能」）。
モニター出力 HDMIのモニター出力を設定します。	**オート（デュアル）**：モニター1またはモニター2端子に接続されたテレビを自動的に認識して使用します。 **モニター1**：モニター1端子に接続されたテレビを常に使用します。 **モニター2**：モニター2端子に接続されたテレビを常に使用します。 • モニター1およびモニター2端子にテレビを接続した場合、“解像度”の設定（☞55ページ）が“オート”のときは、両方のテレビが対応している解像度で出力します。 • “解像度”を“オート”以外に設定するときは、“HDMI情報”⇨“モニター1”および“モニター2”（☞78ページ）で、ご使用のテレビが対応している解像度を確認してください。 • 接続しているモニターによっては、“オート（デュアル）”に設定すると正常に表示されない場合があります。このようなときは、“モニター1”または“モニター2”を選んでください。 • “モニター出力”は、リモコンの **M.SEL** を押しても設定できます。

設定項目	設定内容
HDMIコントロール 外部機器を本機で操作したり、外部機器から本機を操作したりします。 • 接続された機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。 • HDMIコントロール機能については、「HDMIコントロール機能」（☞81ページ）をご覧ください。 • “コントロール”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。 ご注意 HDMIコントロール機能は、HDMIコントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMIコントロールをおこなうときは、必ずテレビを接続してください。	**コントロール** • **オン**：HDMIコントロール機能を使用します。 • **オフ**：HDMIコントロール機能を使用しません。 HDMIコントロール機能に対応していない機器と接続した場合は、“コントロール”を“オフ”に設定してください。 ご注意 • **本設定を“オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。** • 長期間本機を使用しない場合は、本体の電源スイッチ（▬ON ■OFF）を押して電源を切る（■OFF）ことをおすすめします。 • 本機が電源オフの場合、HDMIコントロール機能は動作しません。電源をオンにするか、スタンバイ状態にしてください。
	スタンバイ時のHDMI入力：スタンバイ時にHDMI信号を入力するHDMI端子を設定します。 • **最後のソース**：電源がオンのときに、最後に使用していた入力ソースのままスタンバイします。 • **HDMI1** / **HDMI2** / **HDMI3** / **HDMI4** / **HDMI5** / **HDMI6**：それぞれの入力端子が割り当てられている入力ソースでスタンバイします。 “コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。
	コントロールモニター：HDMIコントロール信号を出力するHDMIモニター端子を設定します。 • **モニター1**：モニター1端子から出力します。 • **モニター2**：モニター2端子から出力します。 “コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。
	パワーオフコントロール：本機と外部機器の電源オフを連動します。 • **オン**：連動させます。 • **オフ**：連動させません。 “コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。

リモコンの操作ボタン

SEARCH MENU :メニューを表示する メニューを解除する

 :カーソルを移動する（上/下/左/右）

 :設定を確定する

RTN :ひとつ前のメニューに戻る

音声の設定をする（音声の設定）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音声の再生に関する設定をします。

設定項目	設定内容
外部入力の設定 外部入力端子（EXT. IN）から入力されたアナログ信号の再生方法を設定します。	**サラウンドスピーカー**：EXT. IN モードで再生するときに使用するサラウンドスピーカーを設定します。 • **A**：サラウンドスピーカー A を使用します。 • **B**：サラウンドスピーカー B を使用します。 • **A+B**：サラウンドスピーカー A と B の両方を使用します。 “スピーカー構成”⇨“サラウンド A”および“サラウンド B”の設定（☞39 ページ）が“大”または“小”のときに設定できます。
	サブウーハーレベル：外部入力端子（EXT. IN）から入力されたサブウーハー信号の再生レベルを設定します。 • **+15dB**：推奨レベルです。 • **+10dB** / **+5dB** / **0dB**：ご使用になるプレーヤーに合わせて設定します。
2ch ダイレクト / ステレオ 2 チャンネルモードで再生するときのスピーカーの各種設定をします。	**設定**：2 チャンネルのダイレクト再生またはステレオ再生時に使用するスピーカーの設定方法を選びます。 • **基本**：“スピーカー構成”（☞38 ページ）の設定内容を適用します。 • **変更**：2 チャンネル専用の設定をします。
	フロント：フロントスピーカーの大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 “スピーカー構成”⇨“サブウーハー”（☞38 ページ）の設定が“無し”のときは、自動的に“大”になります。
	サブウーハー：サブウーハーの有無を設定します。 • **有り**：サブウーハーを使用します。 • **無し**：サブウーハーを使用しません。 “スピーカー構成”⇨“サブウーハー”（☞38 ページ）の設定が“無し”のときは、自動的に“無し”になります。また、“フロント”の設定が“小”のときは、自動的に“有り”になります。

設定項目	設定内容
2ch ダイレクト/ステレオ （つづき）	**サブウーハーモード**：サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。 • **LFE**：“2ch ダイレクト / ステレオ”⇨“フロント”の設定（☞43 ページ）が“大”に設定されている場合は、サブウーハーから LFE 信号のみを出力します。また、“2ch ダイレクト / ステレオ”⇨“フロント”の設定が“小”に設定されている場合は、LFE 信号にフロントチャンネルの低音域信号を加えて、サブウーハーから出力します。 • **LFE+ メイン**：LFE 信号に、フロントチャンネルの低音域信号を加えて、サブウーハーから出力します。 “2ch ダイレクト / ステレオ”⇨“サブウーハー”の設定（☞43 ページ）が“有り”のときに設定できます。
	クロスオーバー：各チャンネルからサブウーハーに出力する、低音域信号の上限の周波数を設定します。 • **40Hz** / **60Hz** / **80Hz** / **90Hz** / **100Hz** / **110Hz** / **120Hz** / **150Hz** / **200Hz** / **250Hz** • “2ch ダイレクト / ステレオ”⇨“サブウーハー”の設定（☞43 ページ）が“有り”のときに設定できます。 • “フロント”の設定が“大”で、“サブウーハーモード”の設定が“LFE”のときは、“フルバンド”が表示され設定できません。
	距離 フロント左 / **距離 フロント右**：スピーカーを選びます。 • **0.00m ～ 18.00m**（**3.60m**）/**0.0ft ～ 60.0ft**（**12.0ft**）：スピーカーまでの距離を設定します。 フロント左スピーカーとフロント右スピーカーの距離の差は、6.00 メートル（20.0 フィート）以下になるように設定してください。
	レベル フロント左 / **レベル フロント右**：スピーカーを選びます。 • **-12.0dB ～ +12.0dB**（**0.0dB**）：各チャンネルのレベルを調節します。

次のページへ

詳細な設定をする（マニュアル設定）

設定項目	設定内容
オートサラウンドモード 入力信号の種類ごとにサラウンドモードの設定を記憶します。	**オン**：記憶します。入力信号の種類に対して、最後に設定したサラウンドモードで、自動的に再生します。 **オフ**：記憶しません。入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。 • オートサラウンドモードは、次の 4 種類の入力信号に対して、最後に設定したサラウンドモードを記憶します。 ① アナログや PCM の 2 チャンネル信号 ② ドルビーデジタルや DTS などの 2 チャンネル信号 ③ ドルビーデジタルや DTS などのマルチチャンネル信号 ④ ドルビーデジタルや DTS 以外の PCM のマルチチャンネル信号（PCM や DSD など） • ピュアダイレクト再生中は、入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。
EQ カスタマイズ リモコンの **MULTEQ XT** を押したときに、使用しないイコライザーが表示されないように設定します。 “クイックセレクト”で“使用しない”に設定したイコライザーを記憶させて呼び出すことはできません。	**Audyssey Byp. L/R**：“Audyssey Byp L/R”イコライザーを使用しないときに設定します。 • **使用する** • **使用しない** Audysseyオートセットアップを実行すると、“Audyssey Byp. L/R”の設定ができます。
	Audyssey Flat：“Audyssey Flat”イコライザーを使用しないときに設定します。 • **使用する** • **使用しない** Audyssey オートセットアップを実行すると、“Audyssey Flat”の設定ができます。
	マニュアル：“マニュアル”イコライザーを使用しないときに設定します。 • **使用する** • **使用しない**
バイリンガルモード AAC ソースやドルビーデジタルソースの二重音声の出力内容を設定します。	**主音声**：主音声のみ出力します。
	副音声：副音声のみ出力します。
	主＋副：主音声と副音声がミックスされて出力します。
	主 / 副：主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。

ネットワークの設定をする（ネットワーク設定）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

ネットワークに関する設定をします。

設定項目	設定内容
ネットワーク接続 有線 LAN の設定をします。	**1.** LAN ケーブルを接続する（☞26 ページ「ホームネットワーク（LAN）に接続する」）。 **2.** 本機の電源を入れる（☞27 ページ「電源を入れる」）。 本機は、DHCP 機能によりネットワークの設定を自動的におこないます。 DHCP 機能のないネットワークに接続する場合のみ、手順 3 の設定をおこなってください。 **3.** IP アドレスを設定する。 ① “詳細設定”を選び、**ENTER** を押す。 ② ◁ ▷ ボタンで“DHCP”を“オフ”に設定し、▽ を押す。 DHCP 機能を無効にします。 ③ △▽▷ でアドレスを入力し、**ENTER** を押す。 • **IP アドレス**：入力する IP アドレスは下記の範囲で設定してください。下記以外の IP アドレスではネットオーディオ機能を使用することができません。 CLASS A: 10.0.0.0 ～ 10.255.255.255 CLASS B: 172.16.0.0 ～ 172.31.255.255 CLASS C: 192.168.0.0 ～ 192.168.255.255 • **サブネットマスク**：xDSL モデムやターミナルアダプタを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面などで通知されたサブネットマスクを入力します。通常は 255.255.255.0 が入ります。 • **デフォルトゲートウェイ**：ゲートウェイ（ルータ）に接続している場合は、その IP アドレスを入力します。 • **プライマリー DNS, セカンダリー DNS**：プロバイダから書面などで通知された DNS アドレスが 1 つの場合は、“プライマリー DNS”に入力してください。2 つ以上の場合は、1 つを“セカンダリー DNS”に入力してください。

リモコンの操作ボタン

:メニューを表示する
メニューを解除する

:カーソルを移動する
（上/下/左/右）

:設定を確定する

:ひとつ前のメニューに戻る

設定項目	設定内容
ネットワーク接続 （つづき）	④ ▽ で“終了”を選び、**ENTER** を押す。 設定が完了します。

※ プロキシ経由でネットワークに接続している場合は、“プロキシ”を選び、**ENTER** を押す（☞45 ページ「プロキシの設定」）。

- ブロードバンドルータ（DHCP 機能）をお使いの方は、本機の初期設定で DHCP 機能が“オン”になっていますので、IP アドレスとプロキシの設定は必要ありません。
- DHCP 機能のないネットワークに本機を接続してお使いになるときには、ネットワークの設定をおこなう必要があります。この場合、ネットワークに関する知識が必要となります。詳しくは、ネットワーク管理者などにお問い合わせください。
- インターネットに接続できない場合は、もう一度接続や設定を確認してください（☞26 ページ）。
- インターネットの接続について分からない場合は、ISP（インターネット・サービスプロバイダ）またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。
- IP アドレスの入力中に設定をキャンセルしたいときは、**RETURN** を押してください。

プロキシの設定：インターネットにプロキシサーバーを経由して接続する場合に設定します。

ﾈｯﾄﾜｰｸ接続
DHCP　オン
IPｱﾄﾞﾚｽ　192.168.100.33
終了
詳細設定 ①
決定
IPｱﾄﾞﾚｽやProxyの設定を行います

ﾈｯﾄﾜｰｸ接続　DE
DHCP　オン
IPｱﾄﾞﾚｽ　192 .168 .100 .033
ｻﾌﾞﾈｯﾄﾏｽｸ　255 .255 .255 .000
ﾃﾞﾌｫﾙﾄｹﾞｰﾄｳｪｲ　192 .168 .100 .001
ﾌﾟﾗｲﾏﾘｰDNS　192 .168 .100 .001
ｾｶﾝﾀﾞﾘｰDNS　000 .000 .000 .000
ﾌﾟﾛｷｼ ②
終了
決定　RETURN ｷｬﾝｾﾙ
ﾌﾟﾛｷｼｻｰﾊﾞｰを経由して接続する場合に設定します

設定項目	設定内容
ネットワーク接続 （つづき）	① “詳細設定”を選び、**ENTER** を押す。 ② △▽ で“プロキシ”を選び、**ENTER** を押す。 ③ ◁ ▷ で“プロキシ”を“オン”に設定し、▽ を押す。 プロキシサーバーを有効にします。 ④ ◁ ▷ でプロキシサーバーの入力方法を選び、▽ を押す。 **アドレス**：アドレスで入力する場合に選びます。 **ネーム**：ドメイン名で入力する場合に選びます。 ⑤ △▽◁ ▷ ボタンでプロキシサーバーのアドレスまたはドメイン名を入力し、**ENTER** を押す。 手順 ④ で“アドレス”を選んだ場合：アドレスを入力します。 手順 ④ で“ネーム”を選んだ場合：ドメイン名を入力します。 入力できる文字は、以下のとおりです。

［英小文字］	**abcdefghijklmnopqrstuvwxyz**
［英大文字］	**ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ**
［記号］	**! “ # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [\ ] ^ _ ` { | } ˜**
［数字］	**0123456789**（空白）

文字を入力中にリモコンの **SEARCH** または **MENU** を押すと、文字の種類を切り替えることができます。

⑥ △▽◁ ▷ でプロキシサーバーのポート番号を入力し、**ENTER** を押す。
⑦ ▽ で“終了”を選び、**ENTER** を押す。
設定が完了します。

次のページへ

ご使用になる前に
接続
設定
再生
マルチゾーン
リモコン操作
その他の情報
故障かな？と思ったら
保証と修理
主な仕様

詳細な設定をする（マニュアル設定）

<table>
<tr><th>設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="7">その他の設定
スタンバイ時のネットワークのオン / オフ設定やパソコンの言語を設定します。</td><td>ネットワークスタンバイ：スタンバイ時のネットワーク機能のオン / オフを設定します。
• オン：スタンバイ時に、ネットワーク機能をオンします。ネットワーク対応のコントローラーを使用して本機を操作できます。
• <u>オフ</u>：スタンバイ時に、ネットワーク機能を停止します。

ウェブコントロール機能（☞86 ページ）をご使用になるときは“オン”に設定してください。</td></tr>
<tr><td>文字コード：文字が正しく表示されない場合に、USB メモリーで再生する MP3 ID3-Tag の文字コードタイプを設定します。
• <u>オート</u>：文字コードタイプを自動で選びます。
• ラテン語：ISO 8859-1 の Latin-1 を選びます。
• 日本語：シフト JIS を選びます。

“オート”に設定したときに文字が正しく表示されない場合は、“ラテン語”または“日本語”に設定してください。</td></tr>
<tr><td>PC 言語：パソコンの言語を選びます。
• ara / chi (smpl) / chi (trad) / cze / dan / dut / eng / fin / fre / ger / gre / heb / hun / ita / <u>jpn</u> / kor / nor / pol / por / por(BR) / rus / spa / swe / tur</td></tr>
<tr><td>フレンドリーネームの編集：フレンドリーネームとは、ネットワーク上に表示される本機の名称です。63 文字まで入力できます。 お買い上げ時のフレンドリーネームは、“DENON:[AVC-4310]”です。
入力できる文字は、以下のとおりです。
【英小文字】 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
【英大文字】 ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
【記号】 ! “ # $ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [\ ] ^ _ ` { | } ~
【数字】 0123456789（空白）

文字を入力中にリモコンの SEARCH または MENU を押すと、文字の種類を切り替えることができます。</td></tr>
<tr><td>初期化：設定された内容をお買い上げ時の設定に戻します。
• 初期化する：設定をお買い上げ時の設定に戻します。
• 初期化しない：設定をお買い上げ時の設定に戻しません。</td></tr>
<tr><td>パーティーモード機能：パーティーモード機能を設定します。
• <u>オフ</u>：パーティーモード機能を無効にします。
• オン：パーティーモード機能を有効にします。

パーティーモード機能については、83 ページの「パーティーモード機能」をご覧ください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td rowspan="3">その他の設定
（つづき）</td><td>パーティースタートレベル：パーティーモードを開始するときの音量を設定します。
• <u>前回の音量</u>：パーティーモードを開始する前と同じ主音量です。
• - - -（0）：常に消音状態でパーティモードを開始します。
• -80dB ～ 18dB（1 ～ 99）：お好みの音量でパーティーモードを開始します。

• “パーティーモード機能”が“オン”のときに設定できます。
• “音量表示”（☞48 ページ）の設定が“絶対値”のときは、0 ～ 99 で表示します。
• GUI メニューの“音量の上限”（☞48 ページ）で設定されている上限値まで設定できます。</td></tr>
<tr><td>ネットワークステータス：同じネットワークに接続されている DENON 製品の状態を、最大 10 台まで表示します。
• フレンドリーネーム / モデル名 / 電源オン/スタンバイ / 選択ソース / 音量レベル / パーティーモードの状態

“ネットワークステータス”は、ネットワークステータス表示機能に対応する DENON 製品のみ表示します。</td></tr>
<tr><td>アップデート通知：“ファームウェアのアップデート”で最新のファームウェアがリリースされている場合に、本機の GUI に通知メッセージを表示します。通知メッセージは、電源オン時に約 20 秒間表示します。この機能をご使用になるときは、インターネットブロードバンドに接続してください（☞26 ページ）。
• <u>オン</u>：アップデートの通知を表示します。
• オフ：アップデートの通知を表示しません。

• 通知メッセージが表示されている間に ENTER を押すと、“アップデートの確認”画面が表示されます。（“ファームウェアのアップデート”の詳細は、51 ページをご覧ください。）
• 通知メッセージを消去するときは、RETURN を押してください。</td></tr>
</table>

設定項目	設定内容
その他の設定 （つづき）	**アップグレード通知**：“新機能の追加”でダウンロード可能なファームウェアがリリースされている場合に、本機の GUI に通知メッセージを表示します。通知メッセージは、電源オン時に約 20 秒間表示します。この機能をご使用になるときは、インターネットブロードバンドに接続してください（☞26 ページ）。 • **オン**：アップグレードの通知を表示します。 • **オフ**：アップグレードの通知を表示しません。 • 通知メッセージが表示されている間に **ENTER** を押すと、“新機能の追加”画面が表示されます。（“新機能の追加”の詳細は、51 ページをご覧ください。） • 通知メッセージを消去するときは、**RETURN** ボタンを押してください。
ネットワーク情報 ネットワークの情報を表示します。	**フレンドリーネーム** / **DHCP=オンまたはオフ** / **IPアドレス** / **MACアドレス**

マルチゾーンの設定をする（ゾーンの設定） GUI

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

マルチゾーン（ゾーン 2、ゾーン 3）で再生する音声の設定をします。

設定項目	設定内容
低音 低音のトーンを調節します。	**-10dB ～ +10dB（0dB）**
高音 高音のトーンを調節します。	**-10dB ～ +10dB（0dB）**
ハイパスフィルター 低音が歪んで聞こえるときに、低域成分をカットして出力します。	**オフ**：低域成分をカットしません。 **オン**：低域成分をカットして出力します。
左レベル 左チャンネルの出力レベルを調節します。	**-12dB ～ 12dB（0dB）** “左レベル”は、“チャンネル”の設定（☞47 ページ）が“ステレオ”のときに設定できます。
右レベル 右チャンネルの出力レベルを調節します。	**-12dB ～ 12dB（0dB）** “右レベル”は、“チャンネル”の設定（☞47 ページ）が“ステレオ”のときに設定できます。
チャンネル マルチゾーンから出力する信号を設定します。	**ステレオ**：ステレオ信号を出力します。 **モノラル**：モノラル信号を出力します。 “アンプの割り当て”（☞38 ページ）を“ゾーン（モノラル）”に設定すると、“チャンネル”の設定は自動的に“モノラル”になります。
音量表示 音量の表示方法を設定します。	**相対値**：- - -dB（最小）、-80dB ～ 18dB の範囲で表示します。 **絶対値**：0（最小）～ 99 の範囲で表示します。 • “音量表示”を設定すると、“音量レベル”、“音量の上限”や“電源オン時の音量”の表示方法も切り替わります。 • “音量表示”の設定は、すべてのゾーンに対して適用します。

次のページへ

詳細な設定をする（マニュアル設定）

設定項目	設定内容
音量レベル 音量出力レベルを設定します。	**可変**：本機やリモコンで音量の調節ができます。 **-40dB**（**41**）：音量は常に -40dB になります。外部のアンプで音量を調節する場合に設定します。 **0dB**（**81**）：音量は常に 0dB になります。外部のアンプで音量を調節する場合に設定します。 “アンプの割り当て”の設定（☞38 ページ）が“ゾーン 2”、“ゾーン 3”または“ゾーン（モノラル）”のとき、“音量レベル”は“可変”になります。
音量の上限 音量の上限を設定します。	**オフ**：設定しません。 **-20dB**（**61**）/ **-10dB**（**71**）/ **0dB**（**81**） マルチゾーンの“音量レベル”の設定（☞48 ページ）が“可変”のときに設定できます。
電源オン時の音量 電源を入れた時の音量を設定します。	**前回の音量**：記憶している音量になります。 **- - -**（**0**）：常に電源を入れたときは消音状態になります。 **-80dB** ～ **18dB**（**1** ～ **99**）：設定した音量になります。 マルチゾーンの“音量レベル”の設定（☞48 ページ）が“可変”のときに設定できます。
ミューティングレベル ミューティング時の音量の減衰量を設定します。	**消音**：消音状態になります。 **-40dB**：現在の音量から 40dB 下げて再生します。 **-20dB**：現在の音量から 20dB 下げて再生します。

その他の設定をする（その他の設定）

GUI

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

設定項目	設定内容
音量の設定 メインゾーンの音量に関する設定をします。	**音量表示**：音量の表示方法を設定します。 • **相対値**：- - -dB（最小）、-80dB ～ 18dB の範囲で表示します。 • **絶対値**：0（最小）～ 99 の範囲で表示します。 • “音量表示”を設定すると、“音量の上限”や“電源オン時の音量”の表示方法も切り替わります。 • “音量表示”の設定は、すべてのゾーンに対して適用します。
	音量の上限：音量の上限を設定します。 • **オフ**：設定しません。 • **-20dB**（**61**）/ **-10dB**（**71**）/ **0dB**（**81**）
	電源オン時の音量：電源を入れたときの音量を設定します。 • **前回の音量**：記憶している音量になります。 • **- - -**（**0**）：常に電源を入れたときは消音状態になります。 • **-80dB** ～ **18dB**（**1** ～ **99**）：設定した音量になります。
	ミューティングレベル：ミューティング時の音量の減衰量を設定します。 • **消音**：消音状態になります。 • **-40dB**：現在の音量から 40dB 下げて再生します。 • **-20dB**：現在の音量から 20dB 下げて再生します。
使用ソースの選択 使用しない入力ソースを表示しないように設定します。	**PHONO** / **CD** / **DVD** / **HDP** / **TV** / **SAT/CBL** / **VCR** / **DVR** / **V.AUX** / **NET/USB** / **TUNER**：使用しない入力ソースを選びます。 • **使用する** • **使用しない** ご注意 • 選択中の入力ソースの設定はできません。 • “使用しない”に設定された入力ソースは、本体またはリモコンの **SOURCE SELECT** を操作しても選択できません。

リモコンの操作ボタン

:メニューを表示する
メニューを解除する

:カーソルを移動する
（上/下/左/右）

:設定を確定する

RTN :ひとつ前のメニューに戻る

設定項目	設定内容
GUI GUI の表示に関する設定をします。	**スクリーンセーバー**：スクリーンセーバーの表示を設定します。 • **オン**：GUI メニューの表示中や NET/USB / iPod 再生画面を表示中に、約 3 分間何も操作しない状態が続くと、スクリーンセーバーが動作します。△▽◁ ▷ を押すと、スクリーンセーバーを解除し、前の画面を表示します。 • **オフ**：使用しません。
	壁紙：再生停止中などに背景に表示する壁紙を設定します。 • **ピクチャー**：背景をピクチャー画面（DENON ロゴ）にします。 • **黒色**：背景を黒色にします。 • **灰色**：背景を灰色にします。 • **青色**：背景を青色にします。
	フォーマット：ご使用になるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。 • **NTSC**：NTSC 方式で出力します。 • **PAL**：PAL 方式で出力します。 “フォーマット”は、以下の操作でも設定できます。このとき、GUI 画面は表示されません。 1. 本体の **DSX** と 本体の **RETURN** を 3 秒以上長押しする。 ディスプレイに“Video Format”を表示します。 2. ◁ ▷ を押して映像信号方式を設定する。 3. 本体の **ENTER**、本体の **MENU** または 本体の **RETURN** を押して、設定を終了する。 **ご注意** 接続されたテレビの映像方式と異なる方式に設定すると、映像は正しく表示されません。
	操作内容の表示：サラウンドモードや入力モードなどの切り替え操作時にモード名を表示します。 • **オン**：表示します。 • **オフ**：表示しません。
	主音量表示：主音量調節時に主音量レベルを表示します。 • **下**：画面下に表示します。 • **上**：画面上に表示します。 • **オフ**：表示しません。 主音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、“上”に設定してください。

設定項目	設定内容
GUI （つづき）	**NET/USB**：入力ソースが“NET/USB”のときに、NET/USB 画面の表示時間を設定します。 • **常に表示**：常に表示します。 • **30s**：30 秒間表示します。 • **10s**：10 秒間表示します。 • **オフ**：表示しません。
	iPod：入力ソースが“iPod”のときに、iPod 画面の表示時間を設定します。 • **常に表示**：常に表示します。 • **30s**：30 秒間表示します。 • **10s**：10 秒間表示します。 • **オフ**：表示しません。
クイックセレクトネーム “クイックセレクト”の表示名をお好みの名前に変更します。	1. △▽ を押して変更したいクイックセレクト名を選び、▷ または **ENTER** を押す。 2. ◁ ▷ を押して変更したい文字にカーソルを合わせる。 3. △▽ を押して文字を変更し、**ENTER** を押す。 ・16 文字まで入力できます。 ・文字を入力中にリモコンの **SEARCH** または **MENU** を押すと、文字の種類を切り替えることができます。 ・入力できる文字の種類は次のとおりです。 【英大文字】 **ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ** 【英小文字】 **abcdefghijklmnopqrstuvwxyz** 【記号】 **! # % & ' ( ) * + , - . / : ; < = “ > ? @ [\ ]** 【数字】 **0123456789**（空白） 4. 手順 1 ～ 3 をくり返し、表示名を変更する。

次のページへ

詳細な設定をする（マニュアル設定）

設定項目	設定内容
ゾーン名の変更 各ゾーンの表示名をお好みの名前に変更します。	**1.** △▽ ボタンを押して変更したいゾーン名（メインゾーン、ゾーン 2 またはゾーン 3）を選び、▷ または **ENTER** を押す。 **2.** ◁ ▷ を押して変更したい文字にカーソルを合わせる。 **3.** △▽ を押して文字を変更し、**ENTER** を押す。 ・10 文字まで入力できます。 ・文字を入力中にリモコンの **SEARCH** または **MENU** を押すと、文字の種類を切り替えることができます。 ・入力できる文字の種類は次のとおりです。 **［英大文字］** **ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ** **［英小文字］** **abcdefghijklmnopqrstuvwxyz** **［記号］** **! # % & ' ( ) * + , - . / : ; < = " > ? @ [\ ]** **［数字］** **0123456789**（空白） **4.** 手順 1 〜 3 をくり返し、表示名を変更する。
トリガーアウト 1 入力ソースやサラウンドモードなどに対して、トリガーアウト 1 を動作させる条件を選びます。 トリガーアウトについては、「トリガー出力端子」（☞25 ページ）をご覧ください。 **トリガーアウト 2** "トリガーアウト 1"と同様に、トリガーアウト 2 を動作させる条件を選びます。	**❏ ゾーン（MAIN ZONE / ZONE2 / ZONE3）に対して設定するとき** "オン"に設定されたゾーンの電源に連動して、トリガーアウトが動作します。 **❏ 入力ソースに対して設定するとき** "オン"に設定された入力ソースが選ばれたときに、トリガーアウトが動作します。 ✎「ゾーンに対して設定するとき」で"オン"に設定されたゾーンに対して有効です。 **❏ サラウンドモードに対して設定するとき** "オン"に設定されたサラウンドモードが選ばれたときに、トリガーアウトが動作します。 ✎「ゾーンに対して設定するとき」で"メインゾーン"が"オン"、「入力ソースに対して設定するとき」で"オン"に設定されている入力ソースが選ばれているときに有効です。 **❏ HDMI モニターに対して設定するとき** "オン"に設定された HDMI モニターが選ばれたときに、トリガーアウトが動作します。 ✎「ゾーンに対して設定するとき」で"メインゾーン"が"オン"、「入力ソースに対して設定するとき」で"オン"に設定されている入力ソースが選ばれているときに有効です。 **❏ "バーチカルストレッチ"に対して設定するとき** "バーチカルストレッチ"（☞42 ページ）を"オン"に設定したときに、連動してトリガーアウトが動作します。 • **オン** : 出力の条件にします。 • **– – –** : 条件にしません。

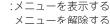
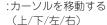
設定項目	設定内容
リモコン ID 本機のリモコンで、他の DENON 製 AV アンプが動作してしまうときに設定します。ご使用になるリモコンと本機のリモコン ID を合わせてください。	**1** / **2** / **3** / **4** ✎"リモコン ID"を変更する場合は、リモコンのメイン、iPod、NET/USB モードも同時に変更してください（☞95 ページ「リモコン ID を設定する」）。
232C ポート RS-232C 端子に外部コントローラーまたは双方向リモコンを接続して使用するときに設定します。	**シリアルコントロール**：外部コントローラーを使用します。 **双方向リモコン**：双方向リモコンを使用します。 ✎ DENON 製双方向リモコン（RC-700CI や RC-7001RCI、別売り）をご使用になる場合は、"双方向リモコン"に設定してください。 **ご注意** "232C ポート"を"双方向リモコン"に設定している場合、RS-232C 端子を外部コントローラー用として使用できません。
ディスプレイの明るさ 本体のディスプレイ表示の明るさを調節します。	**通常**：通常の明るさです。 **薄暗い**：薄暗くします。 **暗い**：暗くします。 **消灯**：ディスプレイを消灯します。
設定の保護 設定した内容を変更できないように保護します。	**オフ**：設定した内容を保護しません。 **オン**：設定した内容を保護します。 ✎ • "設定の保護"を"オン"に設定すると、以下の設定が変更できなくなります。また、以下の設定に関連するボタンを操作すると、ディスプレイに"SETUP LOCKED!"を表示します。 ·GUI メニュー操作 ·Dynamic Volume ·RESTORER ·チャンネルレベル ·音声 / 映像の調整 ·オーディオディレイ ·MultEQ XT ·入力モード ·Dynamic EQ • 設定を解除するときは、"設定の保護"を"オフ"に設定してください。
メンテナンスモード DENON のサービスエンジニアやカスタムインストーラーからメンテナンスを受けるときに使用します。	**ご注意** DENON のサービスエンジニアやカスタムインストーラーから指示があった場合のみご使用ください。

リモコンの操作ボタン

SEARCH :メニューを表示する メニューを解除する

  :カーソルを移動する（上/下/左/右）

  :設定を確定する

 :ひとつ前のメニューに戻る

設定項目	設定内容
ファームウェアのアップデート ファームウェアをアップデートします。	**アップデートの確認**：ファームアップウェアが最新かどうかの確認ができます。また、アップデートする場合のおよそのアップデート時間を確認できます。 **スタート**：アップデートを実行します。 アップデートを開始すると、電源表示が赤色に点灯し、GUI 画面はシャットダウンします。 アップデート中は、ディスプレイに経過時間を表示します。 アップデートが完了すると、電源表示が緑色に点灯し、通常の状態に戻ります。 ※ アップデートに失敗しても、本機は自動的にアップデートを再試行します。それでもアップデートできない場合は、下記のいずれかのメッセージがディスプレイに表示されます。このような場合は、設定やネットワーク環境の確認をおこなった上で、再度アップデートしてください。
新機能の追加 本機にダウンロード可能な新機能を表示し、アップグレードします。	**アップグレード**：アップグレードを実行します。 アップグレードを開始すると、電源表示が赤色に点灯し、GUI 画面はシャットダウンします。 アップグレード中は、ディスプレイに経過時間を表示します。 アップグレードが完了すると、電源表示が緑色に点灯し、通常の状態に戻ります。 ※アップグレードができなかった場合は、ディスプレイに“ファームウェアのアップデート”と同様のメッセージが表示されます。この場合は、ネットワーク環境を確認し、再度アップデートしてください。 **アップグレードステータス**：アップグレードによって追加された機能の一覧を表示します。 アップグレードをご利用になる場合の詳細については、弊社ホームページをご覧ください。 お手続きが完了すると、このメニューに“登録完了”と表示され、アップグレードすることができます。お手続きされていない場合は、“– – – – – – – –”が表示されます。 お手続きの際には、この画面に表示されている ID 番号が必要になります。 本体の ▷ と 本体の **STATUS** を 3 秒以上長押しすると、ID 番号をディスプレイに表示させることもできます。

ディスプレイ表示	説　明
Updating failed	アップデートに失敗しました。
Login failed	サーバーへのログインに失敗しました。
Server is busy	サーバーが混雑しています。しばらく時間をおいてから、やり直してください。
Connection fail	サーバーへの接続に失敗しました。
Download fail	ファームウェアのダウンロードに失敗しました。

“ファームウェアのアップデート”および“新機能の追加”をおこなったときのご注意

- これらの機能を使用するためには、インターネットブロードバンドに接続できる環境と設定が必要です（☞26 ページ）。
- アップデート / アップグレードが終わるまで、絶対に電源を切らないでください。
- アップデート / アップグレードが完了するまでに、ブロードバンド接続でも 1 時間程度の時間がかかります。
  一旦アップデート / アップグレードを開始すると、本機は完了するまで通常の操作ができなくなります。また、本機に設定したパラメーターなどのバックアップデータが初期化される場合があります。
- アップデートやアップグレード後に、以下のバックアップデータが消去されることがあります。
  - インターネットラジオのプリセットチャンネル
  - 最近再生したインターネットラジオ局のデータ
  - インターネットラジオ、メディアサーバーと USB メモリーのデータ
- アップデートやアップグレード中に、更新が失敗した場合は、本機の電源を入れ直してください。ディスプレイに“Update Retry”が表示され、失敗したところから更新を再開します。それでも失敗が続く場合は、ネットワークの環境を確認してください。

- “ファームウェアのアップデート”および“新機能の追加”に関する情報は、その計画が明らかになるたびに弊社ホームページなどで告知する予定です。
- “ファームウェアのアップデート”や“新機能の追加”で利用可能な新しいファームウェアがリリースされると GUI 画面に通知メッセージを表示します。表示させたくない場合は、“アップデート通知”（☞46 ページ）および“アップグレード通知”（☞47 ページ）を“オフ”に設定してください。

言語の設定をする（言語の設定） GUI

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

GUI に表示する言語を設定します。

設定内容
English / **Deutsch** / **Français** / **Italiano** / **Español** / **Nederlands** / **Svenska** / **日本語**

“言語の設定”は、以下の操作でも設定できます。このとき、GUI 画面は表示されません。

1. 本体の **DSX** と 本体の **RETURN** を 3 秒以上長押しする。
   ディスプレイに“Video Format”を表示します。
2. △▽ ボタンを押して“GUI Language”を選ぶ。
3. ◁ ▷ ボタンを押して言語を設定する。
4. 本体の **ENTER**、本体の **MENU** または 本体の **RETURN** ボタンを押して、設定を終了する。

ご使用になる前に　接続　設定　再生　マルチゾーン　リモコン操作　その他の情報　故障かな？と思ったら　保証と修理　主な仕様

入力の設定をする（ソース選択） GUI

各メニューの選択 / 設定 / 解除については「GUI メニューの操作のしかた」（☞29 ページ）をご覧ください。

入力ソースの選択や入力ソースの再生に関する設定をします。

❑ **“ソース選択”でできること**

入力端子の割り当てを変更する（入力端子の割り当て）☞52ページ

映像の設定をする（ビデオ）☞55ページ

入力モードとデコードモードを設定する（入力モード）☞56ページ

入力ソースの表示名を変更する（入力名の変更）☞56ページ

入力ソースの再生レベルを補正する（ソースレベル）☞56ページ

各入力ソースの再生画面を表示する（プレイ）☞56ページ

再生モードを設定する（再生モード）☞57ページ

- ❑ **iPod**（☞57ページ）
- ❑ **NET/USB**（☞57ページ）
- ❑ **Media Server** / **USB/iPod**（☞57ページ）

静止画像をスライドショーで再生する（静止画像）☞57ページ

知っておいてほしいこと

本書内の入力ソースの表示について

本書では、各項目で設定できる入力ソース名を次のようにあらわします。

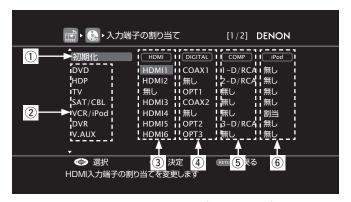
PHONO CD DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX NET/USB Internet Radio Media Server USB/iPod TUNER （Favorites）

ご注意

“使用ソースの選択”（☞48 ページ）で“使用しない”に設定した入力ソースは選択できません。

入力端子の割り当てを変更する（入力端子の割り当て） GUI

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

❑ “入力端子の割り当て”メニュー画面の表示例

① 初期化ボタン
② 入力ソース
③ HDMI 入力
④ デジタルオーディオ入力
⑤ コンポーネントビデオ入力
⑥ iPod 用コントロールドック

リモコンの操作ボタン

SEARCH MENU :メニューを表示する メニューを解除する

:カーソルを移動する（上/下/左/右）

 :設定を確定する

RTN :ひとつ前のメニューに戻る

❑ “入力端子の割り当て”メニューの操作のしかた

1 **MENU を押す。**
テレビ画面にGUIメニューを表示します。

△▽ を押して“ソース選択”を選び、ENTER または ▷ を押す。

2 **△▽ を押して設定したい入力ソースを選び、▷ を押す。**

3 **“入力端子の割り当て”を選び、ENTER または ▷ を押す。**
“入力端子の割り当て”画面を表示します。

4 **△▽◁ ▷ を押して、設定したい項目へグレーのハイライトを移動させる。**

5 **ENTER を押して、◁ ▷ で割り当てたい入力端子を選ぶ。**

6 **ENTER を押して設定を確定する。**

<table>
<tr><th>設定項目</th><th>設定内容</th></tr>
<tr><td>HDMI 端子 HDMI
入力ソースに割り当てられている HDMI 入力端子を変更するときに設定します。</td><td>DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX の入力ソースに次の HDMI 入力端子を割り当てます。
HDMI 1 / HDMI 2 / HDMI 3 / HDMI 4 / HDMI 5 / HDMI 6
無し：選択した入力ソースに HDMI 入力端子を割り当てません。
※ 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、以下のとおりです。
<table>
<tr><th>入力ソース</th><th>DVD</th><th>HDP</th><th>TV</th><th>SAT/CBL</th><th>VCR</th><th>DVR</th><th>V.AUX</th></tr>
<tr><td>お買い上げ時の設定</td><td>HDMI 1</td><td>HDMI 2</td><td>無し</td><td>HDMI 3</td><td>HDMI 4</td><td>HDMI 5</td><td>HDMI 6</td></tr>
</table>
• HDMI 入力端子を割り当てできない入力ソースには、“- - -”が表示されます。
• “HDMI 端子”で割り当てた映像信号と“デジタル端子”で割り当てた音声信号を組み合わせて再生する場合は、“入力モード”（☞56 ページ）を“デジタル”に設定してください。
• 本機とテレビを HDMI ケーブルで接続したとき、テレビが HDMI 音声の再生に対応していない場合は、映像信号のみをテレビに出力します。
• アナログ端子、デジタル端子および外部入力（EXT. IN）端子から入力された音声信号は、テレビには出力されません。
• iPod 用コントロールドックをご使用の入力ソースでは、HDMI 入力端子を割り当てていても無効になります。
• “HDMI コントロール”⇨“コントロール”を“オン”に設定している場合、“TV”に HDMI を割り当てることはできません。</td></tr>
<tr><td>デジタル端子 DIGITAL
入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子を変更するときに設定します。</td><td>DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX CD TUNER の入力ソースに次のデジタル音声入力端子を割り当てます。
COAX 1（同軸デジタル入力端子）/ COAX 2 / COAX 3 /
OPT 1（光デジタル入力端子）/ OPT 2 / OPT 3 /
D.LINK（DENON LINK 端子）＊
＊：本機と DENON 製ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーを、DENON LINK で接続した場合に設定してください（☞23 ページ「DENON LINK 端子がある機器」）。
無し：選択した入力ソースにデジタル入力端子を割り当てません。</td></tr>
</table>

次のページへ

リモコンの操作ボタン

SEARCH :メニューを表示する メニューを解除する

 :カーソルを移動する（上/下/左/右）

 :設定を確定する

RTN :ひとつ前のメニューに戻る

入力の設定をする（ソース選択）

設定項目	設定内容
デジタル端子 DIGITAL （つづき）	※各入力ソースのお買い上げ時の設定は、以下のとおりです。

入力ソース	DVD	HDP	TV	SAT/CBL	VCR
お買い上げ時の設定	COAX 1	無し	OPT 1	COAX 2	無し

入力ソース	DVD	V.AUX	CD	TUNER
お買い上げ時の設定	OPT 2	OPT 3	COAX 3	無し

iPod 用コントロールドックをご使用の入力ソースでは、デジタル入力端子を割り当てていても無効になります。

設定項目	設定内容
コンポーネント端子 COMP 入力ソースに割り当てられているコンポーネントビデオ（D）入力端子を変更するときに設定します。	DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX の入力ソースに次のコンポーネントビデオ（D）入力端子を割り当てます。 **1-D/RCA**（コンポーネントビデオ（D）1 入力端子）/ **2-RCA**（コンポーネントビデオ 2 入力端子）/ **3-D/RCA**（コンポーネントビデオ（D）3 入力端子） **無し**：選択した入力ソースにコンポーネントビデオ（D）入力端子を割り当てません。 ※各入力ソースのお買い上げ時の設定は、以下のとおりです。

入力ソース	DVD	HDP	TV	SAT/CBL	VCR	DVR	V.AUX
お買い上げ時の設定	1-D/RCA	2-RCA	無し	無し	無し	3-D/RCA	無し

- コンポーネントビデオ（D）入力端子を割り当てできない入力ソースには、"– – –" が表示されます。
- iPod 用コントロールドックをご使用の入力ソースでは、コンポーネントビデオ（D）入力端子を割り当てていても無効になります。

設定項目	設定内容
iPod dock iPod iPod 用コントロールドックの割り当てを変更します。	DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX CD TUNER の入力ソースに iPod 用コントロールドックを割り当てます。 **割当**：選択した入力ソースに、iPod 用コントロールドックの入力を割り当てます。 **無し**：選択した入力ソースに、iPod 用コントロールドックの入力を割り当てません。 • お買い上げ時の設定は"VCR"です。 • 本機に iPod 用コントロールドックを接続していないときは、"iPod dock"の割り当ては無効になり、通常の入力ソースとしてお使いいただけます。 • 映像ファイルを再生する場合は、S ビデオ端子のある入力ソースに割り当ててください。
初期化 設定された内容をお買い上げ時の設定に戻します。	**はい**：設定をお買い上げ時の設定に戻します。 **いいえ**：設定をお買い上げ時の設定に戻しません。 "初期化"を選んで **ENTER** を押すと、"設定を初期値に戻しますか？"というメッセージが表示されますので、"はい"または"いいえ"を選び、**ENTER** を押してください。

映像の設定をする（ビデオ）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

設定項目	設定内容
ビデオセレクト 映像入力をお好みの入力ソースに切り替えます。	**SOURCE**：入力ソースの映像と音声を再生します。 **DVD** / **HDP** / **TV** / **SAT/CBL** / **VCR** / **DVR** / **V.AUX**：見たい映像の入力ソースを選びます。入力ソースごとに設定できます。 本体またはリモコンの **VIDEO SELECT** を押しても設定できます。 • リモコンで操作する場合 見たい映像が表示されるまで **VIDEO SELECT** を押す。 解除するときは、**VIDEO SELECT** を押して"SOURCE"を選ぶ。 • 本体で操作する場合 **VIDEO SELECT** を押した後、見たい映像が表示されるまで **SOURCE SELECT** を回す。 解除するときは、**VIDEO SELECT** を押した後に **SOURCE SELECT** を回して、"SOURCE"を選ぶ。 **ご注意** • HDMI 入力信号は選べません。 • HDMI 信号には、ビデオセレクト機能ははたらきません。 • "使用ソースの選択"（☞48 ページ）で"使用しない"に設定した入力ソースは選べません。
ビデオコンバート 入力された映像信号を、接続されたテレビに合わせて自動的に変換します（☞13 ページ「入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）」）。	入力ソースが DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX のときに設定できます。 **オン**：入力された映像信号を変換します。 **オフ**：入力された映像信号を変換しません。 • ゲーム機などの非標準ビデオ信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。このような場合は、"ビデオコンバート"を"オフ"に設定してください。 • "ビデオコンバート"を"オフ"に設定すると、ビデオコンバージョン機能ははたらきませんので、本機とテレビの接続に同じ種類の映像ケーブルを使用してください。
i/p スケーラー 入力ソースの解像度を、設定した解像度に変換します。	**アナログ**：アナログ映像入力信号に対して i/p スケーラー機能を使用します。 **アナログ &HDMI**：アナログ映像入力信号と HDMI 入力信号の両方に対して、i/p スケーラー機能を使用します。 **オフ**：i/p スケーラー機能を使用しません。 • "ビデオコンバート"の設定が"オン"のときに設定できます。 • "アナログ &HDMI"は、HDMI 入力端子を割り当てている入力ソースに対して設定できます。 • 入力信号が x.v.Color 信号およびコンピューター解像度のときは、効果がありません。
解像度 HDMI 端子へ出力する、映像信号の解像度を設定します。	**オート**：HDMI 出力に接続しているモニターのパネル画素数を自動的に検出し、適切な解像度で出力します。 **480p/576p** / **1080i** / **720p** / **1080p** / **1080p:24Hz**：出力したい解像度を選びます。 • "i/p スケーラー"の設定が"オフ"以外のときに設定できます。 • "i/p スケーラー"の設定が"アナログ &HDMI"のときは、アナログ映像入力信号と HDMI 入力信号の解像度をそれぞれ設定できます。 • 1080p/24Hz の映像をお楽しみいただくときは、1080p/24Hz の映像信号に対応しているテレビを使用してください。 • "1080p/24Hz"に設定すると、フィルムソース（24Hz）のときに、フィルムライクな映像を楽しむことができます。ビデオソースやミックスソースの場合は、"1080p"に設定することをおすすめします。 • 50Hz の信号を 1080p/24Hz へ変換することはできません。1080p/50Hz の解像度で出力します。
プログレッシブモード 映像素材に最適なプログレッシブモードを選択します。	入力ソースが DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX のときに設定できます。 **オート**：映像の素材を自動的に検出し、適切なモードを設定します。 **ビデオ 1**：ビデオ素材の再生に適しています。 **ビデオ 2**：ビデオ素材や 30 フレームのフィルム素材の再生に適しています。 "i/p スケーラー"の設定が"オフ"以外のときに設定できます。
アスペクト HDMI 端子へ出力する、映像信号のアスペクト比を設定します。	入力ソースが DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX NET/USB のときに設定できます。 **フル**：16:9 のアスペクト比で出力します。 **ノーマル**：4:3 のアスペクト比で出力します。 "i/p スケーラー"の設定が"オフ"以外のときに設定できます。

ご使用になる前に
接続
設定
再生
マルチゾーン
リモコン操作
その他の情報
故障かな？と思ったら
保証と修理
主な仕様

入力モードとデコードモードを設定する（入力モード） GUI

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

選択できる入力モードは、入力ソースや“入力端子の割り当て”の設定（☞52 ページ）によって異なります。

設定項目	設定内容
入力モード 各入力ソースの音声入力モードを設定します。	**オート**：本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。 **HDMI**：HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。 **デジタル**：デジタル入力端子からの入力信号のみを再生します。 **アナログ**：アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。 **EXT. IN**：外部入力端子（EXT. IN）からの入力信号のみを再生します。 • “HDMI”は、“入力端子の割り当て”（☞53 ページ）で“HDMI 端子”を割り当てられている入力ソースのときに選べます。 • “デジタル”は、“入力端子の割り当て”（☞53 ページ）で“デジタル端子”を割り当てられている入力ソースのときに選べます。 • デジタル信号が正しく入力されると、ディスプレイの“DIG.”表示が点灯します。“DIG.”表示が点灯しない場合は、デジタル入力端子の割り当てや接続を確認してください。 • 入力モードが“EXT. IN”のときは、サラウンドモードの設定ができません。 • 本体の **INPUT MODE** を押しても設定できます。ボタンを押すたびに、入力モードの表示が切り替わります。 オート (Auto) → HDMI → デジタル (Digital) → アナログ (Analog) → EXT. IN → オート (Auto)
デコードモード 入力ソースのデコードモードを設定します。	入力ソースが DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX CD TUNER のときに設定できます。 **<u>オート</u>**：デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。 **PCM**：PCM 信号が入力されたときだけデコードして再生します。 **DTS**：DTS 信号が入力されたときだけデコードして再生します。 • “入力端子の割り当て”（☞52 ページ）で“HDMI 端子”または“デジタル端子”に割り当てられている入力ソースのときに選ぶことができます。 • 通常は“オート”に設定してください。“PCM”や“DTS”は、それぞれの入力信号を再生するときに設定してください。

入力ソースの表示名を変更する（入力名の変更） GUI

設定項目	設定内容
入力名の変更 選択した入力ソースの表示名を変更します。	**1**. ▷ または **ENTER** を押す。 **2**. ◁ ▷ を押して変更したい文字にカーソルを合わせる。 **3**. △▽ を押して文字を変更し、**ENTER** を押す。 • 8 文字まで入力できます。 • 文字を入力中にリモコンの **SEARCH** または **MENU** を押すと、文字の種類を切り替えることができます。 • 入力できる文字の種類は以下のとおりです。 **【英大文字】** **ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ** **【英小文字】** **abcdefghijklmnopqrstuvwxyz** **【記号】** **! # % & ‘ ( ) * + , - . / : ; < = “ > ? @ [\ ]** **【数字】** **0123456789**（空白） **4**. 手順 2、3 をくり返し、表示名を変更する。
初期化 設定内容をお買い上げ時の設定に戻します。	**初期化する**：お買い上げ時の設定に戻します。 **初期化しない**：お買い上げ時の設定に戻しません。

入力ソースの再生レベルを補正する（ソースレベル） GUI

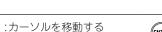
お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

• 選択した入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。
• ソースによって再生レベルに差があるときなどに設定してください。

設定内容
-12dB ～ **12dB**（**<u>0dB</u>**）

• “入力端子の割り当て”の設定（☞52 ページ）で、“HDMI 端子”または“デジタル端子”を割り当てた入力ソースに対しては、アナログ入力レベルとデジタル入力レベルを別々に調節することができます。
• 入力ソースが“Internet Radio Media Server USB/iPod Favorites”のときは、NET/USB での設定になります。

各入力ソースの再生画面を表示する（プレイ） GUI

入力ソースが“NET/USB（Favorites）Internet Radio Media Server USB/iPod（iPod）”のとき、対応する画面を表示します。

リモコンの操作ボタン
SEARCH MENU :メニューを表示する メニューを解除する
:カーソルを移動する（上/下/左/右）
ENTER :設定を確定する
:ひとつ前のメニューに戻る

iPod用コントロールドックの再生モードを設定する（再生モード） GUI

“入力端子の割り当て”（☞54 ページ）で“iPod dock”を割り当てた入力ソースのときに設定できます。

設定項目	設定内容
リピート リピート再生モードを設定します。	**すべて**：すべての曲をリピート再生します。 **1 曲**：再生中の曲をリピート再生します。 **オフ**：リピート再生モードを解除します。
シャッフル シャッフル再生モードを設定します。	**曲**：すべての曲をシャッフル再生します。 **アルバム**：再生中のアルバムの中の曲でシャッフル再生します。 **オフ**：シャッフル再生モードを解除します。

NET/USBの再生モードを設定する（再生モード） GUI

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

入力ソースが NET/USB のときに設定できます。

設定項目	設定内容
USB 端子の選択 ご使用になる USB 端子を設定します。	**前面**：前面の USB 端子を使用します。 **背面**：背面の USB 端子を使用します。

Media ServerやUSB/iPodの再生モードを設定する（再生モード） GUI

入力ソースが Media Server USB/iPod のときに設定できます。

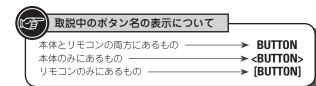
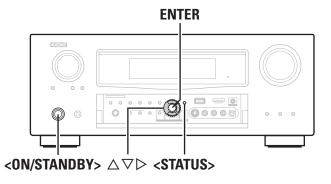
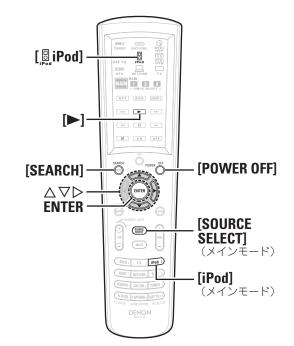
設定項目	設定内容
リピート リピート再生モードを設定します。	**すべて**：すべてのファイルをリピート再生します。 **1 曲**：再生中のファイルをリピート再生します。 **オフ**：リピート再生モードを解除します。
ランダム ランダム再生モードを設定します。	**オン**：ランダム再生します。 **オフ**：ランダム再生しません。

静止画像をスライドショーで再生する（静止画像） GUI

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

入力ソースが NET/USB のときに設定できます。

設定項目	設定内容
スライドショー スライドショーの設定をします。	**オン**：静止画像を順番に表示します。 **オフ**：選択した静止画像のみを表示します。
スライド間隔 画像 1 枚あたりの再生時間を設定します。	**5s** ～ **60s**（**5s**）

再生のしかた

知っておいてほしいこと

再生する前に、あらかじめ各機器との接続や本機の設定をおこなってください。

ご注意

- 再生する際は、接続した機器の取扱説明書もご覧ください。
- リモコンで外部の機器を操作することができます（☞91 ページ「リモコンで機器を操作する」）。

機器を再生する

ブルーレイディスク /DVD プレーヤーを再生する

- ブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーの再生手順です。他の機器の再生も同じようにおこなってください。
- あらかじめリモコンをメインモードに切り替えてください（☞91 ページ「リモコンで機器を操作する」）。

1 再生の準備をする。
① テレビやサブウーハー、プレーヤーの電源を入れる。
② テレビの入力を本機の入力に設定する。
③ プレーヤーにディスクを入れる。

2 本機の電源を入れる。
（☞27 ページ「電源を入れる」）

3 [SOURCE SELECT] を押して、入力ソースを選ぶ。
“ソース選択”メニューを表示します（☞30ページ）。

4 本機と接続した機器を再生する。
あらかじめプレーヤーの設定（言語設定や字幕設定など）をおこなってください。

5 以下の項目を調節する。
- ❑ **主音量を調節する**（☞67 ページ）
- ❑ **サラウンドモードを選ぶ**（☞69 ページ）
- ❑ **音声や映像の調整をする**（☞72 ページ）

iPod 用コントロールドックを使用して iPod® を再生する

別売りの DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-1R、ASD-11R）をご使用になると、iPod® の音楽や映像を再生することができます。

iPod® の音楽を聴く

1 再生の準備をする。
① DENON 製 iPod 用コントロールドックに、iPod® をセットする（☞19 ページ「iPod 用コントロールドック」）。
② iPod 用コントロールドックに iPod® をセットする。

2 本機の電源を入れる。
（☞27 ページ「電源を入れる」）

3 [SOURCE SELECT] を押して“ソース選択”メニューを表示させ、“[iPod]”を選ぶ（☞30ページ）。
iPod用コントロールドックが割り当てられている入力ソースに切り替わり、iPodメニューが表示されます。

— GUI 画面 —

（ASD-1R 使用時）　（ASD-11R 使用時）

※ ASD-1R をご使用の場合、“ミュージック”の下のメニューが表示されます。
※ ASD-11R をご使用の場合、“ミュージック”と“ビデオ”フォルダが表示されます。
※ 本機と iPod の通信が完了すると、iPod に接続画面が表示されます。
※ 画面が表示されない場合は、iPod が正しく接続されていない可能性があります。再度接続をやり直してください。

4 リモコンを iPod モードに設定する（☞91 ページ「リモコンで機器を操作する」）。

5 [SEARCH]を2秒以上長押しして、表示モードを選ぶ。

※iPod 内のデータを表示するモードは 2 つあります。表示モードによって、再生できるファイル、操作できるボタンが異なります。

ブラウズモード：

iPod の情報を GUI 画面に表示させて操作をおこなうモードです。このモードでは、直接 iPod 本体を操作することはできません。

＊ 本機のディスプレイでは、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。

リモートモード：

iPod に表示される画面を見ながら、直接 iPod 本体を操作するモードです。このモードでは、GUI 画面は表示されません。

• 本機のディスプレイに“Remote iPod”を表示します。

表示モード		ブラウズモード	リモートモード
再生できるファイル	音声ファイル	○	○
	写真ファイル	×	○＊2
	動画ファイル	○＊1	○＊2
操作できるボタン	本機のリモコン	○	○
	iPod®	×	○

＊1 : DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-11R 使用時。
＊2 : DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R または ASD-11R と iPod の組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

6 △▽ を押して項目を選び、ENTER または ▷ を押して再生したいファイルを選ぶ。

7 [▶]、ENTER または ▷ を押す。
再生をはじめます。

8 以下の項目を調節する。
- ❑ **主音量を調節する**（☞67 ページ）
- ❑ **サラウンドモードを選ぶ**（☞69 ページ）
- ❑ **音声や映像の調整をする**（☞72 ページ）
- ❑ **停止する**（☞67 ページ）
- ❑ **一時停止する**（☞67 ページ）
- ❑ **早送りや早戻しする**（☞67 ページ）
- ❑ **頭出しする**（☞67 ページ）
- ❑ **リピート再生をする**（☞67 ページ）
- ❑ **シャッフル再生をする**（☞67 ページ）
- ❑ **ページ検索をする**（☞67 ページ）

• RESTORER モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をすることができます（☞77 ページ「RESTORER」）。お買い上げ時の設定は“モード 3”です。
• 再生中に **<STATUS>** を押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認することができます。
• GUI メニューの“GUI”⇨“iPod”（☞49 ページ）で、GUI の表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定することができます。△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
• iPod は、**[POWER OFF]** または **<ON/STANDBY>** で本機の電源をスタンバイ状態にしてから、取り外してください。入力ソースを“iPod”以外に切り替えても、iPod を取り外すことができます。

ご注意

• iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
• 万一 iPod のデータが消失または損傷しても、弊社は一切責任を負いません。

ブラウズモードで iPod® の映像を見る

DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-11R にビデオ機能対応の iPod を接続すると、ブラウズモードで映像ファイルを再生することができます。

1 △▽ を押して“ビデオ”を選び、ENTER または ▷ を押す。

2 △▽を押して検索項目またはフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。

3 △▽ を押してビデオファイルを選び、ENTER または ▷ を押す。
再生がはじまります。

リモートモードで iPod® の写真や映像を見る

スライドショーやビデオ機能がある iPod® の写真や映像を再生することができます。

1 [SEARCH] を長押しして、リモートモードに切り替える。
本機のディスプレイに“Remote iPod”を表示します。

2 iPodの画面を見ながら△▽を押して、“写真”または“ビデオ”を選ぶ。

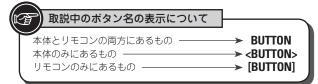
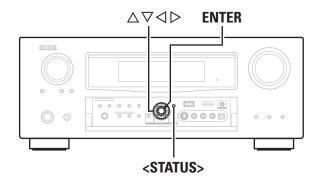
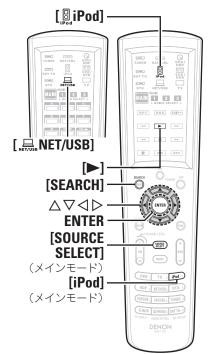
※ 使用する iPod によっては、直接 iPod 本体を操作する必要があります。

3 再生したい写真または映像が表示されるまで、ENTER を押す。

iPod の写真や映像をテレビに映し出すには、iPod の“スライドショー設定”または“ビデオ設定”の“TV 出力”を“オン”に設定する必要があります。詳しくは、iPod の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R または ASD-11R と iPod の組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

ご使用になる前に
接続
設定
再生
マルチゾーン
リモコン操作
その他の情報
故障かな？と思ったら
保証と修理
主な仕様

※ iPod 用コントロールドックを接続していないときは、iPod モードでも操作できます。

本機の USB 端子に直接接続して iPod® を再生する

- 本機と iPod を USB ケーブルで接続すると、iPod の音楽を本機で楽しむことができます。
- 本機は、iPod（第 5 世代以降）、iPod nano、iPod classic、iPod touch の音声に対応しています（iPod shuffle には対応していません）。但し、モデルによっては一部の機能が制限されます。
- iPod のソフトウェアが古いと正常に動作しない場合があります。必ず最新の iPod ソフトウェアで使用してください。
- iPod は、著作権のないマテリアル、または法的に複製・再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製・再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律で禁止されています。
- 本機と iPod を組み合わせてご使用の場合、iPod のデータに不具合が生じても、弊社は一切の責任を負うことができませんので、あらかじめご了承ください。

iPod® の音楽を聴く

1 iPod® に付属の USB ケーブルで、iPod を本機の USB 端子に接続する（☞24 ページ「USB 端子」）。

2 本機の電源を入れる。
（☞27 ページ「電源を入れる」）

3 [SOURCE SELECT] を押して “ソース選択” メニューを表示させ、“” を選ぶ（☞30ページ）。

– GUI 画面 –

※ iPod を USB 端子に直接接続したときは、“Music” の下のメニューが表示されます。
※ 上記の画面が表示されない場合は、iPod が正しく接続されていない可能性があります。再度接続をやり直してください。
※ iPod 用コントロールドックを接続していないときは、**[iPod]** を押しても選べます。

4 リモコンを NET/USB モードに設定する（☞91 ページ「リモコンで機器を操作する」）。

※ iPod 用コントロールドックを接続していないときは、iPod モードでも操作できます。

5 [SEARCH]を2秒以上長押しして、表示モードを選ぶ。

※iPod内のデータを表示するモードは2つあります。表示モードによって、再生できるファイル、操作できるボタンが異なります。

ブラウズモード：
iPodの情報をGUI画面に表示させて操作をおこなうモードです。このモードでは、直接iPod本体を操作することはできません。
＊ 本機のディスプレイでは、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。

リモートモード：
iPodに表示される画面を見ながら、直接iPod本体を操作するモードです。このモードでは、GUI画面は表示されません。
- 本機のディスプレイに“Remote iPod”を表示します。

※本機能は、iPodの第5世代およびiPod nanoの第1世代には対応していません。

表示モード		ブラウズモード	リモートモード
再生できるファイル	音声ファイル	○	○
	写真ファイル	×	×
	動画ファイル	×	×＊
操作できるボタン	本機のリモコン	○	○
	iPod®	×	○

＊：音声のみ再生されます。

6 △▽ を押して項目を選び、ENTER または ▷ を押して再生したいファイルを選ぶ。

7 [▶]、ENTER または ▷ を押す。

再生をはじめます。

8 以下の項目を調節する。

- ❑ **主音量を調節する**（☞67ページ）
- ❑ **サラウンドモードを選ぶ**（☞69ページ）
- ❑ **音声や映像の調整をする**（☞72ページ）

- ❑ **停止する**（☞67ページ）
- ❑ **一時停止する**（☞67ページ）
- ❑ **早送りや早戻しする**（☞67ページ）
- ❑ **頭出しする**（☞67ページ）
- ❑ **リピート再生をする**（☞67ページ）
- ❑ **ランダム再生をする**（☞67ページ）
- ❑ **ページ検索をする**（☞67ページ）

- RESTORERモードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をすることができます（☞77ページ「RESTORER」）。お買い上げ時の設定は“モード3”です。
- 再生中に **<STATUS>** を押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認することができます。
- GUIメニューの“GUI”⇨“iPod”（☞49ページ）で、GUIの表示時間（お買い上げ時の設定：30秒）を設定することができます。△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。

ご注意

- iPodの種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一iPodのデータが消失または損傷しても、弊社は一切責任を負いません。

Made for iPod

“Made for iPod” means that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod and has been certified by the developer to meet Apple performance standards.
Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards.

iPodは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標または登録商標です。

※iPodは、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

ネットワークオーディオやUSBメモリーを再生する

インターネットラジオやパソコン、またはUSBメモリーに保存されている音楽ファイルや静止画像（JPEG）ファイルを再生することができます。

知っておいてほしいこと

インターネットラジオ機能について

- インターネットラジオとは、インターネット上に配信されているラジオ放送です。世界中のインターネットラジオ放送を聴くことができます。
  本機には、次のインターネットラジオ機能があります。
  - ジャンル別、地域別に選べます。
  - 最大56曲のインターネットラジオ局をプリセット登録できます。
  - MP3やWMA（Windows Media Audio）フォーマットのインターネットラジオ放送を聴くことができます。
  - パソコン上のWebブラウザから弊社のインターネットラジオ用のURLにアクセスすると、お気に入りのラジオを登録することができます。

※お客様の機器ごとに管理をしますので、MACアドレスやE-mailアドレスの登録が必要になります。
専用URL：http://www.radiodenon.com
※ラジオ局データベースサービスは、予告なく停止する場合があります。

- 本機のインターネットラジオ局リストは、ラジオ局データベースサービス（vTuner）を利用しています。このデータベースサービスは、本機用に編集および作成されたリストです。

メディアサーバー機能について

ネットワークを経由して、本機に接続されたパソコン（メディアサーバー）に保存された音楽ファイルまたはプレイリスト（m3u、wpl）を再生することができます。
本機のネットワークオーディオ再生機能には、次の技術を利用してサーバーに接続できます。

- Windows Media Player Network Sharing Service
- Windows Media DRM10

❑ アルバムアート機能

WMA（Windows Media Audio）、MP3、MPEG-4 AACのファイルで、アルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中にアルバムアートを表示させることができます。

WMAファイルのアルバムアートは、Windows Media Player（バージョン11）を使用することで表示できます。

❑ スライドショー機能

メディアサーバーのフォルダ内に保存された静止画像（JPEG）ファイルを、スライドショーで再生することができます。また、再生するときの表示時間を設定することもできます。

本機では、再生する静止画像（JPEG）ファイルをフォルダに保存されている画像の向きで再生します。

USBメモリーについて

本機のUSB端子にUSBメモリーを接続すると、USBメモリーやUSBハードディスクドライブに保存された音楽ファイルや静止画像ファイルを再生することができます。また、本機のUSB端子にiPodを直接接続しても、iPodに保存されたファイルを再生することができます。詳しくは、「本機のUSB端子に直接接続してiPod® を再生する」（☞60ページ）をご覧ください。

- 本機は、マスストレージクラスおよびMTP（Media Transfer Protocol）に対応しているUSBメモリーのみ再生できます。
- USBメモリーのフォーマットは、FAT16またはFAT32に対応しています。

❑ アルバムアート機能

アルバムアートのデータを持ったMP3形式の音楽ファイルを再生しているときに、アルバムアートを表示させることができます。

❑ スライドショー機能

USBメモリー内に保存された静止画像（JPEG）ファイルを、スライドショーで再生することができます。また、再生するときの表示時間を設定することもできます。

本機では、再生する静止画像（JPEG）ファイルをフォルダに保存されている画像の向きで再生します。

【再生できるフォーマット】

	インターネットラジオ	メディアサーバー＊1	USBメモリー＊1
WMA (Windows Media Audio)	○	○	○＊3
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	○	○	○
WAV	–	○	○
MPEG-4 AAC	–	○＊2	○＊2
FLAC (Free Lossless Audio Codec)	–	○	○
JPEG	–	○	○

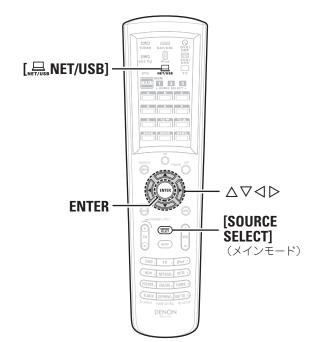
ネットワーク経由での音楽ファイルの再生には、そのフォーマットの配信に対応したサーバーまたはサーバーソフトウェアが必要です。

＊1：メディアサーバーとUSBメモリーについて
- MP3 ID3タグ（バージョン2）に対応しています。
- WMA METAタグに対応しています。
- WAVフォーマットの量子化ビット数は、16ビットです。

＊2：著作権保護の無いファイルのみ再生できます。
インターネット上の有料音楽サイトからのダウンロードコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンでCDなどからリッピングする際にWMAでエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

＊3：MTPに対応した一部のポータブルプレーヤーは、著作権保護のあるファイルを再生できます。

【再生できるフォーマット】

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA （Windows Media Audio）	32/44.1/48kHz	48～192kbps	.wma
MP3 （MPEG-1 Audio Layer-3）	32/44.1/48kHz	32～320kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48kHz	–	.wav
MPEG-4 AAC	32/44.1/48kHz	16～320kbps	.aac/ .m4a/ .mp4
FLAC （Free Lossless Audio Codec）	32/44.1/48kHz	–	.flac

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの	BUTTON
本体のみにあるもの	<BUTTON>
リモコンのみにあるもの	[BUTTON]

ENTER

△▽◁▷　<STATUS>

インターネットラジオを聴く

1 再生の準備をする。

① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる（☞26 ページ「ホームネットワーク（LAN）に接続する」）。

② 設定が必要な場合は、「ネットワーク接続」（☞44 ページ）をおこなう。

2 [SOURCE SELECT] を押して“ソース選択”メニューを表示させ、“ ”を選ぶ（☞30ページ）。

3 リモコンを NET/USB モードに設定する（☞91 ページ「リモコンで機器を操作する」）。

4 △▽を押して再生したい項目を選び、ENTER または ▷ を押す。

放送局リストを表示します。

5 △▽ を押して放送局を選び、ENTER または ▷ を押す。

バッファリングが“100%”表示になると、再生がはじまります。

6 以下の項目を調節する。

- ❑ **主音量を調節する**（☞67 ページ）
- ❑ **サラウンドモードを選ぶ**（☞69 ページ）
- ❑ **音声や映像の調整をする**（☞72 ページ）

❑ **停止する**（☞67 ページ）

❑ **ページ検索をする**（☞67 ページ）

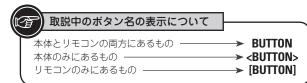
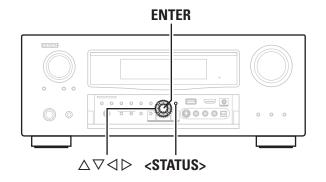
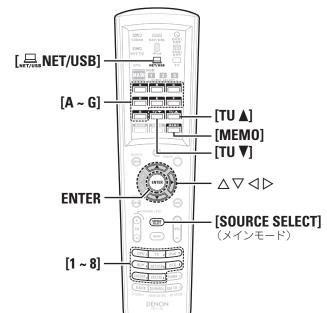
❑ **頭文字で検索する**（☞68 ページ）

- インターネット上には数多くのインターネットラジオ局があり、各ラジオ局から配信される放送や楽曲のビットレートには高低様々なものがあります。
  一般的に、ビットレートが高いほど高音質になりますが、通信回数やサーバーの混雑具合によってはストリーミングしている音楽や音声が途切れやすくなります。逆にビットレートが低ければ音質は低下しますが、途切れにくくなります。
- 放送局が混雑している場合や放送されていないときには、“Server Full”または“Connection Down”を表示します。
- 本機ではフォルダ名とファイル名をタイトルのように表示することができます。ディスプレイ表示に対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。
- RESTORER モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をすることができます（☞77 ページ「RESTORER」）。お買い上げ時の設定は“モード 3”です。
- **<STATUS>** を押すと、タイトル名および放送局名を表示します。
- GUI メニューの“GUI” ⇨ “NET/USB”（☞49 ページ）で、GUI の表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定することができます。△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。

最近再生したインターネットラジオ局を選ぶとき

“最近再生したラジオ局”から、最近再生したインターネットラジオ局を選ぶことができます。
最大 20 局まで“最近再生したラジオ局”へ自動的に記憶されます。

1 △▽ を押して“最近再生したラジオ局”を選び、ENTER または ▷ を押す。

2 △▽ を押して再生したい項目を選び、ENTER または ▷ を押す。

キーワードでインターネットラジオ局を検索する

1 **△▽を押して“文字列による検索”を選び、ENTER または ▷ を押す。**
検索画面を表示します。

2 **文字を入力して、ENTER を押す。**

インターネットラジオ局をプリセット登録する

インターネットラジオ局をダイレクトに選ぶことができます。

1 **登録したいインターネットラジオ局を再生中に、[MEMO] を押す。**

2 **△▽ を押して“プリセット”を選び、ENTER を押す。**

3 **[A ~ G] を押した後に [1 ~ 8] を押してプリセット番号を選ぶ。**

4 **[MEMO] を押して設定を終了する。**
インターネットラジオ局を登録します。

ご注意

すでにプリセットされている番号に登録すると、前に登録されていた内容は消去されます。

登録したインターネットラジオ局を聴く

[A ~ G] を押した後に [1 ~ 8] を押して、登録したプリセット番号を選ぶ。
自動的にインターネットに接続して、再生をはじめます。

インターネットラジオ局をお気に入りに登録する

お気に入りに登録するとメニュー画面の先頭にリストアップされますので、選局が容易にできます。

1 **登録したいインターネットラジオ局を再生中に、[MEMO] を押す。**

2 **△▽ を押して“お気に入り”を選び、ENTER を押す。**

3 **◁ を押して“登録”を選ぶ。**
インターネットラジオ局を登録します。

※ 登録しない場合は、▷ を押してください。

お気に入りに登録したインターネットラジオ局を聴く

1 **[SOURCE SELECT] を押して“ソース選択”メニューを表示させ、“♪”を選ぶ（☞30ページ）。**

2 **△▽を押してインターネットラジオ局を選び、ENTER または ▷ を押す。**
自動的にインターネットに接続して、再生をはじめます。

お気に入りに登録したインターネットラジオ局を削除する

1 **[SOURCE SELECT] を押して“ソース選択”メニューを表示させ、“♪”を選ぶ（☞30ページ）。**

2 **△▽を押して削除したいインターネットラジオ局を選び、[MEMO] を押す。**

3 **◁ を押して“削除”を選ぶ。**
選んだインターネットラジオ局を削除します。

※ 削除しない場合は、▷ を押してください。

パソコンに保存されているファイルを再生する

音楽ファイル、画像ファイルおよびプレイリストを再生できます。

1 **再生の準備をする。**
① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる（☞26 ページ「ホームネットワーク（LAN）に接続する」）。
② 設定が必要な場合は、「ネットワーク接続」（☞44 ページ）をおこなう。
③ パソコンの準備をする（☞ パソコンの取扱説明書）。

2 **[SOURCE SELECT] を押して“ソース選択”メニューを表示させ、“ ”を選ぶ（☞ 30ページ）。**

3 **リモコンを NET/USB モードに設定する（☞91 ページ「リモコンで機器を操作する」）。**

4 **△▽を押して再生したいファイルのあるサーバーを選び、ENTER または ▷ を押す。**

5 **△▽を押して検索項目またはフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。**

6 **△▽を押してファイルを選び、ENTERまたは ▷ を押す。**
バッファリングが“100%”表示になると、再生がはじまります。

7 **以下の項目を調節する。**
❑ **主音量を調節する**（☞67 ページ）
❑ **サラウンドモードを選ぶ**（☞69 ページ）
❑ **音声や映像の調整をする**（☞72 ページ）

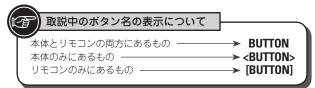
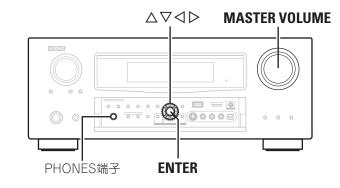
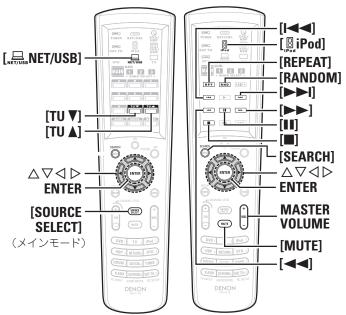
❑ **停止する**（☞67 ページ）
❑ **一時停止する**（☞67 ページ）
❑ **頭出しする**（☞67 ページ）
❑ **リピート再生をする**（☞67 ページ）
❑ **ランダム再生をする**（☞67 ページ）
❑ **ページ検索をする**（☞67 ページ）
❑ **頭文字で検索する**（☞68 ページ）

- 静止画像（JPEG）ファイルを再生中は、以下の操作でもファイルの選択ができます。
  再生中に **[TU ▲]**（前のファイル）または **[TU ▼]**（次のファイル）を押す。
- 音楽ファイルの再生には、必要なシステムとの接続および設定が必要です（☞26 ページ）。
- あらかじめパソコンのサーバーソフトを起動し、ファイルをサーバーコンテンツとして設定してください。詳しくは、サーバーソフトの取扱説明書をご覧ください。
- 静止画像（JPEG）ファイルのサイズによっては、画像が表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- 曲の表示順は、サーバーの仕様によって異なります。サーバーの仕様によって、曲の表示順がアルファベット順にならない場合は、頭文字での検索が正しく動作しないことがあります。
- Windows Media Player（バージョン 11）などのトランスコードに対応したサーバーをご使用になる場合は、WMA Lossless ファイルを再生できます。
- RESTORER モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をすることができます（☞77 ページ「RESTORER」）。お買い上げ時の設定は“モード 3”です。
- GUI メニューの“GUI” ⇨ “NET/USB”（☞49 ページ）で、GUI の表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定することができます。△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- **<STATUS>** を押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を表示します。

プリセットやお気に入りに登録して再生する

音楽ファイルについてもインターネットラジオと同様の操作で、プリセットやお気に入りに登録して再生することができます（☞64 ページ）。

ご注意

- すでにプリセットされている番号に登録すると、前に登録されていた内容は消去されます。
- 下記の操作をおこなうと、メディアサーバーのデータベースが更新され、プリセットやお気に入りに登録した音楽ファイルが再生できなくなる場合があります。
  - メディアサーバーを停止し、再起動した場合
  - メディアサーバーで音楽ファイルを削除または追加した場合

USB メモリーに保存されているファイルを再生する

本機は、マスストレージクラスおよび MTP（Media TransferProtocol）に対応している USB メモリーのみ再生することができます。

1 **再生の準備をする。**
① "USB 端子の選択"（☞57 ページ）で、使用する USB 端子を設定する。
② USB メモリーを、① で設定した USB 端子に接続する。

2 **[SOURCE SELECT] を押して"ソース選択"メニューを表示させ、" USB "を選ぶ（☞ 30ページ）。**

3 **リモコンを NET/USB モードに設定する（☞91 ページ「リモコンで機器を操作する」）。**

4 **△▽ を押して検索項目またはフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。**

5 **△▽ を押してファイルを選び、ENTER または ▷ を押す。**
バッファリングが"100%"表示になると、再生がはじまります。

6 **以下の項目を調節する。**
❑ **主音量を調節する**（☞67 ページ）
❑ **サラウンドモードを選ぶ**（☞69 ページ）
❑ **音声や映像の調整をする**（☞72 ページ）

❑ **停止する**（☞67 ページ）

❑ **一時停止する**（☞67 ページ）

❑ **頭出しする**（☞67 ページ）

❑ **リピート再生をする**（☞67 ページ）

❑ **ランダム再生をする**（☞67 ページ）

❑ **ページ検索をする**（☞67 ページ）

❑ **頭文字で検索する**（☞68 ページ）

- お買い上げ時の設定では、前面の USB 端子に接続してお使いいただけます。
- 静止画像（JPEG）ファイルのサイズによっては、画像が表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- 静止画像（JPEG）ファイルを再生中は、**[TU ▲]**（前のファイル）または **[TU ▼]**（次のファイル）を押してもファイルの選択ができます。
- USB メモリーが複数のパーティションに分かれている場合は、先頭のパーティションのみ選べます。
- 本機で対応している MP3 ファイルの規格は、「MPEG-1 Audio Layer-3」です。

ご注意

- 本機は、前面と背面に USB 端子を 1 つずつ備えています。両方同時に接続して使用することはできません。"USB 端子の選択"（☞57 ページ）で、お使いになりたい方の端子に設定してください。
- USB メモリーを本機と接続して使用しているときに、万一 USB メモリーのデータが消失または損傷した場合、弊社は一切責任を負いません。
- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものをお使いになる場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。
- 本機は、iPod Shuffle には対応していません。

再生中にできる操作

主音量を調節する

MASTER VOLUME を回して、音量を調節する。

❑ **"音量表示"の設定（☞48ページ)が"相対値"のとき**

【調節できる範囲】 - - -　-80.5dB ～ 18.0dB

❑ **"音量表示"の設定（☞48ページ)が"絶対値"のとき**

【調節できる範囲】 0.0 ～ 99.0

※入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。

一時的に音を消す（ミューティング）

[MUTE] を押す。

- "ミューティングレベル"（☞48 ページ）で設定したレベルまで音量が下がります。
- ミューティングを解除するときは、もう一度 **[MUTE]** を押してください。主音量を調節しても解除できます。

ヘッドホンで音を聴く

本体の PHONES 端子に、ヘッドホンのプラグを差し込む。

自動的にスピーカーおよびプリアウト端子から音が出なくなります。

ご注意

- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
- Audyssey オートセットアップや各設定をおこなうときは、ヘッドホンをはずしてください。

停止する

再生中に ENTER を長押しするか、[■] を押す。

一時停止する

再生中に ENTER または [❚❚] を押す。

もう一度押すと、再生を再開します。

早送りや早戻しする

再生中に［◀◀］（早戻し）または［▶▶］（早送り）を長押しするか、△▽ を長押しする。

頭出しする

再生中に ［I◀◀］（前の曲の頭出し）または ［▶▶I］（次の曲の頭出し）を押すか、△▽ を押す。

リピート再生をする

[REPEAT] を押す。

GUI メニュー表示	リモコン操作時の GUI 表示	ディスプレイ表示	設定内容
すべて	(アイコン)	ALL	すべての曲をリピート再生します。
1曲	(アイコン)	One	再生中の曲をリピート再生します。
オフ		OFF	リピート再生をしません。

※ GUIメニューの"リピート"（☞57ページ）でも同様に再生できます。

リピートモードは、iPod、USB メモリーおよびメディアサーバー内の曲を再生中に有効です。

曲を検索する

再生中に △（前の曲）または ▽ （次の曲）を押す。

シャッフル再生をする

[RANDOM] を押す。

GUI メニュー表示	リモコン操作時の GUI 表示	ディスプレイ表示	設定内容
アルバム	(アイコン)	Albums	再生中のアルバムの曲をシャッフル再生します。
曲	(アイコン)	Songs	すべての曲をシャッフル再生します。
オフ		OFF	シャッフル再生をしません。

※ GUIメニューの"シャッフル"（☞57ページ）でも同様に再生できます。

シャッフルモードは、iPod 内の曲を再生中に有効です。

ランダム再生をする

[RANDOM] を押す。

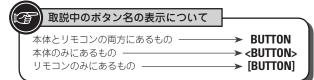
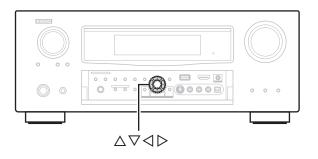
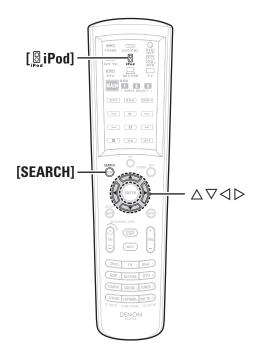
GUI メニュー表示	リモコン操作時の GUI 表示	ディスプレイ表示	設定内容
オン	(アイコン)	ON	ランダム再生します。
オフ		OFF	ランダム再生しません。

※ GUIメニューの"ランダム"（☞57ページ）でも同様に再生できます。

ランダムモードは、USB メモリーおよびメディアサーバー内の曲を再生中に有効です。

ページを検索する（ページサーチ）

[SEARCH]を押した後に、◁（前のページ）または ▷（次のページ）を押す。

※ 解除するときは、△▽ または **[SEARCH]** を押す。

頭文字で検索する（キャラクターサーチ）

インターネットラジオやパソコンに保存されたファイルのメニュー画面から、項目を選ぶ場合に便利です。

1 **メニュー画面が表示されているときに［SEARCH］を2回押す。**

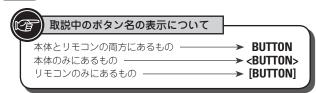
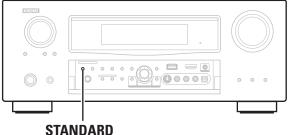
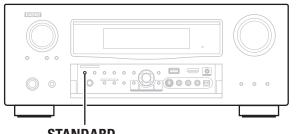
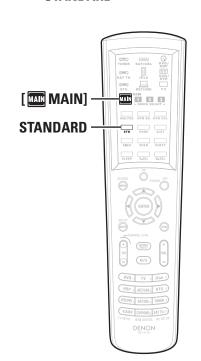
2 **◁ ▷ を押して検索したい頭文字を選ぶ。**

- 選んだ頭文字ではじまる項目が複数ある場合には、アルファベット順に表示します。
- 検索できないリストの場合は、“Unsorted list.”を表示します。

※解除するときは、△▽ または **[SEARCH]** を押してください。

リストがアルファベット順に並んでいない場合、キャラクターサーチができないことがあります。

サラウンドモードを選ぶ（サラウンドモード）

GUI

① ソースの音声信号形式 / チャンネル数をそのまま再生する（スタンダード再生）

操作のしかた

選択できるサラウンドモードは次の内容により異なります。
- 入力している音声信号形式
- 入力している音声のチャンネル数
- 設定しているアンプの割り当てモード（☞38 ページ）

1 機器を再生する（☞58 ページ）。

2 STANDARDを押して、サラウンドモードを選ぶ。

❑ 2チャンネルのソースをサラウンド再生する

① **STANDARD** を押すたびに、次のようにサラウンドモードが切り替わります。

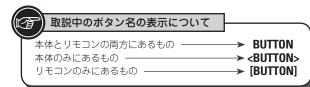
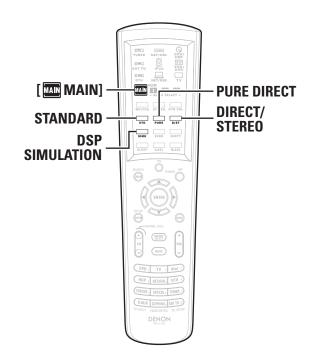
DOLBY PLIIz ＊1	：DOLBY PLIIz でデコードして再生します。
DOLBY PLIIx ＊2	：DOLBY PLIIx でデコードして再生します。
DOLBY PLII	：DOLBY PLII でデコードして再生します。
DTS NEO:6	：DTS NEO:6 でデコードして再生します。

＊1：“アンプの割り当て”の設定が“フロントハイト”のとき、および“スピーカー構成”⇨“フロントハイト”の設定が“無し”以外のときに設定できます。
＊2：“アンプの割り当て”の設定が“通常”のとき、および“スピーカー構成”⇨“サラウンドバック”の設定が“無し”以外のときに設定できます。

② GUI メニューの“モード”（☞72 ページ）でソースに合わせたモードを選ぶ。

Cinema	：映画ソースに適したモードです。
Music	：音楽ソースに適したモードです。
Game	：ゲームに適したモードです。
Pro Logic	：プロロジック再生モードです。PLII デコーダーで再生する場合に選べます。
Height	：フロントハイトの再生モードです。“フロントハイト”の設定が“オン”のときに設定できます（☞73 ページ）。

※選択できるモードは、選択しているサラウンドモードにより異なります。

次のページへ

❑ マルチチャンネルのソースをサラウンド再生する（ドルビーデジタル、DTS、AAC など）

マルチチャンネルソースのスタンダード再生では、入力しているマルチチャンネル音声の信号形式を検出し、自動的にその専用デコーダーを動作させて、サラウンド再生をおこないます。

【再生中のサラウンドモードの表示】

入力信号	ディスプレイの表示内容
DOLBY DIGITAL（2チャンネル以外）/ DOLBY DIGITAL EX	DOLBY DIGITAL
	DOLBY DIGITAL EX
	DOLBY DIGITAL+PLIIx CINEMA
	DOLBY DIGITAL+PLIIx MUSIC
	DOLBY DIGITAL+PLIIz HEIGHT
DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL+
	DOLBY DIGITAL+ +EX
	DOLBY DIGITAL+ + PLIIx CINEMA
	DOLBY DIGITAL+ + PLIIx MUSIC
	DOLBY DIGITAL+ + PLIIz HEIGHT
DOLBY TrueHD	DOLBY TrueHD
	DOLBY TrueHD+EX
	DOLBY TrueHD+PLIIx CINEMA
	DOLBY TrueHD+PLIIx MUSIC
	DOLBY TrueHD+PLIIz HEIGHT
DTS（5.1チャンネル）/ DTS-ES Discrete 6.1 / DTS-ES Matrix 6.1 / DTS 96/24	DTS SURROUND
	DTS+PLIIx CINEMA
	DTS+PLIIx MUSIC
	DTS+PLIIz HEIGHT
	DTS+NEO:6
	DTS ES MTRX6.1（＊1）
	DTS ES DSCRT6.1（＊2）
	DTS 96/24（＊3）
DTS-HD	DTS-HD HI RES
	DTS-HD MSTR
	DTS-HD+NEO:6
	DTS-HD+PLIIx CINEMA
	DTS-HD+PLIIx MUSIC
	DTS-HD+PLIIz HEIGHT
	DTS EXPRESS
MPEG-2 AAC	MPEG2 AAC
	AAC+Dolby EX
	AAC+PLIIx CINEMA
	AAC+PLIIx MUSIC
	AAC+PLIIz HEIGHT
PCM（マルチチャンネル）/ DSD（マルチチャンネル）	MULTI CH IN
	MULTI IN+Dolby EX
	MULTI IN+PLIIx CINEMA
	MULTI IN+PLIIx MUSIC
	MULTI IN+PLIIz HEIGHT
	MULTI CH IN 7.1

＊1：入力信号が“DTS-ES Matrix 6.1”で、“AFDM”の設定（☞73 ページ）が“オン”のときに表示します。
＊2：入力信号が“DTS-ES Discrete 6.1”のときに表示します。
＊3：入力信号が“DTS 96/24”のときに表示します。

詳しくは、105、106 ページをご覧ください。

MPEG-2 AAC について

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。
- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ”になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

❑入力信号チャンネル表示について

プログラムソースにより、入力信号チャンネル表示が点灯します。

● 2 チャンネルソース

LFE
FL C FR
SL S SR
SBL SB SBR

STANDARD を押すと、“DOLBY PLIIx”モードと“DTS NEO:6”モードを切り替えることができます。

● 5.1 チャンネルソース

LFE
FL C FR
SL S SR
SBL SB SBR

STANDARD を押すと、5.1 チャンネル再生ができます。
5.1 チャンネルで再生しているときは、“MPEG2 AAC”を表示します。

● モノラルソース

LFE
FL C FR
SL S SR
SBL SB SBR

STANDARD を押すと、“MPEG2 AAC”を表示します。
音声は、センタースピーカーより出力します。フロントスピーカーで再生する場合は、サラウンドモード（“STEREO”など）を選んでください。

● 二重音声ソース

FL C FR
FL C FR
FL C FR

二重音声の情報がある AAC ソースを再生する場合は、主音声や副音声などの出力内容を選べます。
詳しくは、“バイリンガルモード”（☞44 ページ）をご覧ください。

“S”は 2 チャンネルサラウンド信号（ドルビーサラウンド）信号が入力された場合に点灯します。
※ 2 チャンネルサラウンド信号とは、4 チャンネル（フロント左 / フロント右 / センター / サラウンド）を 2 チャンネルに変換してある信号です。

② DENON オリジナルサラウンド再生をおこなう

10 通りの DENON オリジナルサラウンドモードの中から、プログラムソースや視聴するシチュエーションに応じてお好みのモードを選ぶことができます。

1 **機器を再生する（☞58 ページ）。**

2 **DSP SIMULATION を押して、サラウンドモードを選ぶ。**

7CH STEREO	：ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。
WIDE SCREEN	：大きなスクリーンで映画を見ているような雰囲気を楽しむモードです。
SUPER STADIUM	：スポーツプログラムの観戦に適したモードです。
ROCK ARENA	：アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
JAZZ CLUB	：ライブハウスでのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
CLASSIC CONCERT	：クラシックコンサートプログラムの鑑賞に適したモードです。
MONO MOVIE *	：モノラルの映画ソースをサラウンド再生するモードです。
VIDEO GAME	：ビデオゲームのサラウンドに適したモードです。
MATRIX	：ステレオの音楽ソースに広がり感を加えて楽しむモードです。
VIRTUAL	：フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。

＊：モノラル録音ソースを“MONO MOVIE”モードで再生する場合、片チャンネル（左または右）では音声が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

再生するプログラムソースによっては、十分な効果が得られない場合があります。このような場合は、各モードを試してお好みの音場でお楽しみください。

③ ダイレクト再生をおこなう

音質調節回路を通さず、高音質で再生するモードです。
入力ソースのチャンネルのまま音声を出力します。

1 **機器を再生する（☞58 ページ）。**

2 **DIRECT/STEREO を押して、“DIRECT”を選ぶ。**

【再生中のサラウンドモードの表示】

入力信号	ディスプレイの表示内容
アナログ信号 / PCM（2 チャンネル）/ Dolby Digital ソース / DTS ソース / その他の 2ch のデジタル信号	DIRECT
DSD（2チャンネル）	DSD DIRECT（＊）
PCM（マルチチャンネル）	MULTI CH DIRECT
	MULTI CH DIRECT + Dolby EX
	MULTI CH DIRECT + PLIIx CINEMA
	MULTI CH DIRECT + PLIIx MUSIC
	MULTI CH DIRECT 7.1
DSD（マルチチャンネル）	DSD MULTI DIRECT（＊）

＊：オーディオパラメーターやスピーカーの設定で DSD 信号が PCM 信号に変換される場合は、“DIRECT”や“MULTI CH DIRECT”の表示になります。

詳しくは、106 ページをご覧ください。

④ ステレオ再生をおこなう

音質調整ができるステレオ再生用のモードです。トーンを調節できます。
フロントスピーカー（左 / 右）とサブウーハーから音声を出力します。

1 **機器を再生する（☞58 ページ）。**

2 **DIRECT/STEREOを押して、“STEREO”を選ぶ。**

⑤ ピュアダイレクト再生をおこなう

最も原音に忠実な音楽再生をおこないます。

1 **機器を再生する（☞58 ページ）。**

2 **PURE DIRECT を押す。**

- 解除するときは、もう一度 **PURE DIRECT** を押す。
- PURE DIRECT モード中のサラウンドパラメーターは、DIRECT モードと共通になります。
- HDMI 信号を再生しているときは、PURE DIRECT モードでも映像を出力します。

ご注意

PURE DIRECT モード中は設定メニュー画面を表示しません。また、PURE DIRECT モード中はディスプレイを消灯します。

音声や映像の調整をする（音声 / 映像の調整）

GUI

各メニューの選択 / 設定 / 解除については「GUI メニューの操作のしかた」（☞29 ページ）をご覧ください。

音声を調整する（音声調整）

GUI

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

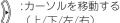
サラウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。
調節できる項目（パラメーター）は、再生している信号や選択しているサラウンドモードによって異なります。調節できる各項目については、「サラウンドパラメーター一覧表」（☞103 ページ）をご覧ください。

設定項目	設定内容
サラウンドパラメーター 音場効果を調節します。	**モード**：再生するソースに合わせてモードを選びます。 ❏ **PLⅡx または PLⅡ モードのとき** **Cinema**：映画ソースに適したモードです。 **Music**：音楽ソースに適したモードです。 **Game**：ゲームに適したモードです。 **Pro Logic**：ドルビープロロジック再生モードです（PLⅡ モードのみ）。 ❏ **PLⅡz モードのとき** **Height**：ドルビー PLⅡz フロントハイトの再生モードです。 ❏ **DTS NEO:6 モードのとき** **Cinema**：映画ソースに適したモードです。 **Music**：音楽ソースに適したモードです。 • “サラウンドパラメーター” ⇨ “フロントハイト” の設定（☞73 ページ）が “オン” のとき、自動的に “Height” モードになります。 • “Music” モードは、ステレオ音楽成分を多く含む映画ソースにも効果的です。
	シネマ EQ：映画のせりふの高域成分をやわらげ、聴きやすくします。 • **<u>オフ</u>**：使用しません。 • **オン**：使用します。
	ダイナミックレンジコントロール（DRC）：ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を圧縮します。 • **<u>オート</u>**：再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン / オフします。ドルビー TrueHD ソースのときに設定できます。 • **弱** / **標準** / **強**：圧縮量を設定します。 • **オフ**：ダイナミックレンジを圧縮しません。
	ダイナミックレンジ圧縮（D.COMP）：ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を圧縮します。 • **<u>オフ</u>**：ダイナミックレンジを圧縮しません。 • **弱** / **標準** / **強**：圧縮量を設定します。

設定項目	設定内容
サラウンドパラメーター （つづき）	**LFE**：低域信号（LFE）レベルを調節します。 • **-10dB ～ <u>0dB</u>** 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。 • ドルビーデジタルソース：“0dB” • DTS の映画ソース：“0dB” • DTS の音楽ソース：“–10dB”
	センターイメージ：センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。 • **0.0 ～ 1.0（<u>0.3</u>）**
	パノラマ：フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。 • **<u>オフ</u>**：設定しません。 • **オン**：：設定します。
	ディメンション：音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。 • **0 ～ 6（<u>3</u>）**
	センター幅：センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。 • **0 ～ 7（<u>3</u>）**
	ディレイタイム：遅延時間を調節し、音場イメージを広げます。 • **0ms ～ 300ms（<u>30ms</u>）**
	エフェクト：マルチサラウンドスピーカーの効果を持つエフェクトのオン / オフを設定します。 • **<u>オン</u>**：より広がり感のあるサラウンド効果になります。 • **オフ**：エフェクトを設定しません。
	エフェクトレベル：エフェクトレベルを調節します。 • **1 ～ 15（<u>10</u>）** サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。
	ルームサイズ：音場空間の大きさを設定します。 • **小**：小さな音場空間のイメージ • **やや小**：やや小さな音場空間のイメージ • **<u>標準</u>**：標準的な音場空間のイメージ • **やや大**：やや大きな音場空間のイメージ • **大**：大きな音場空間のイメージ **ご注意** “ルームサイズ” は、再生する部屋の大きさを表すものではありません。

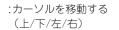
リモコンの操作ボタン

:メニューを表示する
メニューを解除する

:カーソルを移動する
（上/下/左/右）

:設定を確定する

:ひとつ前のメニューに戻る

設定項目	設定内容
サラウンドパラメーター（つづき）	**フロントハイト**：Dolby PLⅡz Height モードのオン / オフを設定します。 • **オン**：Dolby PLⅡz Height モードをオンします。 • **オフ**：Dolby PLⅡz Height モードをオフします。 • 以下の設定のとき、"フロントハイト" は表示されません。 • "アンプの割り当て" の設定（☞38 ページ）が "フロントハイト" 以外のとき • "スピーカー構成" ⇨ "フロントハイト" の設定（☞39 ページ）が "無し" のとき • "サラウンドモード" の設定（☞69 ページ）が "STANDARD" 以外のとき • 再生する HD オーディオソースに、フロントハイトチャンネルが含まれている場合も、"フロントハイト" は表示されません。この場合、PLⅡz モードでデコードせずに、入力信号のままフロントハイトチャンネルを再生します。
	AFDM（オートフラグディテクトモード）：ソースのサラウンドバックチャンネル信号を検出して自動的に最適なサラウンドモードを設定します。 • **オフ**：設定しません。 • **オン**：設定します。 **【例】ドルビーデジタルソフト（EX フラグあり）の再生** • "AFDM" を "オン" に設定すると、サラウンドモードは自動的に "DOLBY D + PLⅡx C" モードになります。 • ドルビーデジタル EX モードで再生する場合は、"AFDM" を "オフ"、"サラウンドバック" を "MTRX ON" に設定してください。 • ドルビーデジタル EX ソースには、EX フラグが含まれていないものがあります。"AFDM" を "オン" に設定していても、再生モードが自動的に切り替わらない場合は、"サラウンドバック" を "MTRX ON" または "PLⅡx CINEMA" に設定してください。 • "スピーカー構成" ⇨ "サラウンドバック" の設定（☞39 ページ）が "無し" のときは、"AFDM" は表示されません。
	サラウンドバック：サラウンドバックチャンネルの生成方法を設定します。 ❑ **2 チャンネルソースのとき** **オン**：サラウンドバックチャンネルを使用します。 **オフ**：サラウンドバックチャンネルを使用しません。

設定項目	設定内容
サラウンドパラメーター（つづき）	❑ **マルチチャンネルソースのとき** サラウンドバックチャンネルのデコード方法を設定します。 **DSCRT ON**：6.1/7.1 チャンネルソースに含まれるサラウンドバック信号を再生します。 **MTRX ON**：サラウンドチャンネル信号からサラウンドバック信号を生成して再生します。 **ES MTRX**＊1：DTS ソースのサラウンドチャンネル信号からサラウンドバック信号を生成して再生します。 **ES DSCRT**＊2：6.1 チャンネルの DTS ソースに含まれているサラウンドバック信号を再生します。 **PLⅡx CINEMA**＊3：Dolby Pro Logic Ⅱx Cinema モードでデコードし、サラウンドバック信号を生成して再生します。 **PLⅡx MUSIC**：Dolby Pro Logic Ⅱx Music モードでデコードし、サラウンドバック信号を生成して再生します。 **オフ**：サラウンドバックチャンネルを再生しません。 ＊1：DTS ソースを再生中に選べます。 ＊2：ディスクリート 6.1 チャンネル信号の識別信号が含まれている DTS ソースを再生中に選べます。 ＊3："スピーカー構成" ⇨ "サラウンドバック" の設定（☞39 ページ）が "2 台" のときに選べます。 • リモコンの **STANDARD** を押して設定することもできます。 • 再生しているソースにサラウンドバック信号が含まれている場合は、AFDM 機能によりデコーダーの種類は自動的に選ばれます。お好みのデコードに切り替えるには、"AFDM" を "オフ" に設定してください。 • "スピーカー構成" ⇨ "サラウンドバック" の設定（☞39 ページ）が "無し" のとき、"サラウンドバック" は表示されません。
	サブウーハーアッテネーター：外部入力端子（EXT. IN）使用時のサブウーハーチャンネルのレベルを抑えます。 • **オン**：設定します。 • **オフ**：設定しません。通常はこのモードでご使用ください。 音声信号を再生したときに、サブウーハーチャンネルの再生レベルが大きいと感じる場合は、"オン" に設定してください。
	サブウーハー：サブウーハー出力のオン / オフを設定します。 • **オン**：出力します。 • **オフ**：出力しません。
	初期化：サラウンドパラメーターのすべての設定内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • **初期化しない**：お買い上げ時の設定に戻しません。 • **初期化する**：お買い上げ時の設定に戻します。

次のページへ

ご使用になる前に 接続 設定 再生 マルチゾーン リモコン操作 その他の情報 故障かな？と思ったら 保証と修理 主な仕様

音声や映像の調整をする（音声 / 映像の調整）

設定項目	設定内容
トーンコントロール トーンを調節します。	**トーンコントロール**：トーンコントロール機能のオン / オフを設定します。 • **オン**：低音や高音のトーンを調節できます。 • **オフ**：トーンの調節をしないで再生します。 • “Dynamic EQ”の設定（☞74 ページ）が“オフ”のときに設定できます。 • DIRECT および PURE DIRECT モードでは、トーンの調節ができません。
	低音：低音を調節します。 • **–6dB ～ +6dB** “トーンコントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。
	高音：高音を調節します。 • **–6dB ～ +6dB** “トーンコントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。
Audyssey 設定 MultEQ XT、Dynamic EQ および Dynamic Volume を設定します。 **ご注意** Audyssey オートセットアップをおこなっていない場合、または Audyssey オートセットアップをおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、Dynamic EQ/Dynamic Volume を選択できなかったり“Run Audyssey”を表示します。この場合は再度 Audyssey オートセットアップをおこなうか、“再設定”（☞37 ページ）をおこなって Audyssey オートセットアップ実行後の設定に戻してください。	**MultEQ XT**：各スピーカーの周波数特性を補正します。 • **Audyssey**：すべてのスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 • **Audyssey Byp.L/R**：フロントスピーカー以外のスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 • **Audyssey Flat**：すべてのスピーカーの周波数特性が均一になるように補正します。 • **マニュアル**：“マニュアル EQ”（☞76 ページ）で調節された周波数特性を適用します • **オフ**：“MultEQ XT”イコライザーを使用しません。 • Audyssey オートセットアップをおこなうと、“Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R”および“Audyssey Flat”が選べます。また、Audyssey オートセットアップ後は自動的に“Audyssey”になります。“Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R”または“Audyssey Flat”が選ばれたときは、“AUDYSSEY MULTEQ XT”が点灯します。 • Audyssey オートセットアップをおこなった後、測定したスピーカーの本数を増やさずに、スピーカーの構成、距離、チャンネルレベルおよびクロスオーバー周波数などの設定を変更した場合は、“AUDYSSEY MULTEQ XT”が点灯します。 • “MultEQ XT”の設定が“オフ”または“マニュアル”のときに、“Dynamic EQ”または“Dynamic Volume”を“オン”に設定すると、“MultEQ XT”は自動的に“Audyssey”になります。 • リモコンの **MULTEQ XT** を押して設定することもできます。

設定項目	設定内容
Audyssey 設定 （つづき）	**ご注意** • “EQ カスタマイズ”（☞44 ページ）で“使用しない”に設定した“MultEQ XT”および“マニュアル EQ”は選択できません。 • ヘッドホン使用時、“MultEQ XT”の設定は自動的に“オフ”になります。
	Dynamic EQ：人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。 • **オン**：“Dynamic EQ”イコライザーを使用します。 • **オフ**：“Dynamic EQ”イコライザーを使用しません。 • Audyssey オートセットアップをおこなうと、“Dynamic EQ”の設定は自動的に“オン”になります。 • “オン”に設定すると、“”が点灯します。 • “MultEQ XT”の設定が“オフ”または“マニュアル”のとき、“Dynamic EQ”は自動的に“オフ”になります。 • “Dynamic Volume”の設定が“オン”のとき、“Dynamic EQ”は自動的に“オン”になります。 • “Dynamic EQ”を“オン”に設定すると、“トーンコントロール”は“オフ”になります。 • リモコンの **DYNAMIC EQ** を押して設定することもできます。 **Dynamic EQ について** Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、ボリュームレベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ® XT 技術と連動することによりすべてのボリュームレベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

リモコンの操作ボタン

SEARCH MENU :メニューを表示する メニューを解除する
:カーソルを移動する（上/下/左/右）
ENTER :設定を確定する
RTN :ひとつ前のメニューに戻る

設定項目	設定内容
Audyssey 設定 （つづき）	**リファレンスレベルオフセット**：Audyssey Dynamic EQ は一般的なフィルム（映画など）のミキシングレベルをリファレンスとしています。ボリュームレベルが 0dB から下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に維持します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQ はフィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定（5dB / 10dB / 15dB）が可能です。以下が推奨の設定レベルになります。 • **<u>0dB</u>**（お買い上げ時の設定・フィルムリファレンス）：初期の設定。映画などのコンテンツに最適。 • **5dB**：クラッシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。 • **10dB**：ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。 • **15dB**：ポップやロックなどの非常に高いボリュームレベルでリスニングしたり、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。 “Dynamic EQ”が“オン”のときに設定できます（☞74 ページ）。

設定項目	設定内容
Audyssey 設定 （つづき）	**Dynamic Volume**：テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調整します。 • **オン**：“Dynamic Volume”イコライザーを使用します。Dynamic Volume の効果は、“設定”（☞75 ページ）で設定した値になります。 • **<u>オフ</u>**：“Dynamic Volume”イコライザーを使用しません。 • オン”に設定すると、“AUDYSSEY MULTEQ XT DYN VOL”が点灯します。 • “MultEQ XT”の設定が“オフ”のとき、“Dynamic Volume”は自動的に“オフ”になります。 • リモコンの **DYNAMIC VOLUME** を押して設定することもできます。 Dynamic EQ / Volume : オン → Dynamic EQ : オン / Volume : オフ AUDYSSEY DYNAMIC VOLUME “緑” AUDYSSEY DYNAMIC VOLUME “赤” **Dynamic Volume について** Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内におけるボリュームレベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みのボリューム設定値に自動的に調整する技術です。また、Dynamic Volume は Audyssey DynamicEQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことによりボリュームレベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。
	設定：“Dynamic Volume”イコライザーの効果を設定します。 • **<u>Midnight</u>**：最大で設定します。すべての音を一定の大きさにします。 • **Evening**：中間で設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。 • **Day**：最小で設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。 “Dynamic Volume”の設定が“オン”のときに設定できます。

ご使用になる前に
接続
設定
再生
マルチゾーン
リモコン操作
その他の情報
故障かな？と思ったら
保証と修理
主な仕様

次のページへ

設定項目	設定内容
Audyssey DSX 設定 DSX の設定とサウンドステージのパラメーターを調節します。	**DSX**：新たなチャンネルを追加し、包み込むようなサラウンドサウンドを提供します。 • **オン**：サラウンドを拡張する Audyssey DSX を設定します。 • **<u>オフ</u>**：Audyssey DSX を設定しません。
	ステージウィドス：フロントワイドスピーカー使用時にサウンドステージの広がりを調節します。 • **-10 ～ <u>0</u>** **ステージハイト**：フロントハイトスピーカー使用時サウンドステージの高さを調節します。 • **-10 ～ <u>0</u>** • “DSX” は、フロントハイトスピーカーまたはフロントワイドスピーカーをご使用のときに設定できます。 • “DSX” は、センタースピーカーを使用しているときに有効です。 • “DSX” はサラウンドモードが PLIIz Height 以外のスタンダードモードのときに有効です。 • “DSX” は、本体の **DSX** および リモコンの **SPEAKER** でも操作できます。ディスプレイの “DSX” 表示が点灯します。 • 再生する HD オーディオソースに、フロントハイトチャンネルやフロントワイドチャンネルが含まれている場合は、“Audyssey DSX 設定” はできません。この場合、入力信号のままそれぞれのチャンネルを再生します。 **Audyssey Dynamic Surround Expansion（DSX）について** Audyssey DSX は、既存の 5.1ch システムに新しいチャンネルを加えることによりサラウンド効果・印象を高め、より大きなサラウンド空間を実現する新しいサラウンド拡張技術です。人間の聴覚特性の研究で、サラウンド効果を高める要素として大きく 2 つのポイントがあげられます。最も重要なポイントは臨場感のあるサラウンド空間の構成にはフロント（前方向）部分に横の広がり（ワイドチャンネル）を作ることです。次に重要なポイントとしてはサラウンド空間に奥行き感を作る為には認知（聴くことが）出来る音響信号でフロント（前方向）部分に高さの広がり（ハイトチャンネル）を作ることとされています。DSX はこの 2 つの重要な要素からワイドチャンネル（Wide channel）、ハイトチャンネル（Height channel）それぞれペアで作り出します。また DSX は単純にチャンネルを追加するだけではなく、既存のフロントやサラウンド、サラウンドバックとの組み合わせることで更に効果を高める”Surround Envelopment Processing”（サラウンド・エンベロープメント・プロセッシング）という技術を開発し DSX の中に取り入れています。

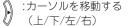
設定項目	設定内容
マニュアル EQ グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。	**調節チャンネル**：各スピーカーの音色を調節します。 ① スピーカーの音色の調節方法を選択する。 **すべて**：すべてのスピーカーの音色を一緒に調節します。 **<u>左右</u>**：左右のスピーカーの音色を一緒に調節します。 **各スピーカー**：各スピーカーごとに音色を調節します。 ② スピーカーを選択する。 ※ “左右” や “各スピーカー” を選んだときに、調節するスピーカーを選んでください。 ③ 調節する周波数帯を選択する。 **63Hz / 125Hz / 250Hz / 500Hz / 1kHz / 2kHz / 4kHz / 8kHz / 16kHz** ④ レベルを調節する。 **-20.0dB ～ +6.0dB（<u>0.0dB</u>）** “MultEQ XT” の設定（☞74 ページ）が “マニュアル” のときに設定できます。
	カーブコピー：“MultEQ XT” の “Audyssey Flat” の補正カーブをコピーします。 • **コピーする** • **コピーしない** “カーブコピー” は、Audyssey オートセットアップをおこなった後に表示されます。
	初期化：“マニュアル EQ” の設定内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • **初期化する**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **初期化しない**：お買い上げ時の設定に戻しません。

リモコンの操作ボタン

SEARCH MENU :メニューを表示する メニューを解除する

 :カーソルを移動する（上/下/左/右）

 :設定を確定する

RTN :ひとつ前のメニューに戻る

設定項目	設定内容
RESTORER 圧縮音声を圧縮前に近い状態に復元し、低域と高域の量感を補正して豊かに再生します。	**オフ**：RESTORER を使用しません。 **モード 1**（RESTORER 64）：高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。 **モード 2**（RESTORER 96）：圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します。 **モード3**(RESTORER HQ)：高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。 • アナログ入力や PCM 信号（fs = 44.1/48kHz）が入力されたときに、設定することができます。 • 入力モードが“EXT. IN”のときや、サラウンドモードが“DIRECT”モードのときは設定できません。 •“iPod”および“NET/USB”のお買い上げ時の設定は、“モード 3”です。その他のお買い上げ時の設定は、すべて“オフ”です。 •“オフ”以外に設定すると、“RSTR”を表示します。 • 再生中に **RESTORER** を押して設定することもできます。 **RESTORER について** • MP3、WMA（Windows Media Audio）や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。RESTORER は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。 • アナログ入力や PCM 信号（fs ＝ 44.1/48kHz）が入力されたときにサラウンドパラメーター内に表示され、設定することができます。
オーディオディレイ 映像を見ながら、音声の出力を遅らせる時間を調節します。	**0ms** ～ **200ms** •“オートリップシンク”の設定が“オン”、およびオートリップシンク対応のテレビを接続しているときは、0 ～ 100ms の範囲で設定できます。 •“オーディオディレイ”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

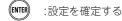
画質を調整する（画質調整）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

• 入力ソースが DVD HDP TV SAT/CBL VCR DVR V.AUX NET/USB のときに設定できます。
※上記以外の入力ソースでは、“ビデオセレクト”を選択しているときに設定できます。この場合、元の入力ソースの設定が呼び出されます。

•“ビデオコンバート”の設定（☞55 ページ）が“オン”のときに設定できます。

設定項目	設定内容
コントラスト 映像の明暗の差を調節します。	**-6** ～ **0** ～ **+6**
ブライトネス 映像の明るさを調節します。	**0** ～ **+12**
クロマレベル 色の濃さを調節します。	**-6** ～ **0** ～ **+6**
色合い 緑色と赤色のバランスを調節します。	**-6** ～ **0** ～ **+6**
DNR 映像全体のノイズを軽減します。	**オフ** / **弱** / **標準** / **強**
エンハンサー 映像の輪郭を強調します。	**0** ～ **+12**

•“DNR”および“エンハンサー”は、HDMI 出力に効果があります。
•“画質調整”で設定した値は、入力ソースごとに記憶します。

本機の設定状態や入力信号の情報などを確認する（情報）

設定項目	設定内容
現在の設定 現在の設定状態を表示します。	❏ **メインゾーン** メインゾーンの設定状態を表示します。 表示される内容は、入力ソースによって異なります。 **選択ソース** / **ネーム** / **ゾーンネーム** / **サラウンドモード** / **入力モード** / **デコードモード** / **HDMI** / **デジタル** / **コンポーネント** / **iPod dock** / **Rec Select** / **ビデオセレクト** / **ビデオコンバート** / **i/p スケーラー** / **解像度** / **プログレッシブモード** / **アスペクト**など
	❏ **ゾーン２** / **ゾーン３** マルチゾーンの設定状態を表示します。 **ゾーンネーム** / **電源** / **選択ソース** / **音量レベル**
音声入力信号 音声入力信号の情報を表示します。	**サラウンドモード**：設定されているサラウンドモード **信号**：入力信号の種類を表示 **fs**：入力信号のサンプリング周波数 **フォーマット**：入力信号のチャンネル数（フロント / サラウンド /LFE の有無） **オフセット**：ダイアログノーマライゼーションの補正値 **フラグ**：サラウンドバックチャンネルが含まれている信号を入力しているときに表示します。入力信号がドルビーデジタルEX、DTS-ESマトリックスのときは“MATRIX”、DTS-ES ディスクリート信号などのときは“DISCRETE”を表示します。 **ダイアログノーマライゼーション機能について** ドルビーデジタルソースの再生中に、自動的に動作します。 この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。 補正値は、本体の **STATUS** でも確認できます。 Dial.Norm Offset - 4dB 数字は、標準レベルに補正した場合の補正値です。
HDMI 情報 HDMI 入出力信号や HDMI モニターの情報を表示します。	**信号情報** • **解像度** / **カラースペース** / **ビット数**
	モニター１ / **モニター２** • **インターフェース** / **対応解像度**

設定項目	設定内容
オートサラウンドモード オートサラウンドモードの情報を表示します。	**アナログ /PCM 2ch** / **デジタル 2ch** / **デジタル 5.1ch** / **マルチチャンネル** “オートサラウンドモード”の設定が“オン”のときに表示します。
クイックセレクト 「よく使う設定を記憶させる（クイックセレクト機能）」（☞83 ページ）の情報を表示します。	**クイックセレクト１** / **クイックセレクト２** / **クイックセレクト３** / **ゾーン２クイックセレクト** / **ゾーン３クイックセレクト** • **選択ソース** / **ビデオセレクト** / **MultEQ XT** / **Dynamic EQ** / **Dynamic Volume** / **オートサラウンドモード (アナログ /PCM 2ch** / **デジタル 2ch** / **デジタル 5.1ch** / **マルチチャンネル)** / **音量レベル**
プリセットチャンネル プリセットチャンネルの情報を表示します。	入力ソースが **NET/USB** のときに確認できます。 **A** / **B** / **C** / **D** / **E** / **F** / **G** • **A1 ～ A8** / **B1 ～ B8** / **C1 ～ C8** / **D1 ～ D8** / **E1 ～ E8** / **F1 ～ F8** / **G1 ～ G8**

リモコンの操作ボタン

:メニューを表示する
メニューを解除する

:カーソルを移動する
（上/下/左/右）

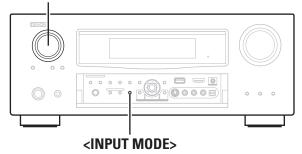
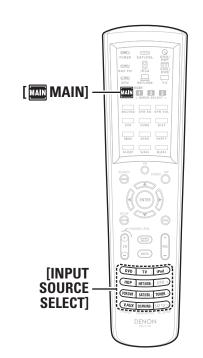
:設定を確定する

:ひとつ前のメニューに戻る

その他の操作や機能

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → BUTTON
本体のみにあるもの → <BUTTON>
リモコンのみにあるもの → [BUTTON]

<SOURCE SELECT>

その他の操作

DENON LINK 4th 対応のブルーレイディスクプレーヤーを再生する

DENON LINK 4th を再生するときは、対応しているブルーレイディスクプレーヤーと HDMI 接続および DENON LINK 接続をしてください。

DENON LINK 4th では、ブルーレイディスク再生時に DENON LINK 接続した AV アンプのクロックを使用したジッターの少ない HDMI 伝送が可能です。

1 **ご使用になる入力ソースに“HDMI 端子”を割り当て、さらに“デジタル端子”の設定で“D.LINK”を割り当てる（☞53 ページ「入力端子の割り当て」）。**

2 **“HDMI コントロール”⇨“コントロール”（☞42 ページ）を“オン”に設定する。**

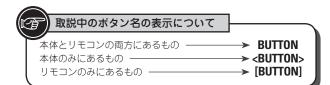
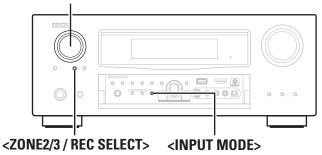
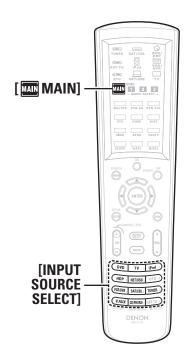
3 **<SOURCE SELECT> を回すか、[INPUT SOURCE SELECT] を押して、操作1で割り当てた入力ソースを選ぶ。**
ディスプレイの“HDMI”表示が点灯します。

4 **<INPUT MODE> で“オート”を選ぶ（☞56ページ「入力モード」）。**

5 **サラウンドモードを選ぶ（☞69 ページ「サラウンドモードを選ぶ（サラウンドモード）」）。**

6 **ブルーレイディスクを再生する。**
再生をはじめます。

ご注意

- ブルーレイディスクプレーヤーの“HDMI コントロール”の設定を“オン”、“DENON LINK”の設定を“4th”にしてください。操作のしかたは、ブルーレイディスクプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
- ブルーレイディスク以外の再生時は、ジッターフリー機能ははたらきません。この場合は、HDMI 出力から映像信号を、DENON LINK 端子から音声信号をそれぞれ出力します。
- 入力モードを“オート”に設定してブルーレイディスクを再生すると、自動的に DENON LINK 4th での再生になります。また、入力モードを“オート”に設定してブルーレイディスク以外のディスクを再生すると、自動的に DENON LINK 3rd での再生になります。
- 入力モードを“HDMI”に設定すると、従来どおりの HDMI 再生になります。
- 入力モードを“デジタル”に設定すると、DENON LINK 3rd に固定され、ブルーレイディスクの再生はできません。

スーパーオーディオ CD を再生する

1 **ご使用になる入力ソースに“HDMI 端子”を割り当てるか、“デジタル端子”の設定で“D.LINK”を割り当てる（☞53 ページ「入力端子の割り当て」）。**

2 **<SOURCE SELECT> を回すか、[INPUT SOURCE SELECT] を押して、操作1で割り当てた入力ソースを選ぶ。**
ディスプレイの“D.LINK”または“HDMI”表示が点灯します。

3 **サラウンドモードを選ぶ（☞69 ページ「サラウンドモードを選ぶ（サラウンドモード）」）。**
※ DIRECT モードでの再生をおすすめします。

4 **スーパーオーディオ CD を再生する。**
ディスプレイの“DSD”表示が点灯します。
※ 操作のしかたは、機器の取扱説明書をご覧ください。

- DSD 信号を DIRECT モードや PURE DIRECT モードで再生する場合は、DSD 信号のままアナログ変換されます。それ以外のサラウンドモードで再生する場合は、DSD 信号を一度 PCM 変換してからアナログ変換されます。
- DSD の 2 チャンネル信号を DIRECT モードで再生すると、ディスプレイに“DIRECT”と表示されます。また、DSD マルチチャンネル信号を DIRECT モードで再生すると、ディスプレイに“MULTI DIRECT”が表示されます。

外部機器で録音や録画をおこなう（REC OUT モード）

録音 / 録画用端子（VCR または DVR 出力端子）を使用すると、再生中の曲を聴きながら、別のプログラムソースを録音 / 録画することができます。

1 **<ZONE2/3 / REC SELECT> を押す。**
ディスプレイに“ZONE2 SOURCE”を表示します。

2 **“RECOUT SOURCE”が表示されるまで、<SOURCE SELECT> を回す。**
“REC”表示が点灯します。

ZONE2 SOURCE ◄► ZONE2 TUNER ◄► ···· ◄► ZONE2 NET/USB
↕ ↕
RECOUT NET/USB ◄► RECOUT V.AUX ◄► ···· ◄► RECOUT SOURCE

3 **<SOURCE SELECT> を回して、録音/録画したい入力ソースを選ぶ。**

4 **プログラムソースを再生する。**
※ 操作のしかたは、機器の取扱説明書をご覧ください。

5 **録音 / 録画をはじめる。**
※ 操作のしかたは、機器の取扱説明書をご覧ください。

- 解除する場合は、**<ZONE2/3 / REC SELECT>** を押してから、ディスプレイに“ZONE2 SOURCE”が表示されるまで、**<SOURCE SELECT>** を回してください。
- 録音 / 録画する前に、あらかじめ「試し録音」や「試し録画」をおこなってください。
- デジタル入力端子（OPTICAL/COAXIAL）から入力されたデジタル信号が PCM（2 チャンネル）の場合のみ、アナログ録音用端子に出力します。
- HDMI 端子から入力されたデジタル音声信号は、デジタル録音用端子（OPTICAL）に出力されないため、OPTICAL 端子や COAXIAL 端子を使用して接続してください。
- REC OUT モードで選ばれた入力ソースは、ゾーン 2 からも出力します。
- REC OUT モード中は、リモコンのゾーン 2 モードのボタンは操作できません。

ご注意

- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。
- "使用ソースの選択" で "使用しない" に設定した入力ソースは選べません（☞48 ページ）。

便利な機能

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能に対応しているテレビやプレーヤーを HDMI 接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定をすると、次の操作ができます。

- ❏ **テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。**
  テレビの音声出力の設定操作にて「アンプから音声を出力する」の設定操作をおこなうと、アンプの電源をオンにすることができます。
- ❏ **テレビの操作で、音声を出力する機器の切り替えができます。**
- ❏ **テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。**
- ❏ **テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースの切り替えができます。**
- ❏ **プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。**

- テレビの音声を本機で聞きたい場合は、光デジタルまたはアナログ接続をしてください（☞19 ページ「モニターを接続する」）。
- 本機能をお使いになる場合は、"HDMI コントロール" ⇨ "コントロール" を "オン" に設定してください（☞42 ページ）。

ご注意

- "HDMI コントロール" ⇨ "コントロール" を "オン" に設定しているときは、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。
- HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロールをおこなうときは、必ずテレビと HDMI 接続をしてください。
- 本機の電源を切ると、HDMI コントロール機能は動作しません。電源を入れるかスタンバイ状態にしてください。
- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。対応する機器については、弊社ホームページをご覧ください。
- "コントロール" を "オン" に設定している場合、"HDMI 端子"（☞53 ページ）の設定で、"TV" に HDMI 端子を割り当てることはできません。
- リモコンの **HDMI CONTROL** ボタンでは、本機能を呼び出すことはできません（☞93 ページ「TV」）。

1 **HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。**

2 **HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。**
"HDMI コントロール" ⇨ "コントロール"（☞42 ページ）を "オン" に設定する。

※ 接続機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
※ いずれかの機器の電源コンセントを抜いた場合は、操作 1、2 をおこなってください。

3 **テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。**

4 **本機の入力を HDMI 入力のソースに切り替えて、プレーヤーの映像が正しく映るかを確認する。**

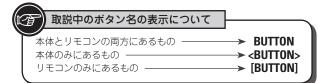
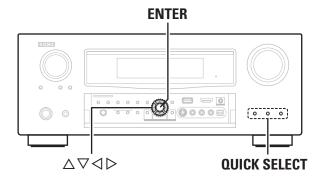
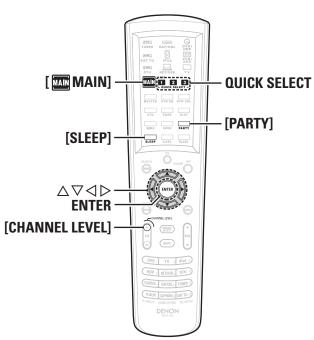
5 **テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。**

HDMI コントロール機能が正しく動作しない場合は、次の点をご確認ください。

- テレビやプレーヤーが HDMI コントロール機能に対応しているか。
- 本機の設定は正しいか。
  - "HDMI コントロール" ⇨ "コントロール" の設定（☞42 ページ）が "オン" になっているか。
  - "パワーオフコントロール" の設定（☞42 ページ）が "オン" になっているか。
  - "コントロールモニター" の設定（☞42 ページ）がテレビを接続したモニター出力になっているか。
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定は正しいか。

ご注意

以下の操作をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。その場合には、操作 1、2 をおこなってください。

- "入力端子の割り当て" ⇨ "HDMI 端子"（☞53 ページ）の設定変更
- "モニター出力"（☞42 ページ）の設定変更
- HDMI で接続している機器の接続変更や機器の増加

設定時間後に電源をスタンバイにする（スリープタイマー機能）

設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることが設定できます。
視聴しながら、おやすみになるときに便利です。

[SLEEP] を押して、設定したい時間を表示する。
ディスプレイの "SLEEP" 表示が点灯します。

※ **[SLEEP]** を押すたびに、時間が次のように切り替わります。

❑ スリープタイマーを解除するとき

[SLEEP] を押して "オフ" に設定する。
ディスプレイの "SLEEP" 表示が消灯します。

- 本機の電源がスタンバイまたはオフになると、スリープタイマーの設定を解除します。
- スリープタイマー機能は、ゾーンごとに設定できます（☞90 ページ「スリープタイマー機能」）。

チャンネルレベルを調節する

再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、各チャンネルレベルの調節をおこなってください。

各スピーカーの音量を調節する

1 **[CHANNEL LEVEL] を押す。**

2 **△▽ を押して、スピーカーを選ぶ。**
ボタンを押すたびに、スピーカーが切り替わります。

3 **◁ ▷ を押して、音量を調節する。**

※ サブウーハーの場合、"-12dB" のときに ◁ を押すと、"オフ" の設定になります。

ヘッドホンプラグを挿入しているときは、ヘッドホン用のチャンネルレベルの調節ができます。

スピーカーの音量をまとめて調節する（フェーダー機能）

フロント側（フロントスピーカー / フロントハイトスピーカー / フロントワイドスピーカー / センタースピーカー）またはリア側（サラウンドスピーカー / サラウンドバックスピーカー）のスピーカーの音量をまとめて調節（減衰）します。

1 **▽を押して "フェーダー" を選び、◁▷を押して調節する項目を選ぶ。**

2 **◁ ▷ を押して、スピーカーの音量を調節する。**
（◁：フロント側、▷：リア側）

- フェーダー機能は、サブウーハーには働きません。
- 一番小さい値に調節されているスピーカーの音量が、-12dB になるまで調節できます。

よく使う設定を記憶させる（クイックセレクト機能）

手順 1 の設定内容をまとめて記憶できます。よく使う設定を記憶させておくと、常に同じ再生環境を簡単に呼び出してお楽しみいただくことができます。

記憶のさせかた

1 下記を記憶させたい状態に設定する。

① 入力ソース（☞30 ページ）
② 音量（☞67 ページ）
③ サラウンドモード（☞69 ページ）
④ Audyssey 設定（MultEQ XT®、Dynamic EQ™、Dynamic Volume™）（☞74、75 ページ）
⑤ ビデオセレクト（☞55 ページ）

2 ディスプレイに“Quick 1 Memory”、“Quick 2 Memory”または“Quick 3 Memory”が表示されるまで、 QUICK SELECTを長押しする。

再生中の設定が記憶されます。

【お買い上げ時の設定】

	入力ソース	音量
クイックセレクト 1	DVD	–40dB
クイックセレクト 2	SAT/CBL	–40dB
クイックセレクト 3	VCR	–40dB

呼び出しかた

呼び出したい設定が記憶されている QUICK SELECT を押す。

ディスプレイの“Q1”、“Q2”または“Q3”表示が点灯します。

❏ クイックセレクトに名前をつけるには

“クイックセレクトネーム”（☞49 ページ）をご覧ください。

クイックセレクト機能は、ゾーンごとに設定できます（☞90 ページ「クイックセレクト機能」）。

ご注意

“使用ソースの選択”（☞48 ページ）で、クイックセレクトに記憶させている入力ソースを削除すると、そのクイックセレクトの設定も削除されます。このような場合は、もう一度クイックセレクトを記憶させてください。

同じネットワークに接続されている機器間で同じネットワークオーディオを楽しむ（パーティーモード機能）

同じネットワークに接続されているパーティーモード機能を搭載した DENON 製品間で、同じネットワークオーディオ（インターネットラジオ、メディアサーバーまたは iPod ダイレクト）を同時に楽しむことができます。
パーティーモードは、1 台のオーガナイザー（親機）と最大 4 台のアテンディー（子機）で構成します。ある 1 台がオーガナイザーとしてパーティーモードを開始すると、パーティーモード機能を有効にしている最大 4 台の機器が自動的にアテンディーとしてそのパーティーに参加することができます。
パーティーモード機能を利用するには、あらかじめ“パーティーモード機能”（☞46 ページ）を“オン”に設定する必要があります。

オーガナイザー（親機）としてパーティーモードを開始する

1 [PARTY] を押す。

“パーティーモードを開始しますか?”が表示されます。

※ ネットワークに接続していない場合は、エラーメッセージを表示します。

2 ◁ ▷ で“はい”を選び、ENTERを押す。

ディスプレイの“PARTY ORGANIZER”表示が点灯します。

入力ソースは自動的に“NET/USB”に切り替わり、自動的にアテンディーを選びます。

3 好きな曲を再生する。

❏ パーティーモードを終了するとき

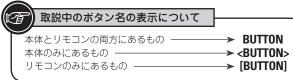
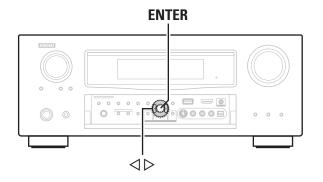
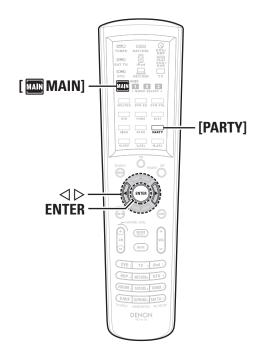
1 パーティーモード中に [PARTY] を押す。

GUI画面に“パーティーモードを終了しますか?”が表示されます。

2 ◁ ▷ で“はい”を選び、ENTER を押す。

“アテンディー機器の電源をオフしますか?”が表示されます。

3 ◁▷で“はい”または“いいえ”を選び、ENTER を押す。

- **はい**：アテンディー機器の電源を切ってパーティーモードを終了します。
- **いいえ**：アテンディー機器の電源を切らないでパーティーモードを終了します。

アテンディー（子機）としてパーティーモードに参加する

- オーガナイザーがパーティーモードを開始すると、自動的に最大 4 台がアテンディーとして選ばれますので、操作は必要ありません。
- アテンディーになると、ディスプレイの "PARTY ATTENDEE" が点灯します。入力ソースは自動的に "NET/USB" に切り替わり、オーガナイザーと同じネットワークオーディオの再生を楽しむことができます。
- アテンディーが 4 台に満たない場合は、後からパーティーモードに参加することもできます。パーティーモードに参加する場合は、以下の操作をおこなってください。

1 **[PARTY] を押す。**
"パーティーモードを開始しますか?" が表示されます。

※ ネットワークに接続していない場合は、エラーメッセージを表示します。

2 **◁ ▷ で "はい" を選び、ENTERを押す。**

❏ パーティーモードを終了するとき

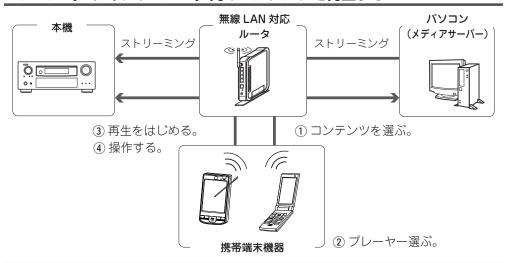
1 **パーティーモード中に [PARTY] を押す。**
GUI画面に "パーティーモードを終了しますか?" が表示されます。

2 **◁ ▷ で "はい" を選び、ENTER を押す。**
この場合、他の機器のパーティーモードは継続しています。

パーティーモードでは、"USB" のご利用はできません。
同じネットワーク内でオーガナイザーは 1 台のみです。新たにパーティーモードを構成する場合は、一旦パーティーモードを終了してください。

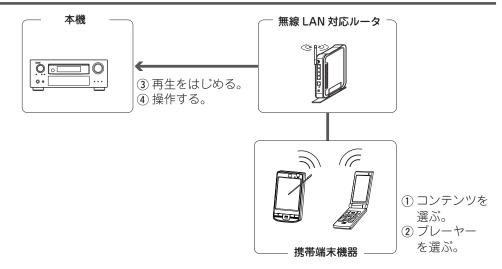
無線 LAN 対応の携帯端末機器を操作して音楽や静止画像などを再生する

- DLNA（Digital Living Network Alliance）に準拠した無線 LAN 対応の携帯端末機器を使用します。
- 携帯端末機器を操作して、同じネットワーク上のパソコン（メディアサーバー）や携帯端末機器内のコンテンツを再生することができます。
- 携帯端末機器での操作には、2 種類の方法があります。

パソコン（メディアサーバー）内のコンテンツを再生する

1 **携帯端末機器から、同じネットワーク内にあるメディアサーバーをブラウズして、再生したいコンテンツを選ぶ。**

2 **携帯端末機器から、ネットワーク内にある製品の中から本機を選ぶ。**
手順 1 で選んだコンテンツの再生をはじめます。

※ 携帯端末機器から本機を選択する際に、本機の名称をフレンドリーネームで表示します（☞46 ページ「フレンドリーネームの編集」）。
※ 携帯端末機器からは以下の操作ができます。
- ファイル操作（再生 / 停止 / 一時停止 / トラックサーチ）
- 再生モード設定（リピート / ランダム）
- 音量操作

携帯端末機器内のコンテンツを再生する

1 **携帯端末機器の中から再生したいコンテンツを選ぶ。**

2 **携帯端末機器から、ネットワーク内にある製品の中から本機を選ぶ。**
手順 1 で選んだコンテンツの再生をはじめます。

※ 携帯端末機器から本機を選択する際に、本機の名称をフレンドリーネームで表示します（☞46 ページ「フレンドリーネームの編集」）。
※ 携帯端末機器からは以下の操作ができます。
- ファイル操作（再生 / 停止 / 一時停止 / トラックサーチ）
- 再生モード設定（リピート / ランダム）
- 音量操作

- 携帯端末機器から操作中は、GUI 画面に“ ”を表示します。
- 各設定や操作方法については、ご使用になる携帯端末機器の取扱説明書をご覧ください。
- 携帯端末機器から本機を選択する際に、本機の名称をフレンドリーネームで表示します。フレンドリーネームは、他の機器と区別しやすいように、“フレンドリーネームの編集”（☞46 ページ）でお好みの名前に編集することができます。
- 携帯端末機器から再生を開始する際に、本機は自動的に入力ソースを“NET/USB”に切り替えます。また、“ネットワークスタンバイ”の設定（☞46 ページ）が“オン”のときは、自動的に電源が入ります。

ご注意

携帯端末機器から操作中に、本機でブラウズや再生に関する操作（再生 / 停止 / 一時停止 / トラックサーチ）をおこなうと、携帯端末機器との接続が切断されます。また、パーティーモードを開始した場合も、携帯端末機器との接続は切断されます。

ブラウザを使用して本機を操作する（ウェブコントロール機能）

ブラウザを使用して、本機を操作することができます。

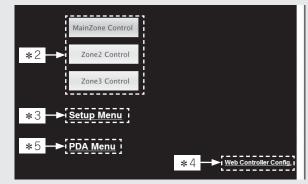
1 **“ネットワークスタンバイ”の設定を“オフ”にする（☞46 ページ）。**

2 **“ネットワーク情報”で、本機の IP アドレスを確認する（☞47 ページ）。**

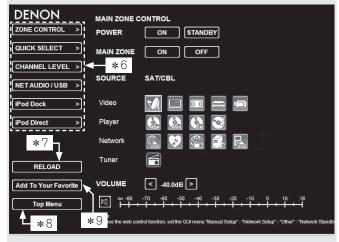
3 **ブラウザのアドレスに、本機の IP アドレスを入力する。**

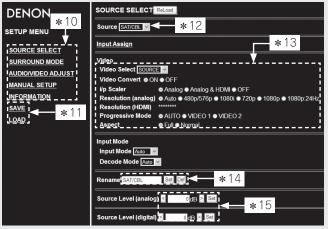
例えば、本機の IP アドレスが“192.168.100.33”の場合は、“http://192.168.100.33”と入力してください。

∗1：IP アドレスを入力

4 **トップメニューが表示されたら、操作したいメニューをクリックする。**

∗2：各ゾーンを操作するときにクリックします（☞【例 1】）
∗3：セットアップメニューを操作するときにクリックします（☞【例 2】）
∗4：ウェブコントロール画面の設定を変更するときにクリックします（☞【例 3】）
∗5：PDA 端末など小画面で操作するときにクリックします（☞【例 4】）

5 **操作する。**

【例 1】メインゾーンコントロール画面

∗6：各操作をおこなうときにクリックします。
各操作画面になります。（☞【例 5】）
∗7：最新の情報に更新するときにクリックします。
通常は操作するたびに、最新の情報に切り替わります。本体側で操作された場合は、画面は更新されませんので、クリックしてください。
∗8：トップメニューに戻るときにクリックします。
【例 3】で“Top Menu Link Setup”を“ON”に設定すると、表示されます。
∗9：ブラウザの「お気に入り」に登録するときにクリックします。
誤って、操作していないゾーンのメニュー操作をおこなわないように、ゾーンごとに設定画面をブラウザのお気に入りなどに登録することをおすすめします。

【例 2】セットアップメニュー画面

＊10：設定したいメニューをクリックします。
右側の表示が各設定画面になります。

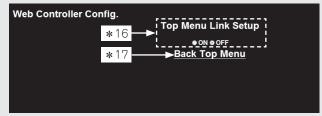
＊11：設定を保存するときには“SAVE”、設定を呼び出すときには“LOAD”をクリックします。
各操作画面になります。

＊12：“v”をクリックして表示される項目から選びます。

＊13：設定項目をクリックして確定します。

＊14：文字を入力した後、確定するときに“Set”、初期設定に戻すときに“Def”をクリックします。

＊15：数値を入力するか、“<”または“>”をクリックして設定後、“Set”をクリックします。

【例 3】ウェブ構成画面

＊16：トップメニューのリンク設定をするときに“ON”をクリックします。
設定すると、各操作画面からトップメニューに戻れます。
（お買い上げ時の設定：“OFF”）

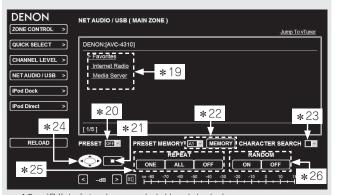
＊17：トップメニューに戻るときに、クリックします。

【例 4】PDA メニュー画面

＊18：各ゾーンを操作するときに選ぶ。

ご注意

PDA メニュー画面では、セットアップメニュー操作やゾーン名の変更はできません。

【例 5】ネットワークオーディオ操作画面

＊19：操作したいメニューをクリックします。

＊20：“v”をクリックして、再生したいプリセットチャンネルを選びます。

＊21：再生を停止するときにクリックします。

＊22：プリセット登録する場合に、“v”をクリックして登録したいチャンネルを選択し、“MEMORY”をクリックします。

＊23：頭文字で検索する場合に、“v”をクリックして表示される文字から選びます。

＊24：メニューを選択するときにクリックします。

＊25：リピート再生時にクリックします。

＊26：ランダム再生時にクリックします。

【例 6】iPod Touch 専用画面

※ iPod Touch のブラウザからアクセスすると、最適化された操作画面が表示されます。

各種メモリー機能

パーソナルメモリープラス機能

入力ソースごとに最後に設定していた内容（入力モード、サラウンドモード、MultEQ XT、Dynamic EQ、Dynamic Volume やオーディオディレイなど）を記憶します。

ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。
再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定になります。

ゾーン 2/ ゾーン 3 再生（マルチゾーン機能）

マルチチャンネル再生をおこなうメインゾーン以外の部屋で音声を再生することができます。

ゾーン 2 で選んだ入力ソースの音声は、録音用（VCR または DVR 出力端子）端子からも出力します。

音声出力

マルチチャンネル再生をおこなうメインゾーン以外の他の部屋で 2 チャンネルの音声を再生することができます。
次の 2 通りの方法があります。いずれかを選んでください。
① スピーカー出力によるゾーン再生
② 音声出力によるゾーン再生（PRE OUT）
外部アンプを使用します。

① スピーカー出力によるゾーン再生

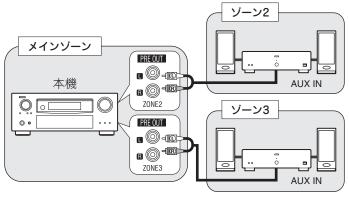
アンプアサイン機能により、本機の SURR BACK/AMP ASSIGN スピーカー端子からゾーン 2 またはゾーン 3 の音声を出力します。

スピーカーの接続と設定

	"アンプの割り当て" モード（☞38 ページ）の設定と出力する音声信号	スピーカーを接続する
ゾーン 2	**ゾーン2** 出力信号： ステレオ（L / R）	ZONE2
ゾーン 3	**ゾーン3** 出力信号： ステレオ（L / R）	ZONE3
ゾーン 2 および **ゾーン 3**	**ゾーン（モノラル）** 出力信号：モノラル	ZONE2 ZONE3

② 音声出力によるゾーン再生（PRE OUT）

音声接続（ゾーン 2、ゾーン 3）

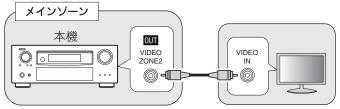
本機のゾーン 2 およびゾーン 3 の音声出力端子の音声をゾーン 2 およびゾーン 3 のアンプに出力し、そのアンプで再生します。

接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。

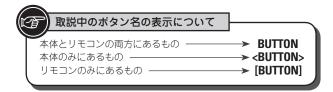
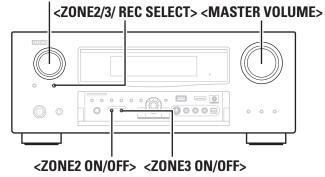
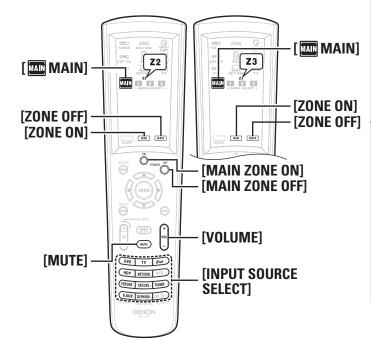
ご注意

- 音声の接続については、雑音が発生しないように高品質のピンプラグケーブルのご使用をおすすめします。
- デジタル入力端子（OPTICAL/COAXIAL）を割り当てた入力ソースをゾーン 2 またはゾーン 3 で選択した場合、入力されたデジタル信号が PCM（2 チャンネル）のときだけ再生します。
- ゾーン 2、ゾーン 3 では、HDMI 端子や DENON LINK 端子から入力されたデジタル音声信号は再生できません。
- デジタル信号が入力されている場合、ゾーン 2 とゾーン 3 のオーディオ出力端子から雑音が出力されることがあります。

ビデオ出力

映像接続

本機のゾーン 2 映像出力の映像をゾーン 2 のテレビで再生します。

ご注意

HDMI 端子やコンポーネントビデオ端子から入力した映像をゾーン 2 に出力することはできません。

再生のしかた

「① スピーカー出力によるゾーン再生」、「② 音声出力によるゾーン再生（PRE OUT）」の操作方法は同じです。

1 **本機の電源を入れる。**
（☞27ページ「電源を入れる」）

2 **ゾーンの電源を入れる。**

本体での操作

操作したいゾーンの<ZONE2ON/OFF>または<ZONE3 ON/OFF> を押す。
操作したいゾーンの電源が入ると、ディスプレイのマルチゾーン表示（Z2 または Z3）が点灯します。

リモコンでの操作

[MAIN] を押して、操作するゾーンのモードを表示させ、[ZONE ON] を押す。
操作したいゾーンの電源が入ると、ディスプレイのマルチゾーン表示（Z2 または Z3）が点灯します。

※ スタンバイモード時に **[INPUT SOURCE SELECT]** を押しても、電源が入ります。
※ ゾーン２またはゾーン３を使用しているときに **[MAIN ZONE ON]** または **[MAIN ZONE OFF]** を押すと、メインゾーンの電源をオン / オフすることができます。

3 **入力ソースを選ぶ。**

本体での操作

① **<ZONE2/3/ REC SELECT> で設定するゾーンを選ぶ。**
② **<SOURCE SELECT> を回して入力ソースを選ぶ。**

リモコンでの操作

操作したいゾーンのモードで [INPUT SOURCE SELECT] を押す。

4 **以下の項目を調節する。**

❑ 音量の調節

本体での操作

① **<ZONE2/3/ REC SELECT> で設定するゾーンを選ぶ。**
② **<MASTER VOLUME>を回して調節する。**

リモコンでの操作

音量を調節したいゾーンのモードで、[VOLUME]を押す。

［調節できる範囲］ - - -　-80dB ～ -40dB ～ 18dB
（“音量表示”の設定が“相対値”のとき）

［調節できる範囲］ 0 ～ 41 ～ 99
（“音量表示”の設定が“絶対値”のとき）

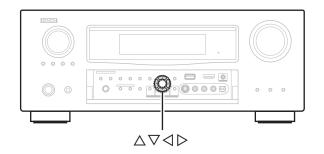
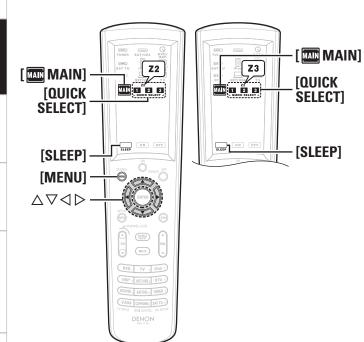
※ お買い上げ時は、“音量の上限”が“-10dB（71）”に設定されています。

❑ 一時的に音を消す

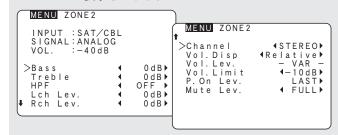
音量を調節したいゾーンのモードで、[MUTE]を押す。
メニューの“ミューティングレベル”で設定したレベルまで減衰します（☞48ページ）。

※ キャンセルする場合は、音量を調節するか、もう一度 **[MUTE]** を押してください。
※ ゾーンの電源をオフにしても、この設定はキャンセルされます。

取説中のボタン名の表示について

本体とリモコンの両方にあるもの → BUTTON
本体のみにあるもの → <BUTTON>
リモコンのみにあるもの → [BUTTON]

メニュー操作

トーンの調節や音量に関する設定をすることができます。

1 操作したいゾーンのモードで、[MENU] を押す。
ゾーン２のテレビに、ゾーン２またはゾーン３のメニューが表示されます。

2 △▽◁▷ で設定 / 操作したいメニューを選ぶ。

3 [MENU] を押して設定を確定する。
オンスクリーンディスプレイが消えます。

ゾーン２では、オンスクリーンディスプレイを見ながら、"ゾーンの設定" をおこなうことができます。また、ゾーン３を操作したときもゾーン２のモニターにオンスクリーンディスプレイが表示されますので、それを見ながら操作することができます。

クイックセレクト機能

マルチゾーンにも３通りの設定を記憶することができます。

1 ゾーン２またはゾーン３で、下記を記憶させたい状態に設定する。
① 入力ソース（☞30 ページ）
② 音量レベル（☞67 ページ）

2 操作したいゾーンのモードで、ゾーン２のオンスクリーンディスプレイに "Z2（Z3）Quick 1 Memory"、"Z2（Z3）Quick 2 Memory" または "Z2（Z3）Quick 3 Memory" が表示されるまで [QUICK SELECT] を押す。
再生中の設定が記憶されます。

【お買い上げ時の設定】

	入力ソース	音量
Z2/Z3 クイックセレクト 1	DVD	-40dB
Z2/Z3 クイックセレクト 2	SAT/CBL	-40dB
Z2/Z3 クイックセレクト 3	VCR	-40dB

呼び出しかた

呼び出したい設定が記憶されているゾーンのモードで、[QUICK SELECT] を押す。

❑ クイックセレクトに名前をつけるには

"クイックセレクトネーム"（☞49 ページ）をご覧ください。

スリープタイマー機能

視聴しながら、おやすみになるときに便利です。

1 [MAIN] を押して、操作するゾーンのモードを表示する。

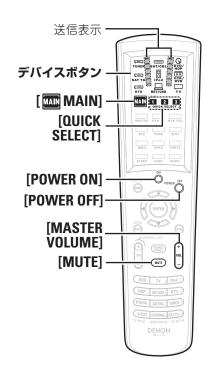
2 [SLEEP] を押して設定したい時間を表示する。
[SLEEP] を押すたびに、時間が次のように切り替わります。

❑ スリープタイマーを解除するとき

[SLEEP] を押して "オフ" に設定する。

本機をスタンバイにしたり、ゾーン２またはゾーン３の電源をオフにしてもスリープタイマーは解除されます。

リモコンで機器を操作する

- リモコンは、操作する機器やモードに応じて表示が切り替わります。
- メイン、iPod および NET/USB モードに、リモコン ID を設定すると、DENON 製アンプが複数台ある環境でも、本機を単独で使用することができます（☞95 ページ「リモコン ID を設定する」）。

AV 機器を操作する

1 操作する機器の デバイスボタン を押す。
操作する機器の表示が点滅します。

MAIN：メインゾーン / ゾーン2 / ゾーン3 / ゾーン4* / マクロ

TUNER：チューナー（FM/AM）

SAT TU：使用しません。

DTU：使用しません。

SAT/CBL：衛星チューナー / ケーブルテレビチューナー / IPTV / HDTV（セットトップボックス）

iPod：iPod

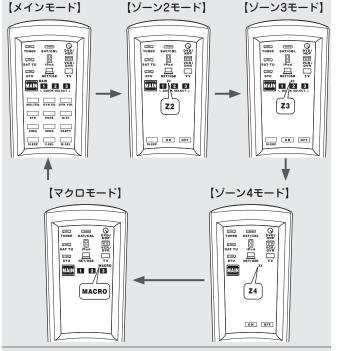
NET/USB：ネットワーク / USB

DVD/HDP：ブルーレイディスクプレーヤー / HD DVDプレーヤー / DVDプレーヤー（レコーダー）/ CDプレーヤー（レコーダー）

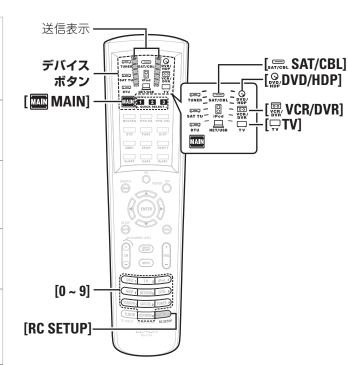
VCR/DVR：DVDレコーダー

TV：モニター

*: ゾーン 4 モードは本機では使用しません。

※ [MAIN] を押すたびに、ゾーン表示が次のように切り替わります。

2 機器を操作する。

※ 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

- ゾーン 2、ゾーン 3 およびゾーン 4 モードのときに **[POWER ON]** または **[POWER OFF]** を押すと、メインゾーンの電源をオン / オフすることができます。
- **[QUICK SELECT]**、**[MUTE]** および **[MASTER VOLUME]** は、デバイスの選択が **[MAIN]** 以外のときでも操作することができます。 その際、前回使用していたゾーンの操作ができます。前回使用していたゾーンは、ゾーン表示で確認してください。

プリセットコードを登録する

付属のリモコンにプリセットコードを登録すると、各社の機器の操作ができるようになります。

1 **プリセットコードを登録する機器の[DVD/HDP]、[VCR/DVR]、[TV] または [SAT/CABLE] を押す。**

2 **[RC SETUP] を3秒以上長押しする。**
送信表示が2回点滅します。

3 **[0 ~ 9] でプリセットコード表（☞巻末）からプリセットコードを登録する機器のメーカーの番号（5桁）を入力する。**
登録されると、送信表示が2回点滅します。

※ 10 秒間何も操作しないと、設定モードが解除されます。

- メーカーによってはプリセットコードを数種類持っています。動作しない場合は別のコードを入力してください。
- お手持ちの機器の形式や年式によって、操作できないボタンがあります。その際は、学習機能のご使用をおすすめします（☞96 ページ「学習機能」）。
- "TUNER" モードは、DENON 製チューナー機器のみ操作できます。

プリセットコードを登録した機器を操作する

1 **操作する機器の デバイスボタン を押す。**
操作する機器の表示が点滅します。

2 **機器を操作する。**

※ 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

ブルーレイディスクプレーヤー / HD DVD プレーヤー / DVD プレーヤー / DVD レコーダー

ELディスプレイ	
デバイスボタン	DVD/HDP（SAT/CBL VCR/DVR TV）＊1
RPT	リピート
RND	ランダム
SKIP+	ディスクスキップ（チェンジャー対応機器の場合）
⏮ ⏭	オートサーチ（頭出し）
▶	再生
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し/早送り）
❚❚	一時停止
■	停止
ON	電源オン ＊2
OFF	電源オフ ＊2
ボタン	
MENU/SEARCH	（ポップアップ）メニュー
△▽◁ ▷	カーソル
ENTER	確定
SETUP/RSTR	セットアップ
RTN	リターン
CH +, –	チャンネルの切り替え（アップ/ダウン）
0 ~ 9, +10	タイトルまたはチャプターの選択 / チャンネルの選択

＊1：（　）の中のデバイスボタンにもプリセットコードを登録できます。
＊2：機器によっては、電源オン / オフの動作になる場合があります。

CD プレーヤー / CD レコーダー

デバイスボタン	DVD/HDP（SAT/CBL VCR/DVR TV）*1
ELディスプレイ	
RPT	リピート
RND	ランダム
SKIP+	ディスクスキップ（チェンジャー対応機器の場合）
◀◀ ▶▶	オートサーチ（頭出し）
▶	再生
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し/早送り）
II	一時停止
■	停止
ON	電源オン *2
OFF	電源オフ *2
ボタン	
MENU/SEARCH	アンプのメニュー
△▽◁ ▷	アンプのカーソル
ENTER	アンプの確定
SETUP/RSTR	RESTORER
RTN	アンプのリターン
0 ~ 9, +10	曲の選択

*1：（ ）の中のデバイスボタンにもプリセットコードを登録できます。
*2：機器によっては、電源オン / オフの動作になる場合があります。

DVD レコーダー / ビデオデッキ / テープデッキ

デバイスボタン	VCR/DVR（SAT/CBL DVD/HDP TV）*1
ELディスプレイ	
◀◀ ▶▶	オートサーチ（頭出し）
▶	再生
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し/早送り）
II	一時停止
■	停止
ON	電源オン *2
OFF	電源オフ *2
ボタン	
MENU/SEARCH	メニュー/ ガイド
△▽◁ ▷	カーソル
ENTER	確定
SETUP/RSTR	セットアップ
RTN	リターン
CH +, –	チャンネルの切り替え（アップ/ダウン）
1 ~ 9	チャンネルの選択

*1：（ ）の中のデバイスボタンにもプリセットコードを登録できます。
*2：機器によっては、電源オン / オフの動作になる場合があります。

TV

デバイスボタン	TV（SAT/CBL DVD/HDP VCR/DVR）*1
ELディスプレイ	
◀◀ ▶▶	オートサーチ（頭出し）
▶	再生
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し/早送り）
II	一時停止
■	停止
ON	電源オン *2
OFF	電源オフ *2
ボタン	
MENU/SEARCH	メニュー/ ガイド
△▽◁ ▷	カーソル
ENTER	確定
SETUP/RSTR	RESTORER
RTN	リターン
CH +, –	チャンネルの切り替え（アップ/ダウン）
MUTE	TVの消音
VOL +, –	TVの音量（アップ/ダウン）
1 ~ 9	チャンネルの選択
TV INPUT	TVの入力
HDMI CONTROL	リンクメニューの呼び出し *3

*1：（ ）の中のデバイスボタンにもプリセットコードを登録できます。
*2：機器によっては、電源オン / オフの動作になる場合があります。
*3：HDMI コントロール機能に対応しているテレビのリンクメニューを呼び出します。操作方法は、ご使用のテレビの取扱説明書をご覧ください。

プリセットコードを登録した機器を操作する

衛星チューナー / TV チューナー / IP TV / HD TV（セットトップボックス）

ELディスプレイ	
デバイスボタン	SAT/CBL（DVD/HDP　VCR/DVR　TV）＊1
⏮ ⏭	オートサーチ（頭出し）
▶	再生
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し/早送り）
❚❚	一時停止
■	停止
ON	電源オン ＊2
OFF	電源オフ ＊2
ボタン	
MENU/ SEARCH	メニュー
△▽◁ ▷	カーソル
ENTER	確定
SETUP/RSTR	ガイド
RTN	リターン
CH +, –	チャンネルの切り替え（アップ/ダウン）
0 ~ 9, +10	チャンネルの選択

＊1：(　) の中のデバイスボタンにもプリセットコードを登録できます。
＊2：機器によっては、電源オン / オフの動作になる場合があります。

iPod

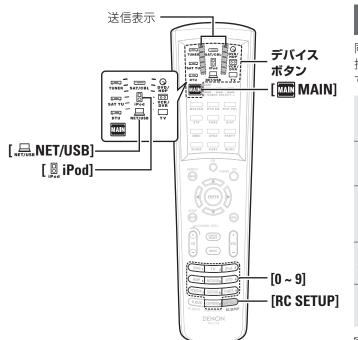
ELディスプレイ	
デバイスボタン	iPod
RPT	1 曲/ 全曲リピート再生
RND	1 曲/ アルバムシャッフル再生
⏮ ⏭	オートサーチ（頭出し）
▶	再生
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し/早送り）
❚❚	一時停止
■	停止
ボタン	
MENU/ SEARCH（短押し）	ページサーチモード
（長押し）	ブラウズ/リモートモード切り替え
△▽◁ ▷	カーソル
ENTER	確定
SETUP/RSTR	RESTORER
RTN	リターン

チューナー (FM/AM)

ELディスプレイ	
デバイスボタン	TUNER
A ~ G	プリセットメモリーブロックの選択
TU ▲▼	選局 + / -
BAND	FM/AM切り替え
MODE	サーチモードの切り替え
MEMO	プリセットメモリー登録
ボタン	
SETUP/RSTR	RESTORER
CH +/–	プリセットチャンネルの選択
1 ~ 8	プリセットチャンネルの選択

DENON 製チューナー機器のみ操作できます。

NET/USB

ELディスプレイ	
デバイスボタン	NET/USB
A ~ G	プリセットメモリーブロックの選択
TU ▲▼	写真の切り替え
MEMO	プリセットメモリー登録
ボタン	
MENU/SEARCH	ページサーチ / キャラクターサーチ
△▽◁ ▷	カーソル
ENTER	確定
SETUP/RSTR	RESTORER
RTN	リターン
CH +/–	プリセットチャンネルの選択
1 ~ 8	プリセットチャンネルの選択

リモコン ID を設定する

同じ部屋で DENON 製 AV アンプを複数台ご使用の場合に、操作する機器以外の AV アンプが動作しないように設定します。

1 **[MAIN]を押して、ゾーン表示の“MAIN”を点灯させる。**

2 **[RC SETUP]を３秒以上長押しする。**
送信表示が2回点滅します。

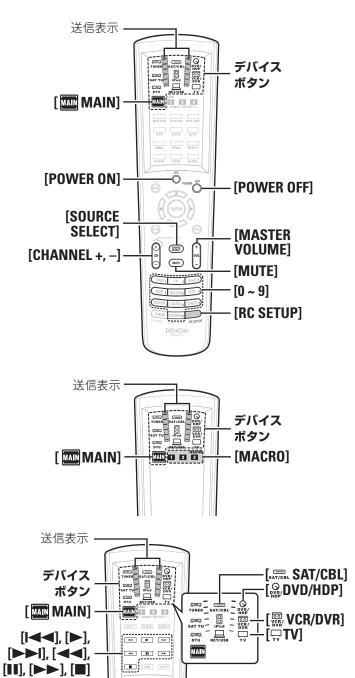
3 **下表を参照して、変更するリモコンIDに対応する番号（５桁）を [0 ~ 9]で入力する。**
送信表示が2回点滅します。

4 **[iPod] または [NET/USB] で、設定するモードを選ぶ。**

5 **操作２と３をくり返して、リモコン ID を設定する。**

デバイスボタン ＼ リモコンID	MAIN（アンプ）	iPod	NET/USB
1（お買い上げ時の設定）	81001	72815	62865
2	82001	72816	62837
3	83001	72817	62838
4	84001	72818	62839

ご注意

- 設定を変更する場合は、必ず本体と同じリモコン ID に設定してください (☞50 ページ)。
- メインモードのリモコン ID を変更する場合は、“iPod” および “NET/USB” のリモコン ID も変更してください。

学習機能

お手持ちの AV 機器が DENON 以外の製品の場合やプリセットコードの登録をおこなっても操作できない場合は、他機のリモコン信号を本機のリモコンに記憶させてご使用ください。

1 **[RC SETUP] を３秒以上長押しする。**
送信表示が2回点滅します。

2 **[9]、[7]、[5] の順に押す。**
送信表示が2 回点滅し、学習機能モードになります。

3 **設定する機器の デバイスボタン を押す。**

4 **設定するボタンを押す。**
表示が消え、学習待機モードになります。

※ 学習できないボタンを押した場合は、送信表示が点灯し設定が解除されます。

5 **リモコンをまっすぐに向かい合わせ、学習させる他機のリモコンボタンを長押しする。**
正常に学習機能が終了すると表示が点灯し、送信表示が 2 回点滅します。

※ 他にも学習させたいボタンがある場合は、操作 4、5 をくり返しおこなってください。
※ **デバイスボタン** を押すと、モードを切り替えることができます。
※ 学習できなかった場合は、送信表示が 1 回長く点灯します。

6 **[RC SETUP] を３秒以上長押しする。**
送信表示が2回点滅し、設定が終了します。

- リモコンによっては学習できない場合や、学習しても機器が正常に動作しない場合があります。この場合は、機器の専用リモコンをご使用ください。
- 学習したボタンはプリセットメモリーよりも優先されます。不要の場合は学習内容を消去してください（☞98 ページ）。

ご注意

- **[POWER ON]**、**[POWER OFF]** および **[SOURCE SELECT]** は学習できません。
- **[RC SETUP]** には学習させないでください。
- メインゾーン、ゾーン 2、ゾーン 3、ゾーン 4 およびマクロモードには学習できません。
- リモコンが TUNER、SAT TU、DTU、NET/USB および iPod モードのときの **[MASTER VOLUME]** および **[MUTE]** には学習できません。

マクロ機能

連続した操作を 1 つのボタンに登録させることができます。この機能により、1 回のボタン操作でアンプの電源オン、入力ソースの選択、モニターの電源オン、ソース機器の電源オン、再生などの一連の操作ができます。
[MACRO]（**1** ～ **3**）にそれぞれ 32 個までの信号を登録することができます。

登録する

1 **[RC SETUP] を３秒以上長押しする。**
送信表示が2回点滅します。

2 **[9]、[7]、[8] の順に押す。**
送信表示が2回点滅し、マクロ登録モードになります。

3 **登録したい [MACRO]（1～3）を押す。**

4 **登録させたい操作ボタンを操作順に続けて押す。**
ボタンを押すと、送信表示が点灯します。
【例】 **[POWER ON]** を押す。
↓
デバイスボタン ⇨ **[DVD/HDP]** を押す。
↓
[▶] を押す。

※ **デバイスボタン**を押すと、モードを切り替えることができます。
※ 登録させたいすべてのボタンの登録をおこないます。

5 **[RC SETUP] を３秒以上長押しする。**
送信表示が2回点滅し、設定が終了します。

ご注意

ゾーン 2、ゾーン 3、ゾーン 4 およびマクロモードには登録できません。

呼び出す

1 **[MAIN] を押して、“MACRO”を選ぶ。**

2 **登録した [MACRO]（1～3）を押す。**
登録した信号を連続して送信します。

パンチスルー機能

TV モードおよび SAT/CBL モードの空きボタンに、DVD/HDP（ブルーレイディスクや CD も含む）および VCR/DVR モードのいずれかのボタンを割り当てることができます。
例えば、TV モードに DVD モードのボタンを割り当てると、TV モードのまま DVD の操作ができます。

1 **[RC SETUP] を３秒以上長押しする。**
送信表示が2回点滅します。

2 **[9]、[8]、[4] の順に押す。**
送信表示が2回点滅し、パンチスルー設定モードになります。

3 **パンチスルーしたい機器（[DVD/HDP]または [VCR/DVR]）の デバイスボタン を押す。**

4 **パンチスルーさせたいボタン（[▶]、[■]、[◀◀]、[▶▶]、[I◀◀]、[▶▶I] または [II]）を押す。**
ボタンを押すたびに、送信表示が1回点灯します。

5 **パンチスルーしたい機器（[TV] または [SAT/CBL]）の デバイスボタン を押す。**

6 **[RC SETUP] を３秒以上長押しする。**
送信表示が2 回点滅し、設定が終了します。

ご注意

パンチスルー機能は、“TV”または“SAT/CBL”のどちらか一方にしか登録できません。“TV”や“SAT/CBL”のプリセット機器によっては、自動的に“DVD/HDP”のパンチスルーが割り当てられます。

バックライトの点灯時間を設定する

1 **[RC SETUP] を３秒以上長押しする。**
送信表示が2回点滅します。

2 **[9]、[7]、[3] の順に押す。**
送信表示が2回点滅し、バックライト点灯時間の設定モードになります。

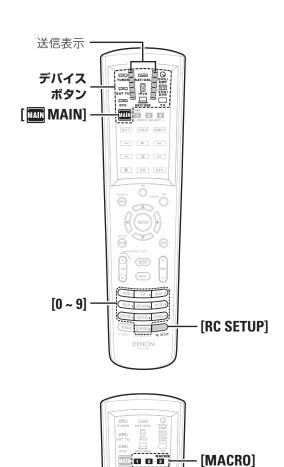
3 **点灯時間を設定する。**
送信表示が2回点滅します。
【点灯時間】 **[1]**：5秒
[2]：10秒（お買い上げ時の設定）
[3]：15秒
[4]：20秒
[5]：25秒

バックライトの明るさを調節する

表示の明るさを 5 段階で調節することができます。
（お買い上げ時の設定：5 段階）

1 **[RC SETUP] を３秒以上長押しする。**
送信表示が2回点滅します。

2 **[CHANNEL +] または [CHANNEL –] を押す。**
[CHANNEL +] を押すと、1段階明るくなります。
[CHANNEL –] を押すと、1段階暗くなります。

3 **[RC SETUP] を押して、設定を終了する。**

リモコンにて使用するゾーンを指定する

デバイスボタンの **[MAIN]** を押したときに、設定したゾーンのみリモコンで操作できます。

1 **[MAIN]を押して、“MAIN”ゾーン表示を点灯させる。**

2 **[RC SETUP] を３秒以上長押しする。**
送信表示が2回点滅します。

3 **[9]、[9]、[9] の順に押す。**
送信表示が2回点滅し、バックライト点灯時間の設定モードになります。

4 **[1]〜[4] を押して、設定する。**
送信表示が2回点滅します。

【選択できる項目】
[1]：“MAIN” / “MACRO” のみ使用するとき
[2]：“MAIN” / “Z2” / “MACRO” を使用するとき
[3]：“MAIN” / “Z2” / “Z3” / “MACRO” を使用するとき
[4]：“MAIN” / “Z2” / “Z3” / “Z4” / “MACRO” を使用するとき（お買い上げ時の設定）

リモコンを初期化する

学習機能を初期化する

ボタンごとに初期化する

1 **[RC SETUP] を３秒以上長押しする。**
送信表示が2回点滅します。

2 **[9]、[7]、[6] の順に押す。**
送信表示が2回点滅します。

3 **初期化したいボタンを2回押す。**
送信表示が2回点滅します。

機器のモードごとに初期化する

1 **[RC SETUP] を３秒以上長押しする。**
送信表示が2回点滅します。

2 **[9]、[7]、[6] の順に押す。**
送信表示が2回点滅します。

3 **初期化したい機器の デバイスボタン を2回押す。**
送信表示が2回点滅します。

マクロ機能を初期化する

1 **[RC SETUP] を３秒以上長押しする。**
送信表示が2回点滅します。

2 **[9]、[7]、[8] の順に押す。**
送信表示が2回点滅します。

3 **初期化したい [MACRO]（1〜3）を押す。**

4 **[RC SETUP] を３秒以上長押しする。**
送信表示が2回点滅します。

パンチスルー機能を初期化する

1 **[RC SETUP] を３秒以上長押しする。**
送信表示が2回点滅します。

2 **[9]、[8]、[4] の順に押す。**
送信表示が2回点滅します。

3 **[RC SETUP] を３秒以上長押しする。**
送信表示が2回点滅します。

全設定を初期化する

1 **[RC SETUP] を３秒以上長押しする。**
送信表示が2回点滅します。

2 **[9]、[8]、[1] の順に押す。**
送信表示が4 回点滅します。
すべての設定が初期値に戻ります。

その他の情報

用語の解説

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

ドルビーサラウンド

Dolby Digital（ドルビーデジタル）

Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル（FL、FR、C）とサラウンド 2 チャンネル（SL、SR）、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。
このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。
AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital Plus（ドルビーデジタルプラス）

Dolby Digital Plus は、ドルビーデジタルを改良した信号フォーマットで、最大 7.1ch のデジタルディスクリート音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来のドルビーデジタルに対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby TrueHD（ドルビー TrueHD）

Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。
サンプリング周波数とチャンネルも最大 96kHz/7.1ch に対応し、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

Dolby Pro Logic Ⅱ（ドルビープロロジック Ⅱ）

Dolby Pro Logic Ⅱ は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。
CD のような通常の音楽は 5 チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。
サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化（周波数特性 20Hz ～ 20kHz 以上）し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

Dolby Pro Logic Ⅱx（ドルビープロロジック Ⅱx）

Dolby Pro Logic Ⅱx は、Dolby Pro Logic Ⅱ をさらに改良したマトリクスデコード技術です。
2 チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大 7.1 チャンネルの音声を再生できます。
音楽再生に適した“Music”モードと映画再生に適した“Cinema”モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な“Game”モードがあります。

Dolby Digital EX（ドルビーデジタル EX）

Dolby Digital EX は、ドルビー研究所とルーカスフィルム社が共同で開発した音響フォーマット“DOLBY DIGITAL SURROUND EX”を、家庭で楽しむためにドルビー研究所が提案した 6.1ch のサラウンドフォーマットです。
サラウンドバックチャンネルを含めた 6.1ch での音場再生により、空間表現力、定位感が向上します。

Dolby Pro Logic Ⅱz（ドルビープロロジック Ⅱz）

Dolby Pro Logic Ⅱz は、ソースに収録されている高いところで鳴っている「空間的な手がかり」を持った音響成分から、フロント・ハイトチャンネル信号を生成し出力するデコード技術です。2 チャンネルソースや 7.1/5.1 マルチチャンネルソースなどのあらゆるソースに対応します。
リスニング空間の前方上の左右にハイトスピーカーを加えることで、映画 / 音楽 / ゲームなどの再生により一層の空間の広がり感や奥行き感をお楽しみいただけます。
フロントハイトスピーカーは本棚などに設置できますので、サラウンドバックスピーカーのようにフロアスペースを使わずに、より簡単に理想的なサラウンド環境をつくることができます。

DTS サラウンド

DTS Digital Surround

DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1ch のデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1ch のデジタルディスクリート音声に対応しています。余裕あるデータビットレートによって高音質化を図るとともに、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1ch のデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-HD Master Audio

DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットで、最大 96kHz/7.1ch に対応し、さらにロスレス音声符号化技術によってマスター音声の忠実な再現を可能としています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1ch のデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-ES™ Discrete 6.1

DTS-ES™ Discrete 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えて SB チャンネルを追加した 6.1ch のデジタルディスクリート音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1ch 音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1

DTS-ES™ Matrix 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に SB チャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1ch 音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1ch 音声としてデコードすることも可能です。

DTS NEO:6™ Surround

DTS NEO:6™ は、2 チャンネルソースを 6.1 チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した「DTS NEO:6 Cinema」と、音楽再生に適した「DTS NEO:6 Music」があります。

DTS 96/24

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/ 量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1ch となります。

DTS Express

DTS Express は、最大 5.1ch の 24kbps ～ 256kbps までのロービットレートをサポートする音声フォーマットです。

Audyssey

Audyssey MultEQ® XT

Audyssey MultEQ XT は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。MultEQ XT は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

Audyssey Dynamic EQ™

Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、ボリュームレベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ XT 技術と連動することによりすべてのボリュームレベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume™

Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内におけるボリュームレベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みのボリューム設定値に自動的に調整する技術です。
また、Dynamic Volume は Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことによりボリュームレベルの調整時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

Audyssey Dynamic Surround Expansion™ (DSX)

臨場感のあるサラウンドシステムの構築はオーディオシステムがどのように人間の聴覚特性に適した環境を再現するかという再現能力に依存しています。現在考えられる３つの重要な要素は（1）周波数特性、（2）ダイナミックレンジ、（3）正確な空間の再現があげられます。（1）周波数特性については既に人間の聴覚特性を超えているような高いサンプリングレート（96kHz や 192kHz など）で実現されており、（2）のダイナミックレンジについても 120dB に達するような信号レベルを再生させるオーディオシステムで実現されています。しかし、（3）正確な空間の再現については既存の 5.1ch システムによって実現している環境では人間の聴覚特性の限界にはまだ到達しておらず、リスナーはまだまだ多くのオーディオ信号の指向性を感じることが可能です。
Audyssey DSX はこれまでの 5.1ch サラウンドフォーマットで限界だと思われていた空間再現能力の限界を打ち破るべく開発されました。
ITU による 5.1ch 規格では 3 つのフロントスピーカーと 2 つのリアスピーカーの設置を推奨しています。フロント（L/R）スピーカーはそれぞれ視聴ポイントから見て± 30°の位置に、センター（C）スピーカーは± 0°の位置に、サラウンド（LS/RS）スピーカーはリスニングポイントから見て± 100 ～ 120°の間に設置されることが推奨されています。このようなすべてのスピーカーはリスニングポイントから等距離に配置されるか、もし等距離が不可能な場合はタイムディレイ（時間遅延）によって相殺されるような配置に設置されなければならないとされています。また低周波数帯域に対する効果（LFE）は低域成分を再現するチャンネルとしてサブウーハーが使用されます。

2ch のステレオシステムと比較すると 5.1ch のサラウンドシステムでは確実にサラウンド環境は高まります。例えば前方を流れるように行き来するような信号やリスナーの背面に対する効果音などを作り出すことにおいて十分効果を生み出しています。しかし 5.1ch システムはリスナーを違和感なく包み込むような音場・サラウンド空間を作り出す為に必要とされる反射信号を生み出すには不十分なシステムです。残念ながら既に利用されているサラウンドバックを追加したような 7.1ch のシステムは正しい位置にスピーカーが配置されておらず、サラウンド空間を聴覚特性を生かした上で十分に向上させているシステムとは言えません。
DSX がチャンネルを追加すると言っても特別なエフェクトや疑似的効果をかけるようなものではありません。正確な臨場感のあるサラウンド空間の構築には直接耳に入る音声信号の流れと間接的に耳に入る信号の流れの２つが必要となります。壁などへの反射を経由して耳に届く音声信号は、直接耳に入った後に伝達しサラウンド空間に広さと奥行きを実現する為に非常に重要な役割を担っています。また、5.1ch が作り出すサラウンド空間・効果よりも更に大きな効果を生み出す為には、追加されたサラウンドチャンネルが耳に入る際のオーディオ信号の流れや耳への信号到達時間、正確な周波数特性の制御が重要です。
横（ワイド）方向のオーディオ信号源に対する聴覚特性の研究において、サラウンド空間の横（ワイド）方向への広がりやサラウンド空間そのものに広がりを認知する力と反射信号には強いつながりがあることが分かっており、最も重要な信号は± 60°で横の壁などから作りだされる反射信号です。Audyssey DSX はこの± 60°の場所にワイドチャンネル（LW/RW）を作り出し、リスニングに必要とされる正しい聴覚特性への補正と周波数補正を併せ持ちます。事実として、このワイドチャンネルはより臨場感のあるサラウンド空間を実現する上で 7.1ch システムの持つサラウンドバックチャンネルよりも非常に重要な要素です。
包み込まれるようなサラウンド空間を作る為には 7.1ch システムではサラウンドバックの代わりにワイドチャンネルを使用したシステムの方がはるかに効果的です。サラウンド空間を作る上では、リスナーの背面にサラウンドチャンネルを追加することによる効果は、ワイドチャンネルによって生み出される効果よりもずっと小さなものです。

この横方向からの信号の次に重要な要素は前方の上方向（高さ方向）から届く聴覚信号です。
DSX はリスニングポイントから水平方向± 45°の位置で、さらに垂直方向に 45°の角度をつけたハイトチャンネル（LH/RH）を作り出します。
また、DSX は今まで述べた最適なサラウンド空間を作り出す際に既存のサラウンドに対しても効果を高める”サラウンドプロセッシング”を行います。DSX の”サラウンドプロセッシング " はサラウンドシステムで使用されるそれぞれのスピーカーの関連性や、サラウンド空間に対する聴覚特性を高める為、周波数特性・タイムドメイン（時間軸）の観点から補正を行う処理です。Audyssey DSX はユーザーが本当に求める今までにないサラウンド環境を生み出す新しい技術です。
まとめとして、サラウンド空間・環境をより高める為には 1 番重要な点はワイドチャンネルを追加することであり、次にハイトチャンネルを追加することです。ワイドチャンネル・ハイトチャンネルそれぞれを追加することが実現可能であればサラウンド空間は今までに感じたことのないくらい高められます。DSX は 5.1ch 以上のシステムを作ることが出来るスピーカーシステムをお持ちであれば今まで以上のサラウンド空間を作り出すことが可能です。

AUDYSSEY MULTEQ XT DYNAMIC VOLUME

本機は、Audyssey Laboratories からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ™、Audyssey Dynamic Volume™ および Audyssey Dynamic Surround Expansion™ は、Audyssey Laboratories の商標です。

HDCD® デコーダー

HDCD® は、従来の CD フォーマットとの互換性を保ちながら、デジタルレコーディング時に起こる歪みを大幅に低減するエンコーディング・デコーディング技術で、ダイナミックレンジの拡大とハイレゾリューションを実現できます。
通常の CD と HDCD 対応 CD とを自動的に判別して、それぞれに適応したデジタル処理をおこなっています。

HDCD ®、HDCD®、High Definition Compatible Digital® および Microsoft® は、米国内や他の国におけるマイクロソフト社の登録商標または商標です。HDCD システムはマイクロソフト社からのライセンスに基づき製造されています。この製品は下記の 1 つ以上の特許によって保護されています。米国内：5,479,168、5,638,074、5,640,161、5,808,574、5,838,274、5,854,600、5,864,311、5,872,531。オーストラリア国内：669114。その他の特許は出願中。

DENON LINK

DENON LINK は、高速伝送素子を用いたバランス伝送タイプのデジタルリンクであり、専用端子を持った DENON の DVD プレーヤーと 1 本の専用ケーブルで接続することで、信号劣化の少ない高速・高品位なデジタルオーディオ伝送を可能にし、高音質再生を実現する DENON 独自のデジタルインターフェースです。DVD オーディオの 192kHz/24bit の 2ch デジタル信号や PCM によるマルチチャンネル信号などのデジタル伝送を実現します。また、DENON LINK 3rd Edition 搭載のプレーヤーを接続することにより、スーパーオーディオ CD のオーディオコンテンツをフルスペックでデジタル伝送することが可能です。
DENON LINK の処理中は、ディスプレイの“D.LINK”表示が点灯します。
DENON LINK 4th では、BD 再生時に DENON LINK 接続した AV アンプのクロックを使用したジッターの少ない HDMI 伝送が可能です。

AL24 Processing Plus

本機では、全チャンネルに採用しています。
AL24 Processing Plus は、DVD 規格の最高スペックであるサンプリング周波数 192kHz にも対応するアナログ波形再現技術で、その音が自然界に存在したはずのアナログ波形に近付け、ホールに吸込まれるような残響音などの小音量時の音楽再生能力を高めます。
本機では、全チャンネルに採用しています。

ネットワークについて

Windows Media Player Ver.11

マイクロソフト社が無料で提供しているメディアプレーヤーです。
Windows Media Player ver.11 で作成されたプレイリストや WMA、DRM WMA、MP3、WAV ファイルなどが再生可能です。

vTuner

インターネットラジオの有料オンラインコンテンツサービスです。
本サービスに関するお問い合せは、下記 vTuner のサイトまでお願い致します。
vTuner ホームページ：http://www.radiodenon.com

本製品は、Nothing Else Matters Software and BridgeCo の知的財産権により保護されています。当該技術の本製品以外での使用または配布は、Nothing Else Matters Softwareand BridgeCo の許諾がない限り禁止されています。

DLNA

- DLNA および DLNA CERTIFIED は Digital Living Network Alliance(デジタルリビングネットワークアライアンス) の商標 / サービスマークです。
- コンテンツには DLNA CERTIFIED™ 製品と適合しないものがある可能性があります。

Windows Media DRM

マイクロソフト社が開発した著作権保護技術です。
コンテンツプロバイダーは、自らのコンテンツ（“セキュアコンテンツ”）の完全性を保護するために、本デバイス（“WM-DRM”）に内蔵された Windows Media 用デジタル権管理技術を使用し、当該コンテンツに対する自らの知的財産権（著作権を含む）が悪用されないようにしています。
本デバイスは、セキュアコンテンツを再生するため、WM-DRM ソフトウェア（“WM-DRM ソフトウェア”）を使用しています。本デバイス内の WM-DRM ソフトウェアのセキュリティがあやうくなった場合、セキュアコンテンツの所有者（“セキュアコンテンツオーナー”）は、マイクロソフト社が、セキュアコンテンツをコピー・表示・再生する新たなライセンスを得る WM-DRM ソフトウェアの権利を取り消すよう要請することができます。この取り消しは、保護されていないコンテンツを再生する WM-DRM ソフトウェアの能力には影響がありません。インターネットまたはパソコンからセキュアコンテンツのライセンスをダウンロードするときはいつも、取り消された WM-DRM ソフトウェアのリストがデバイスに送られます。マイクロソフト社は、セキュアコンテンツオーナーに代わって、当該ライセンスとともに、取り消された WM-DRM ソフトウェアのリストをデバイスにダウンロードすることができます。

MPEG-2 AAC について

MPEG-2　AAC（Advanced Audio Coding） は、MPEG（Moving Picture Experts Group）により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。
高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。
MPEG-2　AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

❑ MPEG-2　AAC のスペック（概要）

- アルゴリズム：MAINプロファイル
  LC（Low Complexity）プロファイル
  SSR（Scalable Sampling Rate）プロファイル
- サンプリング周波数：
  8kHzから96kHzまで対応
- チャンネル数：最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- その他の機能：LFE（Low Frequency Effect）サポート
  マルチリンガル（複数言語）サポート

❑ 米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

サラウンド

サラウンドモードとパラメーター一覧表

サラウンドモード	信号と調節可能なモード															
	チャンネル出力							パラメーター　※（　）内は初期値								
	フロント 左 / 右	センター	サラウンド 左 / 右	サラウンド バック 左 / 右	サブ ウーハー	フロントワイド 左 / 右	フロントハイト 左 / 右	ダイナミック レンジ圧縮 *1	DRC *2	LFE *3	AFDM *3	サラウンド バック	シネマ EQ.	モード	ルームサイズ	エフェクト レベル
PURE DIRECT, DIRECT (2ch)	○	×	×	×	◎*4	×	×	○（オフ）	○（オート）	○ (0 dB)	×	×	×	×	×	×
DSD DIRECT	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DSD MULTI DIRECT	○	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	○ (0 dB)	×	○	×	×	×	×
MULTI CH DIRECT	○	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	○ (0 dB)	○（オン）	○	×	×	×	×
STEREO	○	×	×	×	◎	×	×	○（オフ）	○（オート）	○ (0 dB)	×	×	×	×	×	×
EXT. IN	○	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	◎	◎（注4）	◎（注4）	×	×	○ (0 dB)	○（オン）	○	○（オフ）	×	×	×
WIDE SCREEN	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○ (0 dB)	×	○	○（オフ）	×	×	○（オン, 10）
DOLBY PRO LOGIC IIz	○	◎	◎	×	◎	×	◎	○（オフ）	○（オート）	×	×	×	○（オフ）	○ (Height)	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	◎	◎	◎	◎	×	×	○（オフ）	○（オート）	×	×	○	○（注1）	○ (Cinema)	×	×
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎	×	◎	◎（注4）	◎（注4）	○（オフ）	○（オート）	×	×	○	○（注2）	○ (Cinema)	×	×
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎	◎	◎（注4）	◎（注4）	○（オフ）	○（オート）	×	×	○	○（注1）	○ (Cinema)	×	×
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎	◎（注4）	◎（注3）	○（オフ）	×	○ (0 dB)	○（オン）	○	○（オフ）	×	×	×
DOLBY DIGITAL Plus	○	◎	◎	◎	◎	◎（注4）	◎（注3）	○（オフ）	×	○ (0 dB)	○（オン）	○	○（オフ）	×	×	×
DOLBY TrueHD	○	◎	◎	◎	◎	◎（注4）	◎（注3）	×	○（オート）	○ (0 dB)	○（オン）	○	○（オフ）	×	×	×
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎	◎（注4）	◎（注3）	○（オフ）	×	○ (0 dB)	○（オン）	○	○（オフ）	×	×	×
DTS 96/24	○	◎	◎	◎	◎	◎（注4）	◎（注3）	○（オフ）	×	○ (0 dB)	○（オン）	○	○（オフ）	×	×	×
DTS-HD	○	◎	◎	◎	◎	◎（注4）	◎（注3）	○（オフ）	×	○ (0 dB)	○（オン）	○	○（オフ）	×	×	×
DTS EXPRESS	○	◎	◎	◎	◎	◎（注4）	◎（注3）	○（オフ）	×	○ (0 dB)	○（オン）	○	○（オフ）	×	×	×
7CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○ (0 dB)	×	○	×	×	×	×
SUPER STADIUM	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○ (0 dB)	×	○	×	×	○（標準）	○ (10)
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○ (0 dB)	×	○	×	×	○（標準）	○ (10)
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○ (0 dB)	×	○	×	×	○（標準）	○ (10)
CLASSIC CONCERT	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○ (0 dB)	×	○	×	×	○（標準）	○ (10)
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○ (0 dB)	×	○	×	×	○（標準）	○ (10)
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○ (0 dB)	×	○	×	×	○（標準）	○ (10)
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○（オフ）	○（オート）	○ (0 dB)	×	○	×	×	×	×
VIRTUAL	○	×	×	×	◎	×	×	○（オフ）	○（オート）	○ (0 dB)	×	×	×	×	×	×

○：信号有り / 制御可能
×：信号無し / 制御不可能
◎：スピーカー有り無しの設定により、オン / オフ可能
注 1 :“モード”の設定が“Cinema”のときに選べます（☞72 ページ）。
注 2 :“モード”の設定が“Cinema”または“Pro Logic”のときに選べます（☞72 ページ）。
注 3 :“フロントハイト”または“DSX”の設定が“オン”のときに選べます（☞73、76 ページ）。
注 4 :“DSX”の設定が“オン”のときに選べます（☞76 ページ）。

ご注意

*1 : ドルビーデジタルおよびDTS信号再生時
*2 : ドルビーTrueHD信号再生時
*3 : ドルビーデジタル、DTS、DVDオーディオおよびスーパーオーディオCD再生時
*4 :“サブウーハーモード”の設定が“LFE+メイン”のときのみ（☞39ページ）。

サラウンド

サラウンドモード	信号と調節可能なモード													
	パラメーター　※（　）内は初期値													
	ディレイタイム	サブウーハー	フロントハイト	PRO LOGIC II/IIx MUSIC モードのみ			NEO:6 MUSIC モードのみ	EXT. IN のみ	トーンコントロール	MultEQ XT	Dynamic EQ	Dynamic Volume	RESTORER	DSX
				パノラマ	ディメンション	センター幅	センターイメージ	サブウーハーアッテネーター						
PURE DIRECT, DIRECT (2ch)	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DSD DIRECT	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DSD MULTI DIRECT	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI CH DIRECT	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
STEREO	×	×	×	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	○	×
EXT. IN	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
MULTI CH IN	×	×	○	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	×	○
WIDE SCREEN	×	×	×	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	○	×
DOLBY PRO LOGIC IIz	×	×	○	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	○	×
DOLBY PRO LOGIC IIx	×	×	○	○（オフ）	○ (3)	○ (3)	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	○	×
DOLBY PRO LOGIC II	×	×	○	○（オフ）	○ (3)	○ (3)	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	○	○
DTS NEO:6	×	×	×	×	×	×	○ (0.3)	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	○	○
DOLBY DIGITAL	×	×	○	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	×	○
DOLBY DIGITAL Plus	×	×	○	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	×	○
DOLBY TrueHD	×	×	○	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	×	○
DTS SURROUND	×	×	○	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	×	○
DTS 96/24	×	×	○	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	×	○
DTS-HD	×	×	○	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	×	○
DTS EXPRESS	×	×	○	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	×	○
7CH STEREO	×	×	×	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	○	×
SUPER STADIUM	×	×	×	×	×	×	×	×	○（注5）	○（オフ）	○	○	○	×
ROCK ARENA	×	×	×	×	×	×	×	×	○（注4）	○（オフ）	○	○	○	×
JAZZ CLUB	×	×	×	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	○	×
CLASSIC CONCERT	×	×	×	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	○	×
MONO MOVIE	×	×	×	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	○	×
VIDEO GAME	×	×	×	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	○	×
MATRIX	○ (30 ms)	×	×	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	○	×
VIRTUAL	×	×	×	×	×	×	×	×	○（オフ）	○（オフ）	○	○	○	×

○：信号有り / 制御可能
×：信号無し / 制御不可能
注 5：低音 +6dB、高音 0dB
注 6：低音 +6dB、高音 +4dB

入力信号に対するサラウンドモード表示

ボタン / サラウンドモード	注	入力信号																				
					DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL					MULTI CH PCM		スーパーオーディオ CD	
		アナログ	リニア PCM / WAV	WMA (Windows Media Audio) / MP3 / MPEG-4 AAC / FLAC	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	PCM（マルチチャンネル）	PCM (2ch)	DSD（マルチチャンネル）	DSD (2ch)
STANDARD																						
DTS SURROUND																						
DTS-HD MSTR		×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS-HD HI RES		×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS ES DSCRT6.1	*1	×	×	×	×	×	×	● ◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS ES MTRX6.1	*1	×	×	×	×	×	×	×	● ◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS SURROUND		×	×	×	×	×	×	○	○	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS 96/24		×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + PLIIz HEIGHT	*3	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS EXPRESS		×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS (–HD) + NEO:6	*1	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS NEO:6 CINEMA		○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	○
DTS NEO:6 MUSIC		○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	○
DOLBY SURROUND																						
DOLBY TrueHD		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL+		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL EX	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×
DOLBY (D+) (HD) +EX	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	●	●	●	×	×	×	×	×
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	● ◎	○	○	○	×	×	×	×	×
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIz HEIGHT	*3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIz HEIGHT	*3	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	○
DOLBY PRO LOGIC IIx CINEMA	*2	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	○
DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC	*1	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	○
DOLBY PRO LOGIC IIx GAME	*1	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	○
DOLBY PRO LOGIC II CINEMA		○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	○
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC		○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	○
DOLBY PRO LOGIC II GAME		○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	○
DOLBY PRO LOGIC		○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	○

注：
*1: サラウンドバックスピーカーを“無し”に設定している場合は、選択できません。
*2: サラウンドバックスピーカーを“1 台”または“無し”に設定している場合は、選択できません。
*3: フロントハイトスピーカーを“無し”に設定している場合は、選択できません。

●：初期状態で選ばれるモード
◎：“AFDM”が“オン”に設定されているときに固定されるモード
○：選択可能なモード
×：選択不可能なモード

サラウンド

ボタン	注	入力信号																				
					DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL					MULTI CH PCM		スーパーオーディオ CD	
サラウンドモード		アナログ	リニアPCM / WAV	WMA (Windows Media Audio) / MP3 / MPEG-4 AAC / FLAC	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	PCM（マルチチャンネル）	PCM (2ch)	DSD（マルチチャンネル）	DSD (2ch)
STANDARD																						
MULTI CH IN																						
MULTI CH IN		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	●	×
MULTI IN + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
MULTI IN + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
MULTI IN + PLIIz HEIGHT	*3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
MULTI IN + DOLBY EX	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
MULTI CH IN 7.1	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	● ◎ (7.1)	×	×	×
DIRECT																						
DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○
DSD DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
DSD MULTI DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
MULTI CH DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
M DIRECT + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
M DIRECT + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
M DIRECT + DOLBY EX	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
M DIRECT 7.1	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (7.1)	×	×	×
PURE DIRECT																						
PURE DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○
DSD PURE DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
DSD MULTI PURE DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
MULTI CH PURE DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
M PURE D + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
M PURE D + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
M PURE D + DOLBY EX	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×
M CH PURE DIRECT 7.1	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (7.1)	×	×	×

注：
*1: サラウンドバックスピーカーを“無し”に設定している場合は、選択できません。
*2: サラウンドバックスピーカーを“1 台”または“無し”に設定している場合は、選択できません。
*3: フロントハイトスピーカーを“無し”に設定している場合は、選択できません。

●： 初期状態で選ばれるモード
○： 選択可能なモード
×： 選択不可能なモード

ボタン	注	入力信号																				
サラウンドモード					DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL					MULTI CH PCM		スーパーオーディオ CD	
		アナログ	リニア PCM / WAV	WMA (Windows Media Audio) / MP3 / MPEG-4 AAC / FLAC	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	PCM（マルチチャンネル）	PCM (2ch)	DSD（マルチチャンネル）	DSD (2ch)
DSP SIMULATION																						
7CH STEREO	*4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
WIDE SCREEN		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
SUPER STADIUM		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ROCK ARENA		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
JAZZ CLUB		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
CLASSIC CONCERT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MONO MOVIE		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
VIDEO GAME		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MATRIX		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
VIRTUAL		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
STEREO																						
STEREO		●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	●	○	●

注：
*4：サラウンドバック、フロントワイドおよびフロントハイトスピーカーを“無し”に設定している場合は、“5CH STEREO”を表示します。

映像信号とモニター出力の関係

メインゾーンモニター出力												
ビデオコンバート	入力信号				出力信号				GUIメニュー表示			
	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO
オン/オフ	×	×	×	×	×	×	×	×	GUIメニュー表示のみ			
オン	×	×	×	○	VIDEO	VIDEO	VIDEO	VIDEO	○(VIDEO)	○(VIDEO)	○(VIDEO)	○(VIDEO)
オン	×	×	○	×	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	○(S-VIDEO)	○(S-VIDEO)	○(S-VIDEO)	○(S-VIDEO)
オン	×	×	○	○								
オン	×	○ (1080p)	×	×	COMPONENT	COMPONENT	×	×	○(COMPONENT)	×(COMPONENT) ＊2	× ＊2	× ＊2
オン	×	○ (1080i～480p)	×	×						○(COMPONENT)	×	×
オン	×	○ (480i/576i)	×	×			COMPONENT	COMPONENT			○(COMPONENT)	○(COMPONENT)
オン	×	○ (1080p)	×	○			×	VIDEO		×(COMPONENT)	×	×(VIDEO)
オン ＊1	×	○ (1080p)	×	○			VIDEO		×	○(VIDEO)	○(VIDEO)	○(VIDEO)
オン	×	○ (1080i～480p)	×	○			×		○(COMPONENT)	○(COMPONENT)	×	×(VIDEO)
オン	×	○ (480i/576i)	×	○			COMPONENT	COMPONENT			○(COMPONENT)	○(COMPONENT)
オン	×	○ (1080p)	○	×			S-VIDEO	S-VIDEO		×(COMPONENT)	×(S-VIDEO)	×(S-VIDEO)
オン ＊1	×	○ (1080p)	○	×					×	○(S-VIDEO)	○(S-VIDEO)	○(S-VIDEO)
オン	×	○ (1080i～480p)	○	×					○(COMPONENT)	○(COMPONENT)	×(S-VIDEO)	×(S-VIDEO)
オン	×	○ (480i/576i)	○	×			COMPONENT	COMPONENT			○(COMPONENT)	○(COMPONENT)
オン	×	○ (1080p)	○	○			S-VIDEO	S-VIDEO		×(COMPONENT)	×(S-VIDEO)	×(S-VIDEO)
オン ＊1	×	○ (1080p)	○	○					×	○(S-VIDEO)	○(S-VIDEO)	○(S-VIDEO)
オン	×	○ (1080i～480p)	○	○					○(COMPONENT)	○(COMPONENT)	×(S-VIDEO)	×(S-VIDEO)
オン	×	○ (480i/576i)	○	○			COMPONENT	COMPONENT			○(COMPONENT)	○(COMPONENT)
オン	○	×	×	×	HDMI	×	×	×	○(HDMI)	× ＊2	× ＊2	× ＊2
オン	○	×	×	○				VIDEO				×(VIDEO) ＊2
オン	○	×	○	×			S-VIDEO	S-VIDEO			×(S-VIDEO) ＊2	×(S-VIDEO) ＊2
オン	○	×	○	○								
オン	○	○	×	×		COMPONENT	×	×		×(COMPONENT) ＊2	× ＊2	× ＊2
オン	○	○	×	○				VIDEO				×(VIDEO) ＊2
オン	○	○	○	×			S-VIDEO	S-VIDEO			×(S-VIDEO) ＊2	×(S-VIDEO) ＊2
オン	○	○	○	○								
オフ	×	×	×	○	×	×	×	VIDEO	GUIメニュー表示のみ			
オフ	×	×	○	×			S-VIDEO	×				
オフ	×	×	○	○				VIDEO				
オフ	×	○	×	×		COMPONENT	×	×				
オフ	×	○	×	○				VIDEO				
オフ	×	○	○	×			S-VIDEO	×				
オフ	×	○	○	○				VIDEO				
オフ	○	×	×	×	HDMI	×	×	×				
オフ	○	×	×	○				VIDEO				
オフ	○	×	○	×			S-VIDEO	×				
オフ	○	×	○	○				VIDEO				
オフ	○	○	×	×		COMPONENT	×	×				
オフ	○	○	×	○				VIDEO				
オフ	○	○	○	×			S-VIDEO	×				
オフ	○	○	○	○				VIDEO				

○：映像入力あり
×：映像入力なし
＊1：HDMI モニターが接続されていないか、HDMI モニターの電源が入っていないとき

○ ( )：( ) 内の映像にスーパーインポーズ
× ( )：( ) 内の映像のみ出力
×　：映像、メニューともに出力なし
＊2　：HDMI モニターが接続されていないか、HDMI モニターの電源が入っていないときに、GUI メニューのみ表示されます。

ゾーン2モニター出力			
入力		出力	オンスクリーンディスプレイ
S-VIDEO	VIDEO	VIDEO	
×	×	×	OSDメニュー表示のみ
×	○	VIDEO	○(VIDEO)
○	×	S-VIDEO	○(S-VIDEO)
○	○	S-VIDEO	○(S-VIDEO)

○ ( )：( ) 内の映像にスーパーインポーズ

x.v.Color 信号およびコンピューター解像度（例：VGA）が入力された場合は、GUI をスーパーインポーズできません。

故障かな？と思ったら

❏ **各接続は正しいですか**
❏ **取扱説明書に従って正しく操作していますか**
❏ **スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか**

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、弊社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【共通】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
本機が正常に動作しない。	• マイコンを初期化してください。	112
電源が入らない。 または、入れてもすぐに切れる。	• 本機のリアパネルおよび電源コンセントへの電源プラグの差し込みを確認してください。	27
スピーカーから音が出ない。	• 入力機器との接続またはスピーカーケーブルの接続を確認してください。 • 再生機器との接続を確認し、適切な入力ソースを選んでください。 • 主音量を適切な大きさに調節してください。 • 消音（ミューティング）モードを解除してください。 • ヘッドホンを外してください。ヘッドホンを接続していると、スピーカーやプリアウト端子から音が出なくなります。 • 接続を確認し、デジタル入力を設定した入力ソースを選んでください。 • デジタル入力端子が割り当てられている端子と入力モードを合わせてください。	16 ～ 26 18 ～ 26, 30 67 67 67 53, 54 56
ディスプレイの表示が消える。	• “ディスプレイの明るさ”を“消灯”以外の設定にしてください。 • PURE DIRECT モードを解除してください。PURE DIRECT モード中、ディスプレイは消灯します。	50 71
ディスプレイが“DOLBY DIGITAL”の表示にならない。	• ブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーの音声出力の設定を確認してください。詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーの取扱説明書をお読みください。	–
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 機器内部の温度上昇により、保護回路が働いています。一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。 • 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	– –
本機をご使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 指定されたインピーダンスのスピーカーを使用してください。 • スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路が働いています。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどした後で、もう一度接続し直してください。	16 16
電源を入れても、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 本機のアンプ回路が故障しています。電源を切り、弊社の修理相談窓口までご連絡ください。	–

【リモコン】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
リモコンを操作しても、正常に動作しない。	• 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。 • リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。 • 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。 • 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。 • 本機のリモコン受光部に強い光（直射日光、インバーター式蛍光灯の光など）が当たっています。受光部に強い光が当たらない場所に設置してください。 • 本体とリモコンのリモコン ID を合わせてください。本体とリモコンの ID が合っていない場合は、リモコンを操作したときに、本機のディスプレイに“AVAMP ＊”（＊ は本体のリモコン ID）が表示されます。 • リモコンのデバイスボタンを正しく設定してください。	6 6 – 6 6 50, 95 10

【iPod】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
iPod が再生できない。	• “iPod dock”を割り当てた端子に接続し、入力ソースを切り替えてください。 • iPod の接続を確認してください。 • iPod 用コントロールドックの AC アダプターをコンセントに挿入してください。AC アダプターを挿入していない場合は、本機と通信することができません。 • USB 端子に iPod をダイレクトに接続してご使用の場合、対応していない iPod があります。	30, 54 19 – 24

【オーディオ】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
センタースピーカーから音が出ない。	• モノラル音源を再生する場合は、“STANDARD”（Dolby/DTS Surround）以外のサラウンドモードを選んでください。	71
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	• サラウンドモードをサラウンド再生用のモードにしてください。	69 ～ 71
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	• サラウンドバックスピーカーのパワーアンプの割り当てが“通常”になっているか確認してください。 • サラウンドバックスピーカーを“無し”以外に設定してください。 • “サラウンドパラメーター”⇨“サラウンドバック”を“オフ”以外に設定してください。 • サラウンドモードをサラウンド再生用のモードにしてください。	38 39 73 69 ～ 71
サブウーハーから音が出ない。	• サブウーハーの電源を入れてください。 • サブウーハーを“有り”に設定してください。 • サブウーハーの接続を確認してください。 • サブウーハーのチャンネルレベルを上げてください。	– 38 16 40
DTS 音声が出力されない。	• ブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーの音声出力の設定を、“ビットストリーム”に設定してください。詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。 • DTS 対応のブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーをお使いください。 • デコードモードを“オート”または“DTS”にしてください。	– – 56
Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声が出力されない。	• HDMI 接続をしてください。 • ブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーの音声出力の設定を、“ビットストリーム”に設定してください。詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤー /DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。 • DTS 対応のブルーレイディスクプレーヤーをお使いください。	18 – –

【ビデオ】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
映像が映らない。	• 本機の映像出力端子とモニターの入力端子の接続を確認してください。 • 本機に接続したモニターの入力端子と入力設定を合わせてください。 • PURE DIRECT モードを解除してください。 • ハイビジョン（1080i/720p）やプログレッシブ映像信号（480p/576p）は、ダウンコンバートされません。プレーヤーをインターレース（480i/576i）の設定にしてください。 • “ビデオセレクト”の設定を確認してください。	18, 19 – 71 – 55
録画ができない。	• REC OUT のビデオ端子にはビデオコンバート機能がありませんので、入力がビデオの場合はビデオケーブルで、S ビデオの場合は S ビデオケーブルで接続してください。	21
DVD から VCR にダビングできない。	• 故障ではありません。ほとんどの映画ソフトには、コピー防止信号が入っているので、ダビングすることはできません。	–
GUI が表示されない。	• “フォーマット”を使用しているモニターのフォーマット（NTSC または PAL）に合わせて設定してください。	49

【HDMI】

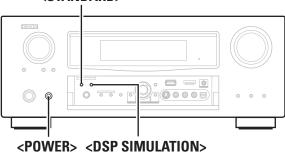
症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
HDMI 音声信号がスピーカーから出力されない。	• HDMI 音声信号をスピーカーから出力するときは、“HDMI 音声出力”の設定を“アンプ”に設定してください。	42
HDMI 接続で映像が映らない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。 • “入力端子の割り当て”で HDMI 端子を割り当てた入力ソースを選んでください。 • 著作権保護（HDCP）に対応したモニターを接続してください。 • 接続されたプレーヤーなどの出力フォーマット（HDMI FORMAT）とモニターの入力対応フォーマットが合っているかを確認してください。 • 接続しているモニターによっては、“オート（デュアル）”に設定すると、正常に表示されない場合があります。このような場合は、“モニター 1”または“モニター 2”を選んでください。	18 30, 53 17 18 42
HDMI 接続しているテレビから音声が出力されない。	• HDMI 音声信号をテレビから出力するときは、“HDMI 音声出力”の設定を“TV”に設定してください。	42
接続機器に以下の操作をすると、本機も同じ動作をする。 • 電源の入 / 切 • 音声を出力する機器の切り替え • 音量の調節 • 入力ソースの切り替え	• “HDMI コントロール”⇨“コントロール”を“オフ”に設定してください。各機器の電源の入 / 切のみを操作したい場合は、“パワーオフコントロール”を“オフ”に設定してください。	42

【NET/USB】

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
USB メモリー接続時、GUI メニュー上に“USB”が表示されない。	• 接続不良などで、本機が USB メモリーを認識できない場合があります。接続を確認してください。 • 本機は、マスストレージクラスまたは MTP 対応の USB メモリーに対応しています。それ以外の USB メモリーは認識できません。 • “USB 端子の選択”で設定した端子に接続してください。 • 本機が認識できないデバイスを接続しています。すべての USB メモリーに対して、動作や電源の供給を保障するものではありません。 • USB ハブを経由した接続はできません。	24 – 57 – –
USB デバイス内のファイルを再生できない。	• USB デバイスのフォーマットが、FAT16 または FAT32 以外のフォーマットです。フォーマットを FAT16 または FAT32 に設定してください。詳しくは、USB デバイスの取扱説明書をご覧ください。 • USB デバイス内が複数のパーティションに別れている場合は、第 1 パーティション以外は再生できません。 • ファイルが対応しているフォーマット以外で記録されています。対応しているフォーマットで記録してください。 • 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。	– – 62 62
ファイル名が“...”など、正しく表示されない。	• 本機で表示できない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。	–
インターネットラジオが再生できない。	• イーサネットケーブルが正しく接続されていないか、ネットワークが切断されています。接続状態を確認してください。 • 対応していないフォーマットで放送されています。本機で再生できるインターネットラジオのフォーマットは MP3 と WMA のみです。 • パソコンまたはルータのファイアウォールがはたらいています。接続しているパソコンまたはルータのファイアウォールの設定を確認してください。 • ラジオステーションが放送を停止しています。放送中のラジオステーションを選んでください。 • IP アドレスが違っています。本機の IP アドレスを確認してください。	26 62 – 63, 64 47

症 状	原 因 / 対 策	関連ページ
パソコンに保存してある音楽ファイルが再生できない。	• ファイルが対応しているフォーマット以外で記録されています。対応しているフォーマットで記録してください。 • 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。 • 本機の USB 端子は、パソコンと接続することはできません。	62 62 –
サーバーが見つからないか、サーバーに接続できない。	• パソコンまたはルータのファイアウォールがはたらいています。接続しているパソコンまたはルータのファイアウォールの設定を確認してください。 • パソコンの電源が入っていません。電源を入れてください。 • サーバーが起動していません。サーバーを起動してください。 • 本機の IP アドレスが正しくありません。本機の IP アドレスを確認してください。	– – – 47
プリセットまたはお気に入りに登録したラジオステーションに接続できない。	• ラジオステーションが放送を休止しています。しばらく時間をおいてやり直してください。 • ラジオステーションがサービスを停止しています。放送中のラジオステーションを選んでください。	– –
“Server Full”または“Connection Down”と表示され、接続できないラジオステーションがある。	• 放送局が混雑しているか、現在放送を休止しています。しばらく時間をおいてやり直してください。	–
再生中に、音が途切れることがある。	• ネットワークの通信速度が遅いか、通信回線またはラジオステーションが混雑しています。ビットレートの高い放送データを再生している場合や、通信の状況によっては、音が途切れることがあります。	–
音質が良くない。または再生中にノイズが入る。	• 再生しているファイルのビットレートが低いです。	–

すべての設定をお買い上げ時の設定に戻す（マイコンの初期化）

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種ボタンの設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。

1 <POWER> を押して電源を切る。

2 <STANDARD> と <DSP SIMULATION> を同時に押しながら <POWER> を押す。

3 ディスプレイの表示が約1秒間隔で点滅したら、2つのボタンから指を離す。

手順 3 でディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅しない場合は、もう一度手順 1 からやり直してください。

保障と修理について

保証書について

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 2 年間です。

❑ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

❑ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

修理を依頼されるとき

❑ 修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 修理を依頼される前に、今一度この取扱説明書の内容をご確認ください。

❑ 修理を依頼されるとき

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名……取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号…保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後８年です。

お客様の個人情報の保護について

この商品の保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

❑オーディオ部

●パワーアンプ部

定格出力：	フロント：	130W ＋ 130W （負荷 8 Ω、20Hz 〜 20kHz T.H.D 0.05%） 170W ＋ 170W （負荷 6 Ω、1kHz、T.H.D 0.7%）
	センター：	130W （負荷 8 Ω、20Hz 〜 20kHz T.H.D 0.05%） 170W （負荷 6 Ω、1kHz、T.H.D 0.7%）
	サラウンド：	130W ＋ 130W （負荷 8 Ω、20Hz 〜 20kHz T.H.D 0.05%） 170W ＋ 170W （負荷 6 Ω、1kHz、T.H.D 0.7%）
	サラウンドバック：	130W ＋ 130W （負荷 8 Ω、20Hz 〜 20kHz T.H.D 0.05%） 170W ＋ 170W （負荷 6 Ω、1kHz、T.H.D 0.7%）
実用最大出力：	190W ＋ 190W（負荷 6 Ω、JEITA）	
ダイナミックパワー：	140W × 2 チャンネル（負荷 8 Ω） 210W × 2 チャンネル（負荷 4 Ω）	
出力端子：	フロント / センター / サラウンドバック：	6 〜 16 Ω
	サラウンド： A または B	6 〜 16 Ω
	A ＋ B	8 〜 16 Ω

●アナログ部

入力感度 / 入力インピーダンス：	200mV/12k Ω（EXT. IN（S/SB/SW）、CD、PHONO、V. AUX を除く） 200mV/47k Ω（EXT. IN（S/SB/SW）、CD、PHONO、V. AUX）
周波数特性：	10Hz 〜 100kHz：＋ 1、－ 3dB（DIRECT モード時）
S/N 比：	102dB（JIS-A）（DIRECT モード時）
ひずみ率	0.005%（20Hz 〜 20kHz）（DIRECT モード時）
定格力	1.2V

●デジタル部

D/A 出力	定格出力：2V（0dB 再生時） 全高調波ひずみ率：0.008%（1kHz、0dB） S/N 比：102dB ダイナミックレンジ：100dB
デジタル入力	フォーマット：デジタルオーディオインターフェース

●フォノ・イコライザー部（PHONO 入力　REC OUT）

入力感度：	2.5mV
RIAA 偏差：	± 1dB（20Hz 〜 20kHz）
S/N 比：	74dB（JIS-A、5mV 入力時）
ひずみ率：	0.03%（1kHz、3V 出力時）
定格出力：	150mV

❑ビデオ部

●標準ビデオ端子

入出力レベル / インピーダンス：	1Vp-p/75 Ω	
周波数特性：	5Hz 〜 10MHz：＋ 0、–3dB（“ビデオコンバート” が “オフ” のとき）	

●S ビデオ端子

入出力レベル / インピーダンス：	Y（輝度）信号：	1Vp-p/75 Ω
	C（色）信号：	0.286Vp-p/75 Ω
周波数特性：	5Hz 〜 10MHz：	＋ 0、–3dB（“ビデオコンバート” が “オフ” のとき）

●コンポーネントビデオ（D）端子

入出力レベル / インピーダンス：	Y（輝度）信号：	1Vp-p/75 Ω
	PB/CB（青色）信号：	0.7Vp-p/75 Ω
	PR/CR（赤色）信号：	0.7Vp-p/75 Ω
周波数特性：	5Hz 〜 100MHz：	＋ 0、–3dB（“ビデオコンバート” が “オフ” のとき）

❑総合

電源：	AC100V　50/60Hz
消費電力：	290W（電気用品安全法による） 0.1W（スタンバイ時）
最大外形寸法：	434（幅）× 171（高さ）× 414（奥行き）mm
質量：	15.8kg

❑リモコン（RC-1116）

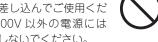
乾電池：	LR6（単 3 形）乾電池 2 本使用
最大外形寸法：	63（幅）× 238（高さ）× 31（奥行き）mm
質量：	190g（乾電池を含む）

※ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

プリセットコード一覧表

ブルーレイディスクプレーヤー

D	Denon	32258
I	Integra	32147
L	LG	30741
M	Marantz	32414
O	Onkyo	32147
P	Panasonic	31641
	Philips	32084, 32434
	Pioneer	30142, 32442
S	Samsung	30199
	Sharp	32250
	Sony	31516

HD DVDプレーヤー

I	Integra	31769
L	LG	30741
M	Microsoft	32083
O	Onkyo	31769
R	RCA	31769
T	Toshiba	31769
X	Xbox	32083

DVDプレーヤー

A	Aiwa	30641
D	Denon	30490,30634,31634,31844,**[32134]***,32258
E	Emerson	30675
F	Funai	30675
H	Hitachi	30664
J	JVC	30623,30867,31164
L	Loewe	30511
M	Microsoft	32083
	Mitsubishi	31521,31403
O	Onkyo	30627,31612
P	Panasonic	30490,31641
	Philips	30539,30646
	Pioneer	30571,30631,31571
S	Samsung	30199
	Sansui	31695
	Sharp	30630,30675
	Sony	30533,30772,31033,31070,31516,31633
	Sylvania	30675
T	Toshiba	30503,31510,31639,31769
V	Victor	31597
X	Xbox	30522,32083
Y	Yamaha	30490

DVDレコーダー

D	Denon	30490
E	Emerson	30675
F	Funai	30675
J	JVC	31164
M	Mitsubishi	31403
P	Panasonic	30490
	Philips	30646
	Pioneer	30631
S	Sharp	30630,30675
	Sony	31516
	Sylvania	30675
T	Toshiba	31639
V	Victor	31597

CDプレーヤー

D	Denon	40873,40766,42867,42868
J	JVC	40072
K	Kenwood	40681,40028,40037,40190
M	Marantz	40157
O	Onkyo	40868,40101
P	Philips	40157
	Pioneer	40032
S	Sharp	40037
	Sony	40490,40000
T	Technics	40029,40303
Y	Yamaha	40036

CDレコーダー

D	Denon	40766

ビデオデッキ

A	Aiwa	20037,20348
D	Denon	20042
F	Fujitsu	20045
	Funai	20593
G	General	20045
H	Hitachi	20037,20042,20089
J	JVC	20067
M	Matsushita	20226
	Microsoft	21972
	Mitsubishi	20043
P	Panasonic	20226,20837,21162
	Philips	20081
S	Sharp	20048
	Sony	20032
T	Tivo	**[20739]***
	Toshiba	20045,20042,21008

デジタル（パーソナル）ビデオレコーダー

T	Toshiba	21008

デジタル（パーソナル）ビデオレコーダー / 衛星チューナーコンビネーション

S	SKY PerfecTV!	02299

テープデッキ

A	Aiwa	20197,20200,21315
D	Denon	20371,21311,22471
H	Harman/Kardon	21314
J	JVC	20244,20273,21309
K	Kenwood	20070,21364
O	Onkyo	20135,20282
P	Panasonic	20229
	Pioneer	21312
S	Sharp	20371
	Sony	20243,20170,21313
T	Teac	20308
	Technics	20229

テレビ

A	Aiwa	11911
B	Byd:sign	11309,12140,12209
D	Dell	11264
	DX Antenna	11817
F	Fujitsu	10809
	Funai	10171,10264,11817,12173
H	Hitachi	10178,10145,13691
J	JVC	10053,10036,10653,11428
M	Mitsubishi	10178,10036,11171,13313
N	NEC	10156,10170,11797
O	Olevia	11610,12124
P	Panasonic	13170
	Philips	10054,10037
	Pioneer	10166,10679,11260,13457,12171
S	Sanyo	11974
	Sharp	10818,11165,11917,13407
	Sony	10000,**[10810]***,13167,11651
T	Toshiba	10156,11169,11971,12203,13311
U	Uniden	12122
V	Victor	10036,10653,11428
	Vizio	12209

テレビ / ビデオデッキコンビネーション

A	Aiwa	11911
S	Sanyo	11974
	Sharp	11917
T	Toshiba	11971
M	Mitsubishi	20043

衛星チューナー（セットトップボックス）

A	Aiwa	01514
D	DirecTV	**[01377]***
	DX Antenna	01530
H	Hitachi	01250,01523,01525
J	JVC	01507,01531
M	Maspro	01530
N	NEC	01519
P	Panasonic	01508,01526,01527
S	SKY PerfecTV!	02299
	Sony	00639,01524
T	Toshiba	01501,01516,01530

ケーブルテレビチューナー（セットトップボックス）

A	Aichi Denshi	01512
D	DX Antenna	01500
F	Fujitsu	01497
M	Maspro	01510
N	NEC	01496
P	Panasonic	01488
	Pioneer	01500
S	Scientific Atlanta	01510
	Sony	01460
	Sumitomo	01500,01504
T	Toshiba	01509

IP TV/HD TV（セットトップボックス）

M	Microsoft	01272,02049
X	Xbox	02049

プリセットコード	32134			30490
DENON 製 DVD プレーヤー	DVD-900 DVD-1000 DVD-1400 DVD-1500 DVD-1710 DVD-1720 DVD-1730 DVD-1740 DVD-1910	DVD-1920 DVD-1930 DVD-1940 DVD-2200 DVD-2800 DVD-2800II DVD-2900 DVD-2910 DVD-2930	DVD-3800 DVD-3910 DVD-3930 DVD-A11 DVD-5000 DVD-A1XV DVD-A1XVA DVD-A1 DVM-3700	DVD-800 DVD-1600 DVD-2000 DVD-2500 DVD-3000 DVD-3300

プリセットコード	32258
DENON 製 ブルーレイディスク プレーヤー	DVD-1800BD DVD-2500BT DVD-3800BD DVD-A1UD

[ ]*: お買い上げ時に設定されているプリセットコードです。

DVD/HDP	DVD プレーヤー DENON **[32134]**
VCR/DVR	ビデオデッキ Tivo **[20739]**
TV	テレビ SONY **[10810]**
SAT/CBL	衛星チューナー（セットトップボックス） DirecTV **[01377]**

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　社　〒210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1
D&M ビル 3F

お客様相談センター　TEL：044-670-5555
【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】
受付時間　9：30～12：00、12：45～17：30
（弊社休日および祝日を除く、月～金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。

購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

Printed in Japan　5411 10339 106D